

同窓会誌

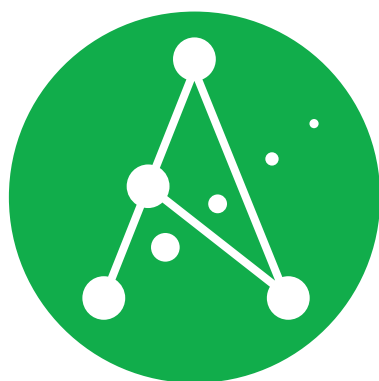


旭川医科大学医学部
医学科同窓会

Asahikawa Medical University
Alumni Association

2024

no.42



旭川医科大学医学部医学科同窓会 Asahikawa Medical University Alumni Association

同窓会シンボルマーク・会旗



旭川医科大学全景

旭川医科大学医学部医学科同窓会主催 第23回医学奨励賞受賞記念講演会及び授賞式

2024年10月8日(火)

旭川医科大学 看護学科棟大講義室



学術奨励賞を受賞された須藤英毅先生



座長の朝井裕一先生



座長の太田勲男先生



特別奨励賞を受賞された渡邊昭仁先生



司会の蒔田芳男副会長



式辞を述べる 藤谷 幹浩 会長



ご祝辞を述べられる 西川 祐司 学長



受賞者を囲んで

■ 巻 頭 言	同窓会長(第11期生) 藤谷 幹浩	1					
■ 大学長挨拶	学 長(第6期生) 西川 祐司	2					
■ 退職にあたって	名誉教授 山本 明美	4					
	名誉教授 川村祐一郎	6					
■ 教授就任にあたって	内科学講座(循環器・腎臓内科学分野) 教授 中川 直樹	7					
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授(第16期生) 高原 幹	9					
	一般教育 心理学 教授 池上 将永	12					
	一般教育 化学 教授 眞山 博幸	34					
■ 支部だより	札幌支部(第14期生) 千葉 篤	15					
	名寄支部 支部長(第6期生) 畑山 尚生	16					
	根釧支部(第7期生) 黒川 聡則	17					
	新潟支部 支部長(第4期生) 本間 則行	18					
	信州支部 支部長(第18期生) 中沢 洋三	20					
■ 第23回医学奨励賞							
推薦理由		21					
学術奨励賞概要	第19期生 須藤 英毅	22					
特別奨励賞概要	第20期生 井原 欣幸	24					
歴代受賞者一覧		26					
■ 各期だより		32					
第1期	32	第7期	50	第19期	68	第33期	81
第2期	37	第11期	54	第20期	69	第36期	83
第3期	39	第13期	59	第23期	74	第38期	85
第4期	42	第16期	61	第27期	76	第39期	88
第5期	45	第17期	64	第30期	78	第40期	89
第6期	47	第18期	66	第32期	80		
■ 討 報							90
■ 事務局だより							
令和6年度 事業報告・令和7年度 事業計画							93
令和6年度 収支決算書							96
令和7年度 収支予算書							97
事務局からのお願い							98
同窓会ホームページについて							98
「ドクター総合補償制度」のご案内と会費納入について							98
通常の会費と終身会費について							99
会費 口座振替払い方法の導入について							99
同窓会事務局への連絡							99
会 員 動 向							100
■ 同 窓 会 歌							102

○ 目次

■ 同窓会会則	103
■ 同窓会医学奨励賞 規約・募集要領	109
■ 海外留学費用助成制度	112
■ 国際・全国学会等主催助成制度	113
■ 役員名簿	114
■ 同窓会支部	115
■ 編集後記	第20期生 沖崎 貴琢 … 116



同窓会の更なる発展を目指して

旭川医科大学医学科同窓会

会長 藤谷 幹 浩

(第11期生)

(内科学講座 消化器内科学分野 教授)

同窓会の皆様、2024年1月から本同窓会の第7代会長になりました11期生の藤谷幹浩です。50年の歴史を持つ本校の同窓会長を務めさせていただけるとのこと、大変光栄に存じます。本会の発展のために全力を尽くしてまいりますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

私は消化器内科医として北海道を中心に様々な病院で勤務してまいりました。その中で、多くの同窓の先輩・後輩に何度も助けられ、同窓会の大切さを身に染みて経験してまいりました。また、本学での学生や若手医師への教育・指導を通じ、「同窓の先輩からいろんなことを学びたい」、「よい医師になるにはどうすればいいか教えて欲しい」、「社会人として生きていく不安について相談したい」という思いを肌で感じてまいりました。今も昔も、同窓会が繋ぐ人間関係の輪は大きな意義を持つものであり、この同窓会の果たすべき役割は今もって非常に大きいことを実感しております。

就任当初、本会の発展へ向けて、以下の重点項目を上げさせて頂きました。

- ① 若手医師を中心とした同窓生のニーズの正しい理解（ニーズ調査など）
- ② 若手コアメンバーの発掘と役員への登用（副会長の若手枠設置など）
- ③ 身近なデジタルツールの有効活用（SNS、アラムナイ業者の活用など）
- ④ 低学年からの医学生へのアプローチ（活動紹介、進路相談、新入会員歓迎会など）
- ⑤ 学会・研究活動への支援強化（海外学会参加支援や研究奨励の拡充）
- ⑥ 大学への教育資材の提供（クラウドファンディングなどによる外部資金を活用）
- ⑦ 同窓生優待イベント開催（コンサート、スポーツ・観光イベント、節目記念品など）
- ⑧ その他（同窓会員ならびに在学生のご要望を反映したいと思います）

これを受けて、2024年の第1回幹事会にて、第30期生の熊井琢美先生に若手枠として執行部に入って頂き、SNS活動の準備を始めて頂きました。今後、ニーズ調査とその実現を目指し、活動を活発化する予定です。また、学会、研究活動として、医学奨励賞の授与と受賞記念講演会を行いました。学術奨励賞につきましては、北海道大学大学院医学研究員脊椎・脊椎先端医学分野 特任教授の須藤英毅先生に、特別奨励賞につきましては恵佑会札幌病院 副院長の渡邊昭仁先生に授与し、それぞれ研究分野のご講演を頂きました。いずれも世界の最先端に行くご研究であり、大変感銘を受けました。両先生、有難うございました。さらに、本同窓会の札幌支部にて講演会を開催し、本学で実施している創薬研究について講演させて頂きました。また、研修医確保の一環として、研修医説明会を開催させていただきました。主に本学6年生を対象として、旭川市内および各地域の中核病院の代表者から各病院の研修医システムや病院の魅力についてプレゼンして頂き、研修医のマッチングを支援いたしました。その他、同窓生が主催する全国学会への支援、医大祭への支援、研修医発表会への支援も行っております。

2025年度は、若手のニーズを正しく把握し、それに応えることができる同窓会を目指して、当初に掲げた具体的な目標を一つ一つ達成して行きたいと思っております。まだまだ始まったばかりの新体制ですが、執行部一丸となって同窓会をより魅力的で有益な組織にしていくため、精一杯頑張りたいと思っております。

ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2024年を振り返って：

旭川医科大学

学長 西川 祐 司

(第6期生)

12月に入り旭川は本学的な冬の気候を迎え、全国のお天気ニュースでも頻繁に取り上げられるようになってきました。旭川医科大学医学科同窓会の皆様におかれましてはお元気にご活躍のことと思います。日頃より同窓会活動に協力いただき、ありがとうございます。

学長就任後2年8か月の間、混迷していた本学のガバナンスの修復に努めてきました。おかげさまで、まだ途半ばとは言え、本学が負った傷もだいぶ癒えてきたように感じております。ただ、これからが本学にとっての正念場であることは間違いありません。少子・高齢化が急激に進んでいく中で、北海道のこの地域に存在する国立医科大学としてどのようにして自らのレベルを上げ、医学・看護学の発展に貢献していくか、そして地域医療をいかに支えていくか、は本当に難しい課題です。これらの課題を解決するにはまず大学としての力を高めなければなりません。空席が多かった教授のポストに優れた方々を選考することができ（就任後18名の新教授が誕生）、本学の教育・研究・診療基盤も充実してきました。本学の存在意義を「社会的インパクト」として明確を示すために、本学は医学科（地域共生医育センター）を中心とする「マルチタスク型地域医療医育成体制の構築」、看護学科（看護職キャリア支援センター）を中心とする「医療的ケア児の支援に向けての旭川モデル」、そして本学として初めて公募して選定した5つの研究課題を推進しています。再出発した本学のこれからは是非ご期待ください。

昨年の開学50周年記念基金に多大なご協力いただき、ありがとうございました。いただいたご寄付を原資にして、老朽化した学生食堂の全面的な改修を来年度に実施する予定です。これまでの同窓生のすべてがお世話になった食堂ですので、名残惜しい気持ちもありますが、改修後は食事時間以外にも学生が集って活用できる多目的スペースとなり、学生も喜んでくれると思います。食堂に隣接している、保健管理センターを含めた福利厚生施設の改修につきましても、国に申請している今年度の施設整備費が認められる可能性が出ており、一緒に進めていければと願っております。

同窓生の皆様にとって最も印象に残る施設の1つは大学と病院をつなぐ渡り廊下、いわゆる「シベリア廊下」かも知れません。私が学生の頃、旭川の冬は今よりもずっと厳しいものでしたが、この廊下には暖房設備がなく、「シベリア街道」と呼ばれていたと記憶しています。実は、現在、この渡り廊下は改修工事中で、来年1月終わり頃にはより快適な廊下に生まれ変わる予定です（教職員の皆様には厳寒期に外を歩いてもらうことになり、申し訳ないのですが・・・）。老朽化した講義実習棟のテラスや臨床講義棟の改修も現在進んでおり、大学の施設環境も次第に改善されてきました。旭川を離れている同窓生の皆様には変わりつつある本学を是非見に来ていただければと思います。

法人化後20年間の運営費交付金減額に加え、この数年の物価高騰、光熱水費高騰、人件費増、さらに今年4月からの医師の働き方改革の本格実施の影響などにより、本学を含めた国立大学および国立大学病院が置かれている財政状況は大変に厳しくなっています。国立大学協会や全国医学部長病院長会議から国に支援の要望を出しているところですが、状況は簡単には好転しそうにありません。本学としても競争的資金の獲得や自治体等との連携による寄附講座設立に努めているところです。また、東病院長を中心として立案した病院改革プランを元に病院機能の向上とともに収益の増加を目指しています。本

学が大切な使命を果たし続けるために最大限の努力する所存です。

このような状況ですので、自助努力による資金集めがこれまでになく重要になっております。今年度から本学でもクラウドファンディングを実施する予定です。先日、研究支援と病院診療についての初のテーマ選定が終わりました。旭川医科大学基金とともにご支援をよろしくお願いいたします。同窓生の本学への愛着を深め、寄付活動をさらに活発化するためには本学からのより積極的な情報発信が必要と考えており、同窓生や在学生を含むさまざまなステークホルダーと本学を結ぶメールマガジンをまもなく導入いたします。皆様方には是非連絡先（メールアドレス）の登録にご協力お願いできれば幸いです。

今年の7月27日にK2西壁未踏ルートで世界的な登山家の平出和也さんと中島健郎さんが滑落死されたという悲しいニュースをご記憶されている方も多いかも知れませんが、本挨拶文を書いた日（12月14日）は、ちょうどお二人のお別れ会が開かれる日でしたが、朝のNHKラジオで生前のお二人に対するインタビューが再放送されました。その中で、数多くの苦難を経験されてきた平出さんが語られていた、「失敗は次へのプロローグ」という簡潔で力強い言葉が心に残りました。厳しい試練を経た本学は逆風が吹く中でも果敢に挑戦し続け、北海道、日本、そして世界で存在感を示す医科大学を目指さなければいけないと思います。今後とも母校への応援をよろしくお願いいたします。



退職と同窓会長退任にあたって

旭川医科大学同窓会 第6代会長
旭川医科大学

名誉教授 山本 明美
(第5期生)

同窓会の皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。私は本学の第5期生として入学し、弓道部に所属、卒業したあとは皮膚科学講座に所属し、2014年に教授職を拝命し2024年3月で教授を退任、現在は非常勤医師としてときどき出勤して皮膚病理診断を担当しています。

また同窓会の活動としては2022年から2023年の2年間、同窓会長を務めました。在任中は国際・全国学会等主催助成制度、新設医科大学同窓会サミット、医学特論優秀発表者への副賞授与、道外施設と学生のマッチング企画、キャリア紹介イベント、同窓会誌のオンライン化を実現することができ自分としては満足しております。これらの活動では同窓会事務局の谷川虎太郎さんに大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。退任後も現在の藤谷幹浩会長を支えるべく、第5期生の常任幹事として貢献してまいります。

また旭川医科大学在職中は17年間、二輪草センターの運営に携わり、母校の男女共同参画に力をいれてまいりました。こちらは新センター長の谷野美智恵先生のもと着実に活動が継続されていることを嬉しく思います。学外の活動としても2017年には日本研究皮膚科学会にダイバーシティを促進する委員会を作ることを提案し、私は初代委員長として男女共同参画事業を推進しました。現在この学会は20人の理事のうち6名が女性です。会員の女性比率は30%前後ですからほぼそれを反映した数値となっており、大変喜ばしいことです。北海道医師会では医師キャリアサポート相談窓口のコーディネーターをつとめ、転職したい方や現在の職場になじめない方の相談に乗っています。これらの活動を評価いただき、2018年には日本女医会の吉岡彌生賞をいただくことができました。

個人的な活動としては2023年に取得したコーチングのコーチ資格を生かし、キャリアコーチとしての活動をすべく、2024年4月からiDREAMCOACHとして起業しました。ウェブサイトも設けましたので一度ご覧いただけますと幸いです。

<https://www.idreamcoach.com/>

ここではコーチングの講演や個人コーチングを受注しています。コーチングに関連する情報発信として週1度のブログと週3回の無料メールマガジンの発行をしています。メールマガジンの購読者は約100名とますますの登録数と思ってます。ときどき読者の方から刺激になったとか、励まされたというお便りをいただいています。どんなことを書いているのか気になった方はぜひ下記から購読を申し込みください。

<https://www.idreamcoach.com/services-2>

皮膚科領域の中では皮膚病理診断学に関する情報をYouTubeチャンネルで発信しています。

<https://www.youtube.com/@ishida-yamamotoakemi4491>

こちらは投稿動画数250本以上、チャンネル登録者1610人となっており、若手の皮膚科医や病理医の皆様にご視聴いただいています。

また医学・医療の分野における女性リーダーを応援する活動として、2022年の3月から始めた

#WeCanLead という任意団体の代表として毎月、オンライン勉強会を開催しています。講師の方には医学界はもとより、他の業界で活躍中の女性リーダーをお呼びしています。製薬会社の執行役員、ジャーナリスト、副知事、コーチ、社会起業家、NPO 法人理事長など、そうそうたる顔ぶれが名を連ねています。活動内容は下記の Facebook page やインスタグラムでご覧いただけます。

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100087308356709>

https://www.instagram.com/wecan_lead/

参加費は無料で平日の 20 時から開催しています。本学の学生さんもとときどき参加して下さっています。興味のあるかたはオンライン勉強会参加のための接続 URL をお送りしますのでご連絡ください。

また、皮膚科学会会員としても学会での招請講演の他、皮膚科学会の公式 YouTube チャンネル向けの動画撮影や、サマースクール、Clinical Dermatology Leadership Seminar などの活動への協力依頼をいただき、忙しくなりすぎない程度に刺激がある日々を送っています。

大学で長く勤務していた医師の退職後の働き方としてこれまでは、クリニックで働いたりどこかの施設の管理職におさまったりする、という道くらいしか無かったように思います。そこで私が起業し自由に活動するという新たなキャリアパスを示すことができればこれからの世代の働き方の一つとして認知されていくのではないかと期待しています。人生は一度きりなので自分が持っているかも知れない才能を遺憾なく発揮し満足して終わろう、そんな思いで過ごしています。同窓会の皆様もどうぞ健康で楽しい人生をお送りください。



退職にあたって

旭川医科大学

名誉教授 川村 祐一郎
(第3期生)

永らく旭川医科大学に勤務しておりましたが、2024年3月31日をもって退職の運びとなりました。実は私はすでに2年前に定年退職した身であります。その後私がなぜ大学に残留していたかという、私の勤務場所であった保健管理センターの後任が未定なので決まるまでのリリーフをせよという意味でした。この頃まさにCOVID-19が猖獗を極め、さらにはメンタル面での学生や職員の健康が必ずしも万全とは言えない中、健康管理部署として保健管理センターをさらに充実すること、そのためには長くこの経緯を知る人間に次へ繋げてもらいたいという大学の意図があったであろうと思います。

2004年に保健管理センター専任医師、2009年よりは所長（後センター長と改称）を拝命し、学生の健康管理に携わってきた上での2本柱はまさに感染症対策とメンタル対応でした。前者では、2009H1N1ウイルスの流行（当時豚インフルとか、新型インフルとか呼ばれていました）と上述のCOVID-19の流行が印象深く、これらへの対応は実務としてはかなり大変なもので、私のみならず全てのスタッフが相当疲弊しました。メンタル対応については、私が素人であるだけに保健師の皆様任せっぱなしで大変苦労をおかけ致しました。2022年10月より非常勤ながらカウンセラーの方々の派遣を受けることにより、対応に厚みが出てきたように感じます。

私は旭川医科大学産業医も併任し、職員の健康相談、休職・復職時の指導、過重労働者への指導、職場環境の是正等に当たって参りました。安全衛生委員会のメンバーとして、定期的な職場巡回である安全衛生パトロールに参加し、2016年より開始されたストレスチェックにおける高ストレス者との面談に応じて参りました。産業医業務と直接関係はありませんが、近年増加の傾向にある各種ハラスメント問題については、ハラスメント防止対策委員会の一員としてしばしば対応いたしました。

このように学生、および職員への対応に身を割いてきたわけですが、私は本来循環器内科医でありまして、卒業した1981年4月に第一内科（故・小野寺壮吉教授）に入局を許されて以来国内で研鑽を積み、その後、主に海外留学において習得した不整脈診療上の技術・知見を活かすべく、旭川医科大学病院循環器内科に不整脈チームを設立し、特に頻脈性不整脈の根治術であるカテーテルアブレーション、および植え込み型除細動器やペースメーカーなどデバイスによる心疾患治療の発展に寄与し、不整脈分野でのいくつかの実験的および臨床研究も成し遂げてまいりました。このことは私の人生における極めて大きな財産です。実際現在も旭川市内の医院、および非常勤として旭川医科大学病院循環器外来で勤務しており、主に循環器疾患患者、中でも不整脈患者の診療を継続しております。さらに自己研鑽を重ね成長して参りたいと考えております。

学生の感染症およびメンタルの問題、また労働安全管理の面からは2024年4月より本格化した「医師の働き方改革」など、私がこれまで勤務してきた分野における課題はおそらく今後も永続・拡大していくことと思います。また、不整脈治療の面では、カテーテルアブレーション、特に心房細動に対するそれは近年発展の一途をたどっており、さらなる技術およびマネジメントの向上が要求されることでしょう。これらについては、未来を担う若い諸君にゆだねる部分が大きいと思います。

御存知の方も多いと思いますが、私は在任中の2014年に大変大きな病に罹る致しました。この度無事退職を迎えられたことは一種の奇跡と参っております。この間の業務を支えて下さり、私の身を気遣って下さった多くの同窓の皆様へ深い感謝の念を申し述べたいと存じます。皆様、真に有難う御座いました。



教授就任にあたって

旭川医科大学
内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)
教授 中川直樹

このたび、2024年(令和6年)7月1日付けで、旭川医科大学 内科学講座 循環器・腎臓内科学分野の教授を拝命いたしました中川直樹と申します。本教室は内科学第一講座、通称「一内」を前身として、循環器・腎臓・呼吸器・脳神経内科など、生命に直結する内科領域を担当し、高度な診断と先進治療、基礎的・臨床的研究を行ってまいりました。旧第一内科は初代・小野寺壮吉教授(1973～1992年)、第二代・菊池健次郎教授(1992～2007年)、第三代・長谷部直幸教授(2007～2021年)のリーダーシップのもと、講座開設50周年を迎えました。同門会員は280人を超える大講座へと成長し、関連病院では多くの同門医師が活躍し、道北道東の地域医療を守ってまいりましたが、このように大変歴史のある教室をお任せいただくことは、身に余る光栄でございます。

私は札幌市に生まれ、羊ヶ丘小学校、東月寒中学校、札幌旭丘高校へと進学いたしました。高校卒業後は将来北海道の地域医療に貢献することを目指し、自治医科大学に進学いたしました。私が学生時代の自治医大は運動部が強く、「自治医科体育大学」などと揶揄されておりました。私は準硬式野球部に所属し、仲間にも恵まれ、東医体では2度の優勝を経験することができました。

自治医大卒業後は、循環器内科医を目指し、先輩方も多く在籍されていた本学第一内科に入局致しました。循環器・腎臓・呼吸器・脳神経を3ヶ月ずつローテーションし、当時の菊池健次郎教授には大変厳しくかつ情熱的に指導していただきました。義務年限は道立焼尻診療所、道立羽幌病院、市立根室病院に勤務し、現在本学で推進しております「マルチタスク型地域医療医」として、循環器内科を中心に総合内科医として勤務し、永久式ペースメーカー植え込みのみならず、週末の当直時には、胃アニサキス症に対し緊急内視鏡検査も行い、生検鉗子で除去しておりました。

義務年限の途中の後期研修の際に、本学薬理学講座でプロスタグランジン受容体ノックアウトマウスを用いた基礎研究に従事させていただき、学位を取得させていただきました。また2012年より2年間、米国ワシントン大学(シアトル)腎臓内科に留学の機会をいただき、腎間質線維化研究に従事することができました。娘3人(当時小学6年生、2年生、年少)を連れての海外生活で大変な思いもしましたが、今では良い思い出となっています。

今後も道北・道東の地域医療を守ることを最優先にしつつ、以下の3つを柱とし教室を運営してまいります。

1. 若手医師の育成、キャリア形成支援:若手医師の活躍を後押しし、北海道で活躍する循環器内科・腎臓内科の専門医を育成いたします。国内外留学やフレキシブルな育児休暇取得など、多様な働き方・キャリア形成支援を推進いたします。
2. 学術力のさらなる強化:本邦最北の医科大学ではありますが、「論文を書くことが当たり前の文化」を醸成・浸透させ、異文化・異言語の研究者・医療従事者との交流を通じ、世界に向けての情報発信を促進いたします。

3. ハートチーム・腎臓病診療のさらなる成熟・発展：道北・道東医療の最後の砦として、生命に直結する循環器・腎臓領域の疾患を、他診療科と議論を深めながら、良好で密な連携を継続し推進いたします。

2023年10月の内科再編に伴い、循環器・腎臓内科学分野と呼吸器・脳神経内科学分野に再編されましたが、今後も旧第一内科の繋がりを保ちながら、教育・研究・臨床・社会貢献に邁進してまいります。これからも新しい教室員が加わり、地域医療・先進医療を通じ、世界に向けて新たな情報を発信し続け、医学の発展に貢献する講座として成長できるよう精進してまいりますので、旭川医科大学医学部医学科同窓会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



教授就任にあたって

旭川医科大学

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

教授 高原 幹

(第16期生)

旭川医科大学医学部医学科同窓会の皆様、いつも大変お世話になっております。この度、令和6年(2024年)1月1日付けで、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の教授を拝命いたしました16期生の高原幹と申します。当講座は1976年に初代教授 海野徳二先生が開講され、本講座の礎を築きました。その後、1998年に二代目教授として原淵保明先生が就任され、更なる飛躍的発展を遂げ、今回、三代目として昇任致しました。伝統ある旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座を主催していくことは身に余る光栄であり、同時にその責務の重さに身の引き締まる思いであります。

私は北海道十勝にある足寄郡足寄町出身です。同年代の方であれば松山千春さんの出身地と言えば理解していただけたと思いますが、若い方は難しいかもしれません。足寄中学校を卒業後、函館ラサール高校を経て、旭川医科大学に1988年に入学させて頂きました。学生時代は剣道部を主軸にゴルフ部、合唱部にも在籍し、それに加え家庭教師などのアルバイトも行なっていたため、大変充実した、忙しくも楽しい学生生活を過ごすことができました。臨床実習にて耳鼻咽喉科・頭頸部外科の面白さに触れ、在籍されていた剣道部の先輩からの熱意のある勧誘も頂き、1994年に入局させて頂きました。入局時は、初代の海野教授が教室を束ねられおり、そのご指導により耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療の多様さと奥深さに魅了され、初期大学研修から関連病院での6年間、臨床に明け暮れました。その後、大学勤務となりましたが、二代目の原淵教授の強力な教室運営のもと、臨床に加え研究に関してもご指導頂きました。ありがたいことに、「鼻性NK/T細胞リンパ腫細胞のP53、N-ras、 β -catenin 遺伝子変異と予後因子の検討」というテーマにて学位を取得させて頂きましたし、2003年から2005年までEpstein-Barr virusの研究にてスウェーデンのカロリンスカ研究所に留学の機会も頂きました。スウェーデンはその風土が北海道と似通っており、さらに私の個人的な印象ではありますが、親日家が多く、素晴らしい環境のもと、研究に没頭させて頂きました。帰国後は、臨床、研究だけではなく、教育、運営、管理など様々な経験を積ませて頂き、学ぶ機会を得ました。これまで、私は多くの良き先輩に恵まれ、その貴重な教養は現在の私の血肉となっており、現在大きく役に立っております。ご指導頂いた先生方には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は文字通り、耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・頸部の広大な領域を対象としております。それらの領域は、聴覚・平衡・嗅覚・味覚・発声・呼吸・嚥下など生命の維持や質の保持に必要な多くの機能を担っております。耳鼻咽喉科・頭頸部外科医はその領域の全ての疾患において、その機能障害の回避や回復を念頭にバランスのとれた治療を進めて行かねばなりません。我々は、真珠腫性中耳炎などに対する鼓室形成術、耳小骨奇形に対するあぶみ骨手術、重度感音性難聴に対する人工内耳手術を積極的に行い聴力改善に努めております。また、頭頸部癌手術に関しては、十分な切除の後、形成外科の先生方と合同で遊離再建手術を行っており、根治切除と機能再建をなるべく両立させるよう務めております。また、上顎癌、舌根癌においては放射線科の先生方と協力し、動注化学放射線治療を取り入れ、局所制御と機能保持をなるべく両立させるよう務めております。今後も道北・道東の医療拠点として、機能を諦めない医療を積極的に続けていきたいと考えております。また、保険収載前より導入している内視鏡補助下甲状腺手術、内視鏡下唾石手術など先端的鏡視下手術に関しても、患者様のニーズに応えることができるよう更に努力していきたいと思っております。研究においては、当科では熊井

講師を中心に、近年注目されている再発転移頭頸部癌に対する免疫治療に先駆けて、頭頸部癌の免疫学的解析を以前から精力的に行なっており、多くの臨床応用可能な知見を得ております。今後も当科の研究の柱として続けてまいります。さらに、扁桃病巣疾患に関する基礎的、臨床的研究は国際的にもトップレベルにあると自負しており、当科の命題として位置付けております。本疾患の治療は関連科の先生のご理解がないと成立しませんが、大変ありがたいことに、本大学では多数の症例をご紹介頂いており、症例数は全国でも有数です。今後も、基礎、臨床両面においてより精力的に研究を継続してまいります。

私は浅学非才の身ではありますが、幸運にも、関連病院においては、私が尊敬、信頼する先生方が堅実に管理、運営をなされておりますし、大学においては、優秀でやる気のあるスタッフが多くの仕事を率先的にこなしております。その仲間達とともに、熱い情熱と誠意を持って一丸となって臨床・研究・教育に邁進する教室を作っていきたいと考えております。旭川医科大学医学部医学科同窓会の先生方におかれましては、今後とも、我々耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座へご指導・ご鞭撻を賜れますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



教授就任にあたって

旭川医科大学
一般教育 心理学

教授 池上 将 永

2024年(令和6年)3月1日付で、旭川医科大学心理学の教授を拝命いたしました。一般教育学科目「心理学」は、1973年の本学設置と同時に開講され、岩淵次郎初代教授によって教室の基盤が築かれました。その後、1999年に高橋雅治先生が二代目教授として就任され、医学部における心理学教育の一層の充実に尽力されました。伝統ある旭川医科大学心理学の教授を拝命しましたことは、私にとって身に余る光栄であり、同時にその責務の重さに身の引き締まる思いです。

私は京都の出身ですが大学進学に際して地元を離れ、茨城県つくば市で大学・大学院時代を過ごしました。当時、北海道に特別な縁はありませんでしたが、大学時代の友人が改めて医師を目指すために旭川医科大学に入学することになりました。彼に会うために初めて訪れた夏の旭川では、空の広さに感動した記憶があります(なお、その友人は本学を卒業後、へき地勤務等を経て、現在は十勝の地域医療の第一線で活躍しています)。その後、不思議なご縁で二代教授の高橋雅治先生にお声がけいただき、旭川医科大学心理学教室に教務職員として着任することとなりました。以来、二十年以上に渡って旭川医科大学にお世話になっております。教育・研究のなにもかまが分からないところからスタートした、未熟な私を支えて下さった高橋雅治先生をはじめ、旭川医科大学の皆様には感謝の言葉もありません。旭川医科大学は私にとっては第二の母校のような存在であり、大学の更なる発展に貢献できるよう、微力ではございますが尽力していく所存です。

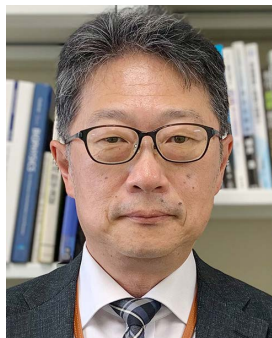
近年の医学部教育における変化のひとつに、「行動科学」の重視が挙げられます。その背景には、患者-医師関係の複雑化があります。医師には、患者の心を理解しながら効果的なコミュニケーションを取り、共同で意思決定を行っていくことがこれまで以上に求められるようになってきました。また、人が健康な生活を送るためには、生物学的側面だけではなく、「毎日の習慣=行動」が重要であることが広く認識されるようになりました。効果的な行動変容のためには行動の成り立ちを知る必要があります。この点は心理学が直接的に貢献できるところです。心理学関連の講義・実習では、人の行動の根底にある心理過程や発達過程を学んでもらい、将来出会う患者さんの行動を幅広い視点で捉えられるようになってもらいたいと願っています。

研究に関しては神経発達症、特に注意欠如多動症(ADHD)の行動特性を対象としています。小児科の先生方に多大なご協力を頂きながら、ADHDの診断補助に応用できる認知・行動検査を作成する研究を行っております。私は、ADHDに関わる行動特性の中でも特に衝動性(待つのが苦手な傾向)に注目しています。たとえば、今すぐ手に入る小さな報酬と、将来得られる大きな報酬を比較する際、将来の報酬の主観的価値が大きく割り引かれると、待つことが難しくなると考えられます。現在の研究上の関心は、「待つ力」を支援するための心理的介入法の開発です。その一環として「待てない」傾向を客観的に測定する行動検査や質問紙検査を作成しているところです。今後、学童期から成人を対象とした大規模な調査研究を行いと考えています。

現代社会は、「待たなくてもよい」便利な社会を目指してきたように思われます。そのような流れの中で、私自身を含め「じっくり待つ」ということが苦手になってきているように感じます。一般教育教員として第1学年の学生たちと接する中で感じるのは、スマートフォンが普及した前後で学び方が変わってきているのではないかということです。生成AIの登場など、年々進歩する技術によって、手間

をかけずにすぐに欲しい情報が手に入るようになりました。しかし、手に入った情報の意味を考えたり、情報同士を自分で統合するといった、時間を要するプロセスに対する関心はかえって薄くなりがちです。そのような時代の流れと関係するのかわかりませんが、心理学の実習で行う知能検査の様子を見ていると、「部分的な情報をつなげて全体を統合する」タイプの問題をやや苦手とする学生が増えていくように感じます。1年生は医学への準備教育として多くの科目を学びますが、ややもするとその量に圧倒されて、表面的な記号の詰め込みに終始しかねません。一般教育教員としての私の目標は、生きてきた知識として心理学を学んでもらい、医学教育の基盤となる土壌を少しでも提供することです。良い土壌がなければどんなに良い種も発芽することができません。そのような責任感を持って教育に従事していきたいと考えております。現在、新たな助教採用の手続きが進行しています。新しい体制のもと、教育・研究の一層の充実を目指してまいります。

最後になりますが、これまで支えていただいた旭川医科大学の諸先生方、病院職員の皆様、事務職員の皆様には改めて感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



一般教育(化学)教授就任にあたって

旭川医科大学
一般教育 化学

教授 眞山博幸

令和6年度3月1日付で化学教授を拝命いたしました。医学科1年生をはじめとする医学部基礎教育や大学運営により一層取り組み、旭川医科大学の益々の発展のため職務に励む所存でございますので、どうぞよろしく願いいたします。

化学教室は1973年9月29日、本学の開学と同時に開設され、初代教授内田倅喜先生が着任、1995年8月には北海道大学電子科学研究所より第二代教授中村正雄先生（1995～2012年）、第三代教授として秋田谷龍男先生（2012～2022年）、2024年3月より私が第四代教授を務めさせていただいております。現在、室崎喬之准教授（2014年11月赴任）とともに2人体制で化学教室を運営しています。

私は、国立苫小牧工業高等専門学校で工業化学科で化学教育を5年間受けた後、北海道大学工学部応用物理学科に編入学、学部卒業、修士課程と博士課程に進み、博士（工学）を取得しました。その後、京都大学大学院理学研究科で博士研究員（ポスドク）、北海道大学電子科学研究所で助教を経て、2012年9月1日に旭川医科大学一般教育化学教室に准教授として着任いたしました。北大在学中は一人でよく大雪山を登っており、旭川は憧れの地でした。憧れの地で教育と研究に携わることができ、大変光栄です。

研究では医学と共通するテーマ（生体と生命現象に関するもの）に化学と物理学の立場から取り組んでいます。これまで取り組んだ研究テーマとしては、(MRIの原理となっている)核磁気共鳴(NMR)を用いたポリペプチド鎖の高次構造変化測定(学部4年生)、銅酸化物高温超伝導体の電子物性(修士課程と博士課程)、単一高分子鎖の高次構造転移(京大ポスドク)や、エネルギーと物質の出入りのある環境での構造形成やパターン形成(京大ポスドク)、北大～現在はフラクタル、柔らかい表面の濡れ・摩擦・付着です。いずれも医学と密接に関係したテーマです。大学内での研究に貢献したいと考えております。

本学での教育について簡単に説明させていただきます。化学教室は、医学科1年生の自然科学入門(化学系)、基礎化学(通年)、基礎化学実習(後期)、初年次セミナー(前期必修科目で講義サポートとして関与)、看護学科1年生の看護化学(前期選択必修科目)、医学科1年生と看護学科1年生の後期選択科目の科学論文の読み方書き方(講義を分担)、医学科4年生の医学研究特論を担当しています。以下に基礎化学と基礎化学実習での取り組みについて簡単に説明させていただきます。

基礎化学では、原子の世界、分子の世界、有機化合物の構造と性質、分光学、分子集団の現象、自由エネルギー、化学平衡、膜電位、化学反応、酸化・還元、生体分子・高分子・生体高分子といった内容を連続的につなげて教えています。以前の基礎化学はいわゆる“教養科目”であるとして教えられていた時期もあったように聞いておりますが、秋田谷教授以降、化学教室では基礎化学は医学とつながっている“実学”であることを強く意識し、講義中に医学とのつながりをできるだけ提示しながら教えるよう心掛けています。また、各学生の理解や学生自身の気づきにつなげられるよう、講義資料等(練習問題、模範解答、問題解説含む)を作り込みながら色々と模索しています。化学教室に対して過去のイメージをお持ちの先生方が多いかと思いますが、現在の化学教室は全く違う状況にあるものと自負しています。その一方、時代の変遷とともに学生の質の変化もあり、対応しながら教育しています。

基礎化学実習では実習内容の説明だけでなく、安全教育も行っています。具体的には白衣の正しい着

用方法、正しい服装（頭髪から履物まで）、実験器具や測定装置の正しい使用方法、危険な試薬をこぼしたときの対応方法、実験終了後の薬品の廃棄の仕方、実験器具や測定装置の片付け方などです。動画を使いながら説明するなど工夫しています。また、コロナ禍前の実施方法（4名で協力して実習する）から、学生一人ひとりが実習を行うスタイルに変更しました。その結果、学生はしっかりと一人で実習を行い、教員も各学生へ丁寧に指導を行うとともに、各学生の実習態度を詳細に把握できるようになりました。実習態度には座学では垣間見ることができない学生の個性が反映されますので、今後、上の学年での学生指導に必要な基本的情報になると考えています。

さて、医学科4年生の医学研究特論では化学教室に来る学生はほとんどおりませんでした。今年度（令和6年度）は化学教室での研究を希望する学生1名が配属され、自律神経と生体のリズム（心拍のRR間隔）に関する研究を行いました。得られた研究成果は同科目の研究発表会で高い評価をいただき、優秀賞をいただきました。研究を進める上で教育センター佐藤伸之先生と一般教育（数理情報）高橋龍尚先生、臨床検査輸血部主任の伊藤栄祐様には大変お世話になりました。この場をお借りいたしまして心より御礼申し上げます。

大学外では地域貢献として放送大学（講師）、わくわくサイエンス（展示）、スーパーサイエンスハイスクール（研究指導）に携わっています。今後、旭川医科大学の一員として地域貢献により一層貢献してまいります。

私と室崎准教授の2名で化学教室を運営しておりますが、これもひとえに旭川医科大学の諸先生方や事務職員の皆様に支えられているおかげです。この場を借りまして心より御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

札幌支部だより 2024年

医療法人社団

ちば内科・消化器内科

院長 千葉 篤

(第14期生)

札幌支部の2024年の活動報告をさせていただきます。今年も支部長の田川博先生（2期）と事務局長の横山太範先生（14期）を中心に4月24日に幹事会、8月31日に札幌支部同窓会が開催されました。

今年の札幌支部同窓会には現旭川医科大学同窓会長であり内科学講座消化器内科学分野（第三内科）教授の藤谷幹浩先生に特別ゲストとして参加していただきました。藤谷教授の研究のメインテーマである腸内細菌のトピックスや、乳酸菌由来の長鎖ポリリン酸の難治性炎症性腸疾患に対する高い治療効果があること、乳酸菌由来のフェリクロームに強い抗腫瘍効果があり既存の抗がん剤よりも効果が期待できることなどとても魅力的なお話を沢山聞くことができました。近いうちに藤谷教授が開発した新薬を使用する時代が来るのではととてもワクワクする内容でした。今回の支部同窓会には1期生から27期生までの37名が参加して開催されました。久しぶりに顔を合わせるメンバーも多く、近況報告をしながら和やかな時間となりました。

札幌支部には994名の会員がいます。毎年、8月最終土曜日に札幌支部同窓会を開催することになっています。今年と同窓会の参加者は37名でしたが、以前は50～70名程度の同窓生が集う会でした。コロナ禍になってからは対面での同窓会が開催できず参加者が減ってしまうことになりました。コロナが終息したわけではありませんが、徐々に以前のような対面での会合も増えてきており来年の札幌支部同窓会にも少しずつ参加者が増えることを切に願っています。なにせ大所帯の札幌支部ですから多くの卒業生に参加していただくことによってとても有意義な情報交換ができることは間違いありません。卒業期の若い先生にも参加していただき、札幌市での横のつながりも広げていただく機会になればと思っています。札幌市医師会理事にも旭川医科大学卒業生が4人もいて活躍されており、札幌市医師会の中でも中枢を担う存在になってきています。札幌支部同窓会に興味を持っていただき多くの同窓生の先生が集える会を開催できるように幹事も頑張っていきます！



名寄支部だより

旭川医大同窓会名寄支部 支部長

畑 山 尚 生

(第6期生)

名寄支部の活動報告を行いたいのですが、特別報告すべき活動はありません。名寄支部を上川北部二次医療圏ととらえ現況報告をいたします。上川北部二次医療圏は2市4町1村からなり卒業生は69名で名寄市に50名、士別市に9名、下川町に2名、和寒町、美深町、中川町にそれぞれ1名、行政勤務医1名、研修医4名おります。さらに卒業年次の医師数は卒後10年以下が24名、11～20年が6名、21～30年が16名、31～40年が17名、41年以上が6名の構成になっております。上川北部医療圏に占める卒業生の比率はかなり大きいといえます。さて支部活動ではありませんが名寄市立病院を中心とした講演会の参加、医師会の会合、社会福祉審議会への参加など卒業生が顔を合わせることがしばしばあります。私自身2023年6月まで旭川厚生病院に30年勤務し定年を迎え7月から現在の病院に勤務するようになりました。厚生病院時代は医局から派遣される各科の先生や厚生病院で研修をされた先生が名寄支部にはたくさんおられ少し安心しております。我々の業界は患者のやり取りや情報交換に関してお互い医師同士が顔の見える状況であることが最も大切なことだと考えます。卒業年次は異なっても同窓生としてお互いの考え方や行動パターンが理解できる状況をいち早く作り上げるように努力したい今日この頃です。

釧根支部だより

旭川医科大学同窓会 釧根支部
道東勤医協 釧路協立病院

黒川 聰 則
(第7期生)

支部長のあさの皮フ科クリニック 浅野一弘先生（11期）より御依頼をいただき、支部の近況を報告させていただきます。道東勤医協 釧路協立病院で内科をしております、7期の黒川と申します。

現在、釧路・根室管内の卒業生の正確な数は分かりませんが、おそらく40～50名くらいおられるでしょうか…？ 主な病院はもちろんですが、地域で開業されている先生もたくさんおられ、いつもとても心強く頼りにさせていただいています。

支部活動ですが、コロナ禍以降は活動らしいことはできておりませんが、それまではおおよそ年に1回程度で懇親会を開催し、親睦を深めて参りました。毎回15～20名前後の出席で、老若男女、世代を超えた昔話などで盛り上がっていました。特徴としては、卒業生に限らず、出身大学は違っても旭川医大の医局に在籍していたことがあるなど、大学と何らかの関わりのある先生方にも広くお声を掛けさせていただいていることかと思えます。これは、第二外科講師から昭和大学教授をお務めになり、2010年4月に釧路労災病院の院長として赴任された草野満夫先生の御発案によるものです。先生は、私が学生時代にはサッカー部の監督をされていて、当時も大変お世話になりましたが、その頃と変わらず、先生の周りにはいつも人が集まり、明るく楽しい会にさせていただきました。先生が2014年に釧路を離れてからも、支部長の浅野先生を中心に引き継がれ、私の記憶が正しければ8回目までを開催してコロナ禍のお休みに入っています。

この間、私の同期も含めて、新たに釧路・根室に着任された卒業生や母校と何らかのご縁のある先生方も多くおられます。近いうちにまたこの会を再開して、大いに親交を深めたいと思っています。

地方はどこもそうですが、ここ釧路・根室医療圏も絶対的な医師不足などを背景として、どうすれば地域の医療を崩壊させることなく持続可能なものとする事ができるのか、本当に大変な状況にあります。北海道の地域医療に貢献すべく、卒業生や関係するみなさんと力を合わせて行きたいと思っています。

新潟支部だより 2024

旭川医科大学同窓会 新潟支部 支部長
新潟聖籠病院内科

本 間 則 行
(第4期生)

旭川医大同窓会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は、本間則行が新潟支部だよりをお送りします。事務局で把握している新潟支部会員は27名で大きな変動はありません。

2020年から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響からようやく落ち着きを見せている新潟県内ですが、2024年1月1日に発生した能登半島地震では新潟県内も少なからず影響を受けました。糸魚川、上越地域の津波被害、新潟市西区の液状化被害など一部の住民、医療機関に大きな影響を及ぼしました。特に液状化現象は60年前の新潟地震でみられた県営アパートの倒壊などの派手さはないものの家屋が傾いたり、道路がゆがんだりでその修復には多くの費用と時間を要する状況です。また、長年新潟県の地域医療を支えてきた二大医療ネットワークである県立病院とJA県厚生連の経営危機が表面化し、大きな話題となっています。今後、国への財政支援を求める一方、各地域医療機関の再編統合、経営改革をより急速に進めていく必要があると報道されています。本年3月に県央地域の県立燕労災病院と厚生連三条総合病院が統合し、済生会県央基幹病院が開院しました。医療機関の再編統合の動きはこれにとどまらず各地域で進んでいくものと考えられます。



2019年を最後に途絶えていた新潟支部総会を2024年10月26日新潟市駅前「葱ぼうず」で開催しました。参加者は、石橋隆治先生(4期)、丸山弘樹先生(6期)、小田雅人先生(24期)、荒引みちる先生(35期)、筆者の5名でした(集合写真)。佐藤大輔先生(22期)は仕事の都合で直前にキャンセルとなり残念でした。

以下、支部会員の皆様からいただいた近況報告になります。

石橋隆治 (4期)

金沢市の自宅から新潟県上越市にある知命堂病院へ北陸新幹線を使って通勤しています。久々の臨床で老体にムチを打ち頑張っています。当直もこなし、1回の当直で3枚の死亡診断書を書くこともあります。新潟支部総会への出席は今回が初めてでした。来年もぜひ参加したいと思います。

斎藤亮彦 (5期)

新潟大学で腎臓病・糖尿病の外来診療に従事しながら、腎臓病の創薬研究を続けています。

丸山弘樹 (6期)

新潟聖籠病院で4期の本間則行先生と一緒に勤務しています。

田代敦志（9期）

2023年に新潟市保健所、新潟市民病院を退職し、今は産業医活動をしています。臨床は心療内科だったので、職員のメンタル対応で役立っています。数年前に訪れた旭川駅がモダンになっていて驚きましたが、校舎や当時住んでいたアパートが昔のままだったのを見て少しほっとしました。皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

小田雅人（24期）

今年は縁あって10年ぶり位に旭川へ行きましたが、かなり駅周辺が変わっており驚きました。また医大は50周年事業で大変だと思いますが、建物は学生の時とほとんど変わりありませんでした。10月26日はたくさんの参加者といろいろなお話ができればと思います。

濱 菜摘（28期）

新潟大学皮膚科の濱 菜摘（28期）です。この度は同窓会のご開催をさせていただきまして誠にありがとうございます。同日ですが私と夫の濱 勇（27期）とも別件がありまして参加できません。大変申し訳ございません。なお、先日山本明美先生（5期、旭川医大皮膚科教授）の退官記念の皮膚科北海道地方会に参加してきました。旭川にはしばらくぶりに行き同級生とも会いましたが大学・病院内ともまだまだ大変そうでした。

坂上悠太（29期）

昨年度まで新潟大学眼科にて総括医長を務め、本年度は引き続き新潟大学眼科で働いておりますが、来年度に退局予定です。その後は新潟市内で開業医となる予定です。

会沢敦子（30期）

新潟市西区でふたば皮膚科を開業しております会沢敦子です。メールアドレスのご登録と、大変申し訳ありませんが10/26の旭川医大同窓会新潟支部総会は都合がつかず欠席とさせていただきます。

青木亜美（33期）

ご無沙汰しております。支部総会の案内を拝見いたしました。第二子を出産したばかりで、夜家を留守にすることがままならない状況のため、欠席させていただきます。

山崎友里恵（35期）

35期の三ツ間友里恵と申します。現在は結婚して姓が山崎に変わり、育休中ではありますが、県央基幹病院に所属しております。

以上、2024年の新潟支部だよりとさせていただきます。

信州支部だより

旭川医科大学同窓会 信州支部 支部長
信州大学医学部 小児医学教室

中 沢 洋 三
(第18期生)

信州支部長を拝命している18期中沢と申します。同窓会情報によると長野県には30名以上の同窓生がいらっしゃるようですが、支部長の怠慢でほとんどの方の連絡先を把握できておりません。今年は長野県で働く小児科医の皆さん(身内)に一言ずつメッセージをいただきましたので、県内の同窓の先生方から“見たよ”と気軽にご一報をいただくと大変嬉しいです。また、長野県で働くことを検討されている学生さんや同窓生の方がいらっしゃいましたら、希望の地域・施設・診療科を問わず、ぜひご一報ください。何らかのお役に立てるかと思えます。

yxnakaza@shinshu-u.ac.jp

第13期 小久保雅代 先生

2009年に長野県にわたり、すでに10数年経ちました。最近は登山やスキーを時々楽しみながら、赤ちゃんたちのために働いています。

駄26期 平林耕一 先生

2019年から信州大学小児科に勤務しています。中沢洋三教授のご指導の下、臨床では小児血液・がんの診療を行いながら、研究では固形腫瘍に対するキメラ抗原受容体(CAR)T細胞の開発を行っています。小児科のみならず、産婦人科、呼吸器外科、小児外科の大学院生の研究のサポートをしており、とても充実した日々を過ごしています。

第30期 小森一寿 先生

長野県立こども病院血液腫瘍科で勤務しています。この4月に息子が小学校1年生になります。これからは長野県の小児がんの子供たちが健やかに成長できるように微力を尽くして行きます。

第42期 富岡(旧姓 澤柳) 摩耶 先生

卒後は出身である長野県に戻り、同窓の中沢洋三教授のもと、小児科専門医取得を目指し研鑽中です。プライベートでは家族が増え慌ただしい毎日ですが、公私ともに充実した日々を送っています。

令和6年度 旭川医科大学医学部医学科同窓会 医学奨励賞 選考委員会議事録

- 1、日 時 令和6年3月27日（水） 11:45～12:00
- 2、場 所 管理棟2階 第二会議室
- 3、出席者 奥村利勝委員 川辺淳一委員 牧野雄一委員
本間 大委員 藤谷幹浩会長
- 4、欠席者 坂本尚志常任幹事（第2期）、松本成史委員
- 5、議事要旨

藤谷会長より、第23回医学奨励賞選考委員会開催の宣言がなされ、併せて、各賞候補者とも幹事会にて承認の上、本選考委員会へ推薦されていることが説明された。

委員の互選により、川辺委員が第23回医学奨励賞選考委員会委員長に選出された。

川辺委員長の進行により、学術奨励賞、特別奨励賞の各候補および申請内容について下記の通り審査がなされ、いずれの候補についても全員一致で受賞が決定された。

6、議 事

議 長：藤谷会長からご紹介のあった、同窓会の医学奨励賞、特別奨励賞と学術奨励賞の各1名ずつについて、皆さんからコメントを頂いた上で最終的に決議したいと思います。

A委員：お二方とも素晴らしい業績をお持ちなので、授賞に問題ないと思います。

B委員：お二方ともクオリファイされていると感じ、業績として奨励賞を授与するにふさわしい方だと思います。

須藤先生についてはどれがメインなのかわからないほどの業績であり、先端的な治療にもつながっており、ふさわしいと感じる。

渡邊先生については、（ご欠席の）坂本委員のコメントも拝見し、特別よりも学術の方がふさわしいのではないかという指摘もあるが、ガイドラインや取扱い規約の中にも取り入れられている点が、広く社会に貢献している点、普遍化されているというのは特別奨励賞にふさわしいと考える。

C委員：両候補の授賞に全く異論ありません。

D委員：私も皆さんの意見に同意しております。毎回選考の対象者を選ぶのに苦労した経験があるが、今回は非常に妥当な先生方が選ばれたのではないかなと思います。

議 長：皆さんのご意見も同一ということで、ご提案いただいたそれぞれについて授賞決定ということでよろしいでしょうか。

各委員：（意義無し、反対無し）

議 長：では、これにて決議させていただきます。

以上

<選考委員> 奥 村 利 勝 副学長
川 辺 淳 一 副学長
牧 野 雄 一 学長補佐
本 間 大 学長補佐
松 本 成 史 学長補佐
坂 本 尚 志 第2期常任幹事

（※役職は選考委員会開催当時）

学術奨励賞概要



運動器疾患における 革新的診断・治療法の研究開発

北海道大学病院 整形外科

特任教授 須藤 英毅

(第19期生)

この度は、大変栄誉ある学術奨励賞を賜り、西川祐司学長、藤谷幹浩同窓会長、選考委員の皆様、そして推薦して頂いた竹内淳さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック院長に心より感謝申し上げます。私はこれまで、臨床の現場で生じているニーズや臨床研究によって明らかになった課題に対して、シーズとしての基礎研究から開始し、橋渡し研究へと繋げ、再び臨床研究を実施してその効果を証明するというリバーストランスレーショナルアプローチの手法を取り入れた産学連携を基盤とする実用化研究を行ってきました。

整形外科専門医、またそのサブスペシャリティー領域である脊椎脊髄外科専門医として目指す研究活動の到達目標は、医療技術の世界的向上と、それを可能にする医療機器等の実用化による社会実装です。革新的医療技術を中心とするオープンイノベーションを日本から世界へ発信するという信念のもと、運動器疾患における将来の臨床応用を見据えたシーズを発掘しつつ、産学連携、知財、薬事取得を密接に連携させることで、ハイインパクトジャーナルへの掲載など世界的に評価される実用化研究へと発展させていくことを本研究活動の目的としています (<https://www.hokudaiseikei.jp/pdf/researchmap202408.pdf>)。具体的な研究活動として、1) 情報科学や生体力学を基盤とした脊柱変形・変性疾患に対する実用化研究と、2) 幹細胞生物学や分子生物学などを組み合わせた椎間板再生医療研究を実施してきましたので、以下に概略についてご紹介させていただきます。

1) 整形外科分野で最も難易度の高い手術治療の一つである脊柱変形疾患に対する手術法は、術者の経験や勘に大きく依存します。特に、最重要手術手技の一つであるロッド（金属性の支柱）に対する曲げ形成は、術者の経験や勘に左右され、生じるnotchにより金属の疲労強度も低下するため、生体適合性の高い脊椎外科手術用インプラントの開発が期待されてきました。

これらの課題に対し、まず、時空的観点を取り入れた4D解剖学的矯正法を世界で初めて考案しました。次に、術者の知識・経験や勘に頼っていた手術手技（暗黙知）を定量化することを目的とした高生体適合性インプラントを実用化しました。手術時間が短縮し、手術難易度や合併症の低下にも繋がることで医療安全の向上に貢献しています。脊椎外科手術用医療機器のデザインから製造までを一貫して行った世界初の事例であり、独創的な研究内容として、文部科学大臣表彰科学技術賞や日本医師会医学研究奨励賞などを受賞しています。さらに、側弯症を非侵襲的に診断支援する医療機器を開発したことで、保健文化賞を受賞しました。本賞は皇居内にて天皇皇后両陛下の拝謁を賜る大変栄誉ある賞とされています。

2) 椎間板は、脊柱の主要な構成要素であり、衝撃を吸収して体幹可動性を維持する機能がありますが、無血管野であり栄養供給に乏しく細胞分裂能も低いことが特徴です。このため変性あるいは欠損すると自然再生せず、椎間板ヘルニアや慢性腰痛症などの原因となる椎間板障害へと進行することが課題

でした。組織再生を目指して幹細胞を単純移植しても周囲組織との相互作用がなく十分な生着が期待できません。

そこで、これまでの基礎的研究を背景とする椎間板細胞/組織の特殊性についての理解から、生体内の組織修復環境を最適化することで組織再生が可能であると考えに至り、アルギン酸を基盤とした超高純度硬化性ゲルを開発しました。First-in-human 探索的医師主導治験を経て、検証的企業治験の準備に移行しています。さらに、組織変性進行例に対してはバイオマテリアル単独では限界があるため、超高純度幹細胞を併用した再生医療の確立を目指しています。一連の成果について、日本医療研究開発機構 (AMED) から「極めて優れている」との評価をいただいているほか、内閣官房 健康・医療戦略室からも紹介されています。

近年、より早期の社会実装を目指したスタートアップエコシステムの構築が世界中で加速しています。私も、患者負担を軽減し、治療成績の向上に資する革新的医療機器や再生医療等製品を開発することを目指して、複数の特許技術を基盤とするアカデミア発ディープテックスタートアップ企業を2023年に設立しました。AMED 医工連携イノベーション推進事業 開発・事業化事業 (ベンチャー育成) のご支援を受けながら、実用化を一層加速できるよう日々研鑽しています。最後になりますが、私の社会実装研究の一番の理解者である岩崎倫政北海道大学整形外科学教室教授 (旭川医大S63卒) はじめ、教室員の皆様、国内外のアカデミアや企業の方々、さらに医薬品医療機器総合機構 (PMDA) やAMEDの皆様にもこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

特別奨励賞概要



頭頸部表在癌の診断と低侵襲治療の確立

恵佑会札幌病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

副院長 **渡 邊 昭 仁**
(第7期生)

この度、旭川医科大学医学部医学科同窓会 第23回医学奨励賞【特別奨励賞】を受賞した7期の渡邊昭仁です。このような名誉な賞をいただき、誠にありがとうございました。今回の受賞内容の紹介をさせていただきます。

私は昭和60年3月に7期生として旭川医科大学を卒業しました。同時に旭川医科大学・耳鼻咽喉科に入局いたしました。耳鼻咽喉科のメインテーマが頭頸部癌治療でしたので、私も頭頸部癌治療に没頭することになりました。頭頸部癌の特徴は診断時にはすでに進行癌であり、この進行癌を治療すると治療自体は成功であっても患者さんの生活の質は低下することになります。このような進行癌の治療を経験すればするほど、『早期診断できれば、そして低侵襲治療ができれば・・・』という気持ちが強くなっていきました。しかしながら、これまで先人の先生方が難しかったことを簡単にできるわけはありません。咽頭のバリウム造影を10年近く行い、結果的に早期診断できませんでした。耳鼻咽喉科の内視鏡（当時はファイバーと呼んでいて、画質的には今には遥かに及びません。）検査でもなかなか早期診断できませんでした。関連病院と東京のがんセンターでの研修を入れて10年経って現在の恵佑会札幌病院に赴任することになりました。この病院で大きなきっかけをいただくことになります。恵佑会札幌病院は食道癌治療症例数が日本で最も多い施設の一つです。もちろん、早期食道癌も沢山治療されてきました。恵佑会に赴任後はこの食道癌症例の頭頸部癌スクリーニングや頸部郭清術等も行うようになりました。多くの食道癌と頭頸部癌はアルコール飲酒や喫煙が関与しており、さらにfield cancerizationの概念よりお互いに発癌のリスクファクターです。その関係から食道癌の患者さんではありますが、徐々に早期頭頸部癌が診断できるようになりました。また、時を同じにして消化器内視鏡の一部の先生も咽頭・喉頭の早期診断に注力していました。加え、内視鏡の開発会社として世界一のシェアを誇るオリンパスも咽頭用の特殊光内視鏡の開発をしていました。耳鼻咽喉科の私と消化器内視鏡の先生、さらにはオリンパスと一緒に頭頸部癌の早期診断を広く知っていただくべく年に4回の勉強会を東京で行いました。私にとっては先行する消化器の知識を勉強する良い機会になりました。そしてこのことで頭頸部癌の早期診断が加速度的に進歩することになりました。日本の多くの施設で頭頸部早期診断に興味を持つようになり、「頭頸部表在癌取り扱い規約」作成を委員長として担当するといった本場に名誉な機会もいただきました。現在では頭頸部表在癌診断は珍しくないものになりました。ここに至るまで30年以上の時間経過がありますが、時代は変わったことを実感しております。

一方、低侵襲治療ですが、早期癌が診断されると必然的にこれまでの高侵襲治療をすることがためらわれます。せつかく早期で診断した癌であり、低侵襲治療を模索するのは論を俟たないことは容易に想像がつくと思います。最初に食道などの消化器で行われていたキャップ法による内視鏡的切除術を行いました。この方法は広い範囲（しかし深部に浸潤していない早期癌）の病変では分割切除になります。理想である一括切除ができません。その問題を解決したのが、彎曲喉頭鏡を用いて咽頭を広く展開して可撓式電気メスを用いて切除する内視鏡的咽頭頭切除術（ELPS）です。ELPSでは広範囲早期癌でも一括切除でき、耳鼻咽喉科医師が直接切除に携わることができることで日本中で行われることになりま

した。外切開で切除していた時期よりも患者さんの入院期間も短くなり、食事や音声の問題も少なくなりました。早期診断できた頭頸部癌に対する低侵襲治療もできるようになりました。

上記のように頭頸部癌の早期診断、さらには低侵襲治療をライフワークに頑張ってきました。年齢的にもう少しだけ働く時間が残っており、この時間をどのように費やすかを悩んでいました。そのような時に国立がん研究センター東病院の先生より、「人工知能（AI）を用いた咽頭・喉頭の表在癌診断」研究の参加にお声がけをいただきました。更なる「早期診断の」普及に貢献できることを嬉しく思っております。また、2022年から咽頭・喉頭癌にロボット手術（TORS）が保険収載されました。これまでELPSで培った経験を活かしてTORSを用いて早期頭頸部癌切除に応用したり、さらには進行頭頸部癌に対してもELPSの経験を活かしてTORSでの機能温存手術が可能になってきています。「低侵襲治療」の守備範囲を広げることができるよう、尽力していきたいと思っております。

最後に、私が旭川医科大学・耳鼻咽喉科に入局し、上記のような活動を支えていただいた諸先輩方、さらには多くの患者さんを紹介してくださった先生方、そして何よりも私に治療をさせてくださった多くの患者さんに深謝申し上げます。旭川医科大学医学部医学科同窓会 第23回医学奨励賞【特別奨励賞】を受賞の内容報告とさせていただきます。ありがとうございました。

医学奨励賞 歴代受賞者一覧

(注：受賞者の所属・職名は受賞時のものによる)

○第1回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「活性化血小板による脳梗塞発症の危険性の予知」

受賞者 群馬大学医学部附属病院 草津分院 リハビリテーション部

講師 倉林 均氏 (第5期)

特別奨励賞

受賞課題 「有床診療所を核とした広域な医療と福祉のハイブリッド (Hybrid) 化」

受賞者 医療法人白鷗会 理事長

社会福祉法人緑鷗会 理事長 町田 光司氏 (第1期)

○第2回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「内因性神経栄養因子と人工神経栄養因子機能解析および神経再生への適用」

受賞者 大阪大学大学院 医学系研究科 未来医療開発専攻

組織再生医学講座 分子組織再生分野 助手 船越 洋氏 (第9期)

特別奨励賞

受賞課題 「施設および在宅の重症心身障害児(者)に対する医療的・福祉的支援の実践と福祉の文化化をめざした施設・地域づくりへの取り組み」

受賞者 北海道療育園

常務理事・園長 平元 東氏 (第4期)

○第3回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「日本におけるライム病ボレリア (Lyme disease borrelia) の多様性と臨床との関連性および病態形成機序の解析」

受賞者 旭川医科大学 医学部医学科 皮膚科学講座

助教授 橋本 喜夫氏 (第5期)

特別奨励賞

受賞課題 「医療過疎であった地域における脳神経外科疾患治療の地域格差解消および利用者が求めているも供給側が提供できなかった新しい形態での福祉サービス提供」

受賞者 特定医療法人明生会

理事長 橋本 政明氏 (第2期)

○第4回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「経腎静脈的アプローチによる naked plasmid DNA の腎臓への遺伝子導入方法の開発と応用」

受賞者 新潟大学医歯学総合病院・第二内科

助手 丸山 弘樹氏 (第6期)

特別奨励賞

受賞課題 「北・北海道への高度専門医療の提供を目指した道北3次医療圏地方センター病院における心臓血管外科の開設と診療体制の構築」

受賞者 名寄市立総合病院

副院長 和泉 裕一氏 (第2期)

○第5回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「2型ヒト免疫不全ウイルス（HIV-2）感染症の低病原性・低感染症メカニズム解明に関する研究」

受賞者 長崎大学熱帯医学研究所 感染予防治療分野（熱研内科）
教授 有吉 紅也氏（第8期）

特別奨励賞

受賞課題 「脳卒中関連疾患を中心とする回復期リハビリテーション病棟の開設と有機的な地域リハビリテーションネットワークの構築」

受賞者 医療法人社団進和会 旭川リハビリテーション病院
院長 丸山 純一氏（第3期）

○第6回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「パネート細胞の内因性抗菌ペプチドによる消化管粘膜防御」

受賞者 旭川医科大学 消化管再生修復医学講座
助教授 綾部 時芳氏（第6期）

特別奨励賞

受賞課題 「胎児心臓スクリーニングの有用性と課題
—先天性心疾患の母体紹介システムの構築—」

受賞者 大阪府立母子保健総合医療センター 小児循環器科
医長 稲村 昇氏（第9期）

○第7回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「致死率の高い新興ウイルス感染症（ウイルス性出血熱，SARS，ヒトサル痘）に関する研究：診断システム開発，治療法およびワクチン開発」

受賞者 国立感染症研究所ウイルス第1部
主任研究官 西條 政幸氏（第9期）

特別奨励賞

受賞課題 「国民健康保険診療施設による包括的な地域医療活動の推進
—安心して住める地域包括ケア—」

受賞者 国民健康保険診療施設 公立芽室病院
院長 宮本 光明氏（第3期）

○第8回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「中枢神経系による筋緊張と歩行の制御メカニズム解明」

受賞者 旭川医科大学 生理学講座
准教授 高草木 薫氏（第6期）

特別奨励賞

受賞課題 「北海道内の市町村や地域住民などと協働した公衆衛生活動 —保健所活動を通して」

受賞者 旭川市保健所
所長 竹居田和之氏（第5期）

○第9回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「表皮角化細胞の分化の仕組みと角化異常症の病態解析」

受賞者 旭川医科大学医学部 皮膚科学講座

准教授 山本 明美氏 (第5期)

特別奨励賞

受賞課題 「遠紋地区における信頼される外科医療体制構築に向けた活動

—12年間のチーム医療の歩み—

受賞者 JA北海道厚生連 遠軽厚生病院

院長 矢吹 英彦氏 (第3期) (代表者)

JA北海道厚生連 遠軽厚生病院

副院長 稲葉 聡氏 (第7期) (共同研究者)

深川市立病院

副院長 新居 利英氏 (第8期) (共同研究者)

○第10回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「疾病と関連して発現誘導される新規G蛋白活性調節因子の同定と機能解析」

受賞者 横浜市立大学大学院 医学研究科・循環制御医学

准教授 佐藤 元彦氏 (第9期)

特別奨励賞

受賞課題 「都会における地域医療—医療・保健・福祉の多様なニーズに富む東京中央区における25年間の医療活動」

受賞者 医療法人社団中央みなと会 中央みなとクリニック

理事長 斎藤 達也氏 (第1期)

○第11回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「ヒト14番染色体インプリンティング異常症発症機序の解明」

受賞者 独立行政法人 国立成育医療研究センター研究所

分子内分泌研究部

上級研究員 鏡 雅代氏 (第16期)

特別奨励賞

受賞課題 「社会に信頼される法医鑑定体制構築に向けた活動」

受賞者 旭川医科大学 法医学講座

教授 清水 恵子氏 (第17期)

○第12回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「中枢神経系の一次繊毛の構造と機能に関する分子細胞生物学的研究」

受賞者 山梨大学医学部 解剖学講座 細胞生物学教室

教授 竹田 扇氏 (第14期)

特別奨励賞

受賞課題 「複数の首都圏有名研修病院での若手医師の教育・育成の継続」

受賞者 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院呼吸器内科

主任部長 青島 正大氏 (第6期)

○第13回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「新規の組織幹細胞—毛細血管幹細胞の組織再生における機能解明」

受賞者 旭川医科大学 心血管再生先端医療開発講座

特任准教授 川辺 淳一氏 (第9期生)

特別奨励賞

受賞課題 「東日本大震災からの復活そして新たな挑戦～学生教育と産学共同研究をとおして～」

受賞者 福島県立医科大学医学部 微生物学講座

教授 錫谷 達夫氏 (第5期生)

○第14回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「低酸素応答性転写因子機能異常が関わる免疫・代謝性疾患の病態解明と治療法開発」

受賞者 旭川医科大学医学部 内科学講座病態代謝内科学分野

准教授 牧野 雄一氏 (第14期生)

特別奨励賞

受賞課題 「在宅医療を中心とした地域ケアネットワーク構築活動」

受賞者 医療法人社団みどりの里リバータウンクリニック

理事長 鈴木 康之氏 (第6期生)

医療法人社団今本内科医院

院長 今本千衣子氏 (第6期生)

医療法人旭川神経内科クリニック

理事長 橋本 和季氏 (第4期生)

○第15回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「Targeted Therapy for Children's Cancers」

受賞者 Associate Professor, Department of Pediatrics, UC Davis

佐竹 典子氏 (第12期生)

特別奨励賞

受賞課題 「旭川医科大学病院における卒後臨床研修プログラムの構築とその成果」

受賞者 旭川医科大学病院 副病院長・呼吸器センター長

(前卒後臨床研修センター長)

教授 大崎 能伸氏 (第2期生)

○第16回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「メガリンを標的とした腎臓病の新しい診断・予防・治療法の開発」

受賞者 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎研究センター (トランスレーショナルリサーチ部門)

機能分子医学講座

教授 斎藤 亮彦氏 (第5期生)

特別奨励賞

受賞課題 「厚生労働行政における地域の医療体制確保への貢献」

受賞者 厚生労働省保険局医療課医療技術評価推進室

室長 中谷祐貴子氏 (第21期生)

○第17回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「難治性がんに対する非ウイルス遺伝子改変CAR-T細胞療法の開発」

受賞者 信州大学医学部・小児医学教室 教授 中沢 洋三氏 (第18期生)

特別奨励賞

受賞課題 「FRIEDENSDORF INTERNATIONAL 《ドイツ国際平和村》でのボランティア活動」

受賞者 北海道社会事業協会 富良野病院 矢倉 幸久氏 (第11期生)

○第18回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「膵がんの初期発生における進化経路に基づく、早期診断システムの開発」

受賞者 旭川医科大学・内科学講座 准教授 水上 祐輔氏 (第14期生)

特別奨励賞

受賞課題 「長野県における小児在宅医療推進活動」

受賞者 長野県立阿南病院 副院長 藤岡 文夫氏 (第4期生)

○第19回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「病理形態学を基盤とした胆道癌腫瘍進展に関わる分子機構の解明:臨床応用を見据えて」

受賞者 慶應義塾大学医学部病理学教室 准教授 尾島 英知氏 (第18期生)

特別奨励賞

受賞課題 「石巻医療圏における災害救急医療体制の確立と東日本大震災からの地域医療復興」

受賞者 石巻赤十字病院 病院長 石橋 悟氏 (第13期生)

○第20回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞課題 「鼻性NK/T細胞リンパ腫を中心としたEBウイルス関連悪性腫瘍の病態解明と新規診断・治療法の開発」

受賞者 旭川医科大学 病理学講座免疫病理分野 講師 長門 利純氏 (第23期生)

特別奨励賞

受賞課題 「COVID-19感染拡大時における診療参加型臨床実習の代替としてのオンライン臨床実習の開発および実践」

受賞者 北海道厚生局健康福祉部 医事課長 民谷健太郎氏 (第31期生)

○第21回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞題目 「ナイーブ型多能性幹細胞を用いたヒト栄養膜細胞発生の再現」

受賞者 医療法人 竹村医学研究会 (財団) 小阪産病院 副院長
京都大学医学研究科 研究員 伊尾 紳吾氏 (第31期生)

特別奨励賞

受賞題目 「地域における重症新型コロナウイルス感染症診療改善に向けた包括的な取り組み」

受賞者 自治医科大学 総合医学第2講座 主任教授
附属さいたま医療センター 副センター長
麻酔科科長 集中治療部部長 讃井 将満氏 (第15期生)

○第22回医学奨励賞

特別奨励賞

受賞題目「国内初の経営母体の異なる隣接二施設による小児肝移植の始動
—埼玉県立小児医療センターの挑戦—」

受賞者 埼玉県立小児医療センター 移植外科医長 井原 欣幸氏（第20期生）

○第23回医学奨励賞

学術奨励賞

受賞題目「運動器疾患における革新的診断・治療法の研究開発」

受賞者 北海道大学病院整形外科 特任教授 須藤 英毅氏（第19期生）

特別奨励賞

受賞題目「頭頸部表在癌の診断と低侵襲治療の確立」

受賞者 恵佑会札幌病院 副院長 渡邊 昭仁氏（第7期生）

第1期だより

(同窓会1期常任幹事) 牧野 憲 一

同窓会事務局より「各期だより」の原稿の依頼を受けました。1期の幹事として、各先生に近況報告をして頂き、その原稿を掲載することにしました。今回、1期生諸氏の皆さんのメールアドレスを頂き、全員に原稿依頼メールをお送りしましたが、ほぼすべての人の顔と学生時代のエピソードを思い浮かべることが出来ました。最近、名刺交換した人の顔はほとんど覚えていないのですが、5年半の若い時代を共にすごした仲間の記憶は強く残っていることを改めて知りました。私は13年間旭川赤十字病院の院長を務めてきましたが、来年3月で70歳になり定年退職となります。これからの人生をどう過ごそうかと思案している所ですが、もう暫くは病院に残り社会貢献をして行くことになりそうです。お互いに健康に気を付けて残りの人生頑張っていきましょう。

以下に、1期生の皆さんの近況を掲載します。

東 寛

母校を退職後、新札幌にある小児科クリニックや道東の枝幸町の病院で非常勤医として小児科外来を担当しています。適度に忙しい毎日です。今年2月、札幌に雪がたくさん降った日の夜の駐車場で、不意に左足が轍に滑り込み、仰向けに転倒しかけました。とっさに体をひねり、転倒は免れましたが、左足が轍に固定されており、鈍い音がして、脛骨の螺旋骨折が起きました。髄内釘による固定手術を受けて、約1か月入院しました。退院して普通に歩けるまで半年かかりました。これからも、年齢相応に色々な事が次々に起こると覚悟はしていますが、あと数年は、余暇を楽しみながらも、小児科医としての仕事を続けたいと思っています。

大島 宏之

愛知県稲沢市で大島クリニック（胃腸内科・外科）を開業してからちょうど30年になります。クリニックに籠ってばかりでは横の繋がりができにくいので、開業当初から医師会活動にできるだけ積極的に参加してきました。6年前まで4年間、稲沢市医師会会長を務め、その頃、声高に言われるようになってきた医療介護の連携を目指す地域包括ケアを行政と協力して進めました。その後も医師会活動を継続してきましたが、今春からは日本医師会代議員を務めています。私にとって医師会活動は、地域貢献に資するばかりでなく、とかく独りよがりになりがちな開業医が、迅速に多くの情報を入手する手段としても役に立っています。いずれ看板を降ろす日が来るでしょうが、もうしばらく現役を続けます。

岡本 洋（社会医療法人社団愛心館・理事長 愛心メモリアル病院院長）

今、札幌で愛心館理事長兼愛心メモリアル病院院長をしています。

愛心館は札幌市内に3ヶ所の病院・診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーション/居宅介護支援事業所を運営する従業員数約400人の社会医療法人です。診療・経営に加え、土日は社保審査会、特定疾患対策協議会、札幌地裁で調停などの仕事をしています。

コロナ・パンデミックの渦中、年齢とは逆行する形で院長となり、2年半前法人理事長となり、大手銀行と債務問題を話し、職員とヒヤリングを実施し、北大や関連病院との連携を強化し、院外薬局や新電カル導入、勤怠管理システム、HP刷新、人事評価制度/給与システム改革にも取り組んでいます。

旭医卒業後、北大循環器内科に入局、30年間大学医局を中心に関連病院出張やパリ・ニューヨーク留学を経、開業も経験しました。英論文数も昨年100編を超え、著書だけで400編近くになりました。

定年を迎えた7年前、専門の心不全を中心にじっくり診療ができるからと勧められ、愛心メモリアル病院で勤務し始めました。しかし、旭医も何とか飛躍して欲しいと願いながら、日々追われるように生

活し、同窓会に出たくとも、余裕がなくなっています。

最大の懸案事項は、文句を言わずに働いてくれる若手医師、そして、何よりも早く自らの後継者を探すことです。年齢不問。ノーリスク・ハイリターンです。ご連絡をお待ち申し上げます。

沖 潤一

2019年8月で定年となり、旭川厚生病院副院長を退任しました。その後は小児科嘱託医として、乳幼児健診でかかわった子たちの経過観察を続けました。70歳を迎えた2024年からは、小児科から健康管理科に異動し、人間ドックや巡回健診を主とした勤務を行っています。2021年夏に右の眼が不自由になり、両眼視することが難しくなりました。このため球技や自転車に乗ることが怖くなり、もっぱら毎日歩いています。」

日下部 芳志

小田原で開業して早41年になります。私も令和6年11月で満75歳になります。家内には50歳には辞めてカリブ海に行くと言っていたらしいですが、まだ辞めないでと患者さんに励まされてやっています。自分では、そろそろ限界と思っています。見た目は元気そうに見えますが、内服薬は毎年強くなります。懐かしい皆様にお会いしたい、が、思い出の中の若かりし姿ばかり浮かぶのもそう悪くありません。思い出の中では誰一人欠けていません。

斎藤 達也

今年6月友人と数十年ぶりに大学を訪問しました。奥村副学長・総務課のご厚意もあり日曜日の午前中にも関わらず研究棟・病院入り口を見学する事が出来ました。元第二内科の医局も6階に移り、病院の入り口にはスターバックスまで出来て隔世の感がありました。スターバックスの店員さんに1期生で久々に訪問したと話したところ写真撮影してくれたり暖かく接客してくれました。その後グラウンドを訪れると50年前に磯辺君と創部したラグビー部の部員が練習していて激励してきました。そのラグビー部は去年、何と東医体で優勝するという快挙をなし遂げました。創部当時は連戦連敗だった事を思うと後輩たちの努力には頭が下がりました。去年11月の開学50周年記念祝賀会式典に出席しましたが、私的には記念式典の前日に行われたラグビー部の優勝祝賀会は感無量でした。私は東京で総合クリニックを2か所運営し150人のスタッフを抱え日々奮闘していますが、ラグビーで鍛えた体力で少しでも現役で働ければと考える日々この頃です。

佐川 正（北海道大学名誉教授）

北大を定年退職後は、千歳市民病院産婦人科の診療を手伝っていましたが1年前に辞め、現在は4カ所の健診センターで婦人科健診とマンモグラフィ読影を行っています。休日は船釣りとゴルフをしています。私は卒業後直ちに旭川医大産婦人科に入局しましたが、初代教授の故清水哲也先生は「旭川に置かれた旧日本陸軍第7師団は勇猛果敢な事で知られ、北鎮部隊と言われて日本国民の畏敬の念を集めていた」と、よく仰っていました。旭川医大が第7（しち）師団のように日本中から尊敬される医大となることを祈っています。

鈴木 望（北見赤十字病院・顧問）

2024年立冬 ～多分、これからもずっと「北見」です。～

「古希」を超え、健康寿命、幸福寿命いずれもクリアできています。今年、趣味のゴルフ（シニアティーからのスタートではありませんが）が今まで通りにできたことがもっともうれしかったことかもしれせん。1991年から脳神経外科専門医として、脳神経外科医局発行のone way ticketを持って北見赤十字病院に赴任し、33年の歳月が経過しました。5年前、同病院で定年退職となりましたが、

救命救急センター長の継続・病院顧問として再雇用され、今年救命救急センター長はようやく解任となりました。現在、脳神経外科の外来診療と産業医業務を行っています。道内2次医療圏の医師数・医師偏在状況を視た北海道地図（厚労省発表）で、札幌圏と旭川・上川中部圏のみが真っ赤に表示されているのを見ると旭川医科大学卒業生としては本当に嘆かわしいばかりです。高齢者パンデミック（世の中では人生100年時代とも言う）の仲間入りを当に感じているところですが、地域医療に定年もなさそうです。

これからもずっと北見です。いつまで頑張れることやら！！

千石 一雄

セカンドライフを謳歌すべく、何をすべきか模索して早5年が経過しますが、未だ見つけることができずにいます。週2-3回のジム通いで、血液検査データはすこぶる良好ですが、記憶力低下が著しく、体の元気な認知症になるのではと日々恐れています。

高木 勇

旭川医大に入学して以来、最後まで北海道の医療に貢献したいと思っていましたが、東京在住の両親の高齢に伴い2021年7月に東京都港区芝に引っ越してきました。私にとっては48年ぶりの東京生活ですが、北海道出身の妻にとってはハードルが高いように思えました。しかし、妻の方が早く東京に慣れてきてもう3年になります。48年後の東京は以前にも増して国際都市となり活気にあふれています。住んでいる場所の近くには、銀座や丸の内や西新橋のオフィス街や麻布台ヒルズなど話題性のある場所がひしめき合っている人もあふれています。一方、自然も豊かで、近くに芝公園や東京タワーがあって散歩できるコースもあり夫婦で歩いています。旭川の神楽岡公園を散歩していたのと同じように自然に親しむ機会も多いのでとても満足しています。そのような場所なので四季折々の草花や樹木の若葉や紅葉などで心から癒されています。子供の頃、自宅の庭にあった沈丁花が道端に咲いて強い匂いを放っているのを見つけては懐かしんでいます。東京は本当に桜の名所も多く、毎年色々な公園に行つて花見をしています。最近では歴史探訪に興味を持っています。近くには皇居、桜田門外の変の桜田門、銀座、東京の台所の築地場外市場、有楽町駅前には南町奉行所跡。医学に関するものとしては虎ノ門には杉田玄白の墓、聖路加病院の近くにはシーボルトの銅像があります。東京移住は思い切った決断でしたが、今はわくわくして新たな発見を予感して過ごしています。現在、週2日は汐留と品川にあるクリニックで主に健診医として働いています。

田中 仁史

神経内科の指定難病に膿胸を合併して入院、自院を閉院して7年。体調回復を機に、全く別のセカンドキャリアに従事している。だが、週5日は勤務する多忙さで、引退とはほど遠い。かつてシチリア島で知り合った先生方とグルメ三昧に浸っている。高校・大学時代の縁から、双方共通の友人ということで、未知の先生方の繋がりもあり、この世界の狭さを痛感している。

千葉 茂

牧野憲一先生、同期だよりをおまとめいただき、誠にありがとうございます。現在、私は旭川市の社会医療法人元生会 森山病院心療内科・すいみん外来で、「こころの病の予防」を目指した診療に取り組んでおります。てんかん関連学会では、沖 潤一先生（小児科）や福田 博先生（脳外科）にお会いできるので楽しみに出張しております。話は変わりますが、本年10月12日、旭川医大バスケットボール部創部50周年記念祝賀会が旭川市内の某ホテルで行われ、100名近いOB・OG会員や現役部員が集まりました。思い起こせば、1973年、旭川医大に入学したばかりの福田 博先生と私は意気投合してバスケットボール部を創部いたしました。創部当初の戦績は目も当てられないものでしたが、私が部

の顧問を務めておりました22年半の間に東医体（男バス）で優勝に輝きました。祝賀会では、部活の長編ビデオも上映され、50年間の思い出話に花が咲きました。現在、部の顧問は、阿部里見先生（整形外科、第20期）に引き継がれており、今後の発展が楽しみです。

豊川 好男

私は大阪で開業して21年目です。年齢は71歳です。若い頃は70歳と言えどかなりの高齢者で、爺さん婆さんと思っていました。実際自分になって見て、若者から見てそう見えるのかなと心配しています。しかし、同窓生の皆様は、元気そうな人々が多く安心しました。それは皆さん人生を楽しんでいるからなのでしょう。仕事、運動、趣味、生活と全て若い時と余り変わらないリズムで生きている。何かしているから元気なのでしょう。何もしないと急に老けてしまうような気がします。そろそろ開業をやめようかと思いましたが、やめれば急に年寄りになるような気がします。いろいろ衰えてはきましたが、患者さんと自分のためにもう少し頑張ろうと思いました。私にとって旭川医大は人生最大の出会いがあった思い出の大学です。

内藤 義弘

蟄居謹慎中！

福田 博（恵み野病院脳神経外科）

皆様お元気ですか？ 私は71歳になりましたが幸い健康で、まだ民間救急病院で脳外科医を続けています。件数は減りましたが未だ手術や救急待機もしています。脳外科は若手医師に不人気で、大学から派遣も無いため、まだ数年頑張らねばならない様です。週1回テニスと週3-4回の筋トレは続けて頑張っております。

細川 誉至雄（勤医協札幌病院 嘱託医）

勤医協札幌病院を退職後、嘱託で検診（じん肺やアスベスト、乳がん等）や産業医を担当しています。電カルにもついていけず、そろそろ診療から身を引く時期と自覚。産業医の経験を生かし、今は認定NPO法人「働く人びとのいのちと健康を守る北海道センター」の活動（ボランティア）でやや忙しく過ごしています。

今年8月31日に行われた旭医大同窓会札幌支部総会に初めて参加しました。1期卒の参加者は自分一人だけでしたが懐かしい顔ぶれに盛り上がりました。在札の方は来年ぜひ参加を。

松尾 忍

今年でとうとう古希を迎えました。一段と体力、気力の衰えを感じています。昨年10月から、次女（旭川医大卒）と一緒に診療するようになりました。ほとんど任せている状態で、娘の半分も診療していません。よく今まで30年近く一人で診療できていたと、感心？しています。娘の足を引っ張らないように、もう少し仕事を続けようとは思っていますが、果たしていつまでできるやら。

松本 光博（松本皮膚科クリニック）

相も変わらず皮膚科開業医を続けています。診療速度が遅くなり決断も鈍っており時間がかかって待合室が混雑しております。最近は益々高齢な患者さんが増えて悪性腫瘍や合併症、併用禁忌にも気を使わざるを得ず、気が抜けません。変わったことといえば、2024年から北海道医師テニス大会の会長をさせていただいております。年々参加者が減少傾向で、頭を痛めております。腕に覚えのある方はもちろん、初心者用のカテゴリーも設けてありますので初心者も是非ご参加してください。例年、北海道医報の8月号に要項を掲載しております。それを参照するか私宛にご連絡ください。

宮本 礼子 (吉木)

今年の春に退職し、毎日が小学生の夏休み気分です。その中で、①ゴルフの上達を目指す ②高齢者の筋トレ教室に通う ③(公財)日本尊厳死協会の役員として、終末期医療における本人の意思尊重に取り組む ④読売新聞の医療サイト「ヨミドクター」に、「日本とこんなに違うスウェーデンの高齢者医療・介護」という記事を、スウェーデン在住の看護師長谷川佑子さんと共著で月1回連載する、をしています。いつまで元気でいられるかわかりませんが、笑って暮らしたいと思います。

降る雪や 学生時代は遠く なりにけり

最後にもう一人の同窓会一期生幹事の藤本先生からの同窓会への思いを綴った文章にて1期生だよりを締めくくりに致します。(牧野)

同窓会を身近なものに 藤本 武利 (同窓会一期生幹事)

2021年の旭川医大不祥事を契機に一期生の同窓会幹事2名が交替し、選挙で牧野憲一常任幹事と私が選出されました。コロナ禍を契機に同窓会幹事会がzoomによるリモートで開催されており、私は遠方よりの出席です。2024年末で幹事として務めた最近3年間の年間予算額は、¥10,000,000をやや超えており、結構な金額の会費を運用している組織です。一方、2022年度の同窓会費未納が、請求総額の38.2%みられます。納入率を高めるために一括納入による減額制度を提案し、具体案の検討に入っています。ちなみに、一期生は2022年度の未納額が最小で請求額の17.4%です。なお、「ゆうちょアプリ」を使用して納入すると郵便局にわざわざ出向く必要がなく、そのうえ、手数料も無料で利便性が高いです。依頼人名にオンライン住所録の「登録番号、氏名」を明記してください。

会則第3条に「本会は、会員相互の親睦を図るとともに、旭川医科大学の発展並びに医学の進歩に寄与することを目的とする」と謳っています。残念ながら、同窓会を身近に感じている同窓会員は少ないようです。同窓会への関心と呼び込むため、幹事会出席率も低い若手会員を念頭にSNS発信が考えられています。また、同窓会幹事会は従来HP上に審議題目しか公開してきていませんが、この議事録を如何に公開するか対象者と様式を検討中です。同窓会が大学より寄付を期待されている一方で、同窓生は、この対価として生涯教育の観点からも大学に対して大学設備(特に図書館)の利用を要求してよいと考えています。大学に足を運べば現状でも図書館を無料で利用できますが、学外からの利用ができれば望ましいので、この方法を模索しています。

今回の「各期だより」は、牧野常任幹事に連絡の労を取ってもらいました。連絡のためには、オンライン住所録(メールアドレス登録)の充実が必要です。今回、原稿をお寄せいただけてない方は、連絡先不明の可能性が高いです。これら同期生の連絡先をご存知の方は、牧野常任幹事か私(fujimoto-hgh@umin.ac.jp)まで是非お知らせください。

最後に、下記は最近の海外投稿拙著論文(胆嚢関連)です。暇なときにdoi以下をGoogleの検索窓に挿入してみてください。

- 1) *J Diagn Med Sonogr.* [1st published: January 01, 2023]
doi: 10.1177/87564793221147053.
- 2) *J Med Ultrason.* [1st published: September 23, 2023]
doi: 10.1007/s10396-023-01364-1.
- 3) *Clin Pathol.* [1st published: November 30, 2023] doi: 10.1177/2632010X231218074.
- 4) *Diagnostics*, [1st Published: January 11, 2024] doi: 10.3390/diagnostics14020164.
- 5) *J Diagn Med Sonogr.* [1st published: April 11, 2024]
doi: 10.1177/87564793241241521.
- 6) *J Clin Ultrasound* [1st published: August 26, 2024] doi: 10.1002/jcu.23789.

第2期だより



田川 博

早いもので、卒業して45年目が過ぎようとしています。定年のある病院や、事業所などに勤務していた同期は、第二の職場、さらには第三の職場等で働いている人もいます。また、自分の自由な時間を作るため、完全に退職されている同期も増えてきている様です。私の様な開業医はこのまま継続するか、継承、または閉院するかは全く自由なため、逆にどの様にどのタイミングで区切りをつけるかが迷うところです。個人的には、矢野公一先生から声がかかり、小池能宣先生、後藤眞先生、宮田昌伸先生の同期5人で会う事ができました。話しているうちに、この歳になってもなんとなく学生時代の雰囲気になるのは、同期ならではの不思議ですね。写真を添付します。同期会は残念ながら今年も開催されませんでした。4年前のこの2期だよりに、コロナ禍で延期となっているが、次は旭川で石丸 晶先生が幹事で開催予

定と書きました。しかしながら、その後石丸先生は病気でクリニックを閉院され、昨年逝去されました。同期では残念ながら15人目の逝去です。石丸先生とはスキー部でいっしょでしたが、本当に熱心で部長として今のスキー部の土台を作り上げた一人でした。その後もスポーツマンで本当に元気いっぱいでしたので、あまりにも早い逝去でショックでした。ご冥福をお祈りいたします。来年は是非同期会を開催し、皆とまた会いたいと考えています。また今回は時間がなく、1週間の限定で同期に原稿を依頼したところ、下記の4名の先生から投稿をいただきました。

金谷健史：JCHO北海道病院（旧：北海道社会保険病院）を定年退職後、山崎耳鼻咽喉科めまいクリニックに就職しました（名ばかり理事長）。勤務医時代は、手術、病棟、外来、研修医指導など業務内容は多彩でしたが、開業医になると毎日午前、午後の外来という単調な勤務ですが、そこは諦めて、淡々と業務をこなしております。めまいクリニックなので、外来患者の90%以上は、めまい、難聴、耳鳴です。2024年8月に、めまいに関連する一般書を執筆しました。その結果仕事のモチベーションが少し上昇しました。「正しく理解するメニエール病」というタイトルで、幻冬舎から出版しました。ご興味のある方は、ご一読下さい。

近藤福次：医学生時代に、国連の紋章の上に杖に巻きつく蛇が描かれたWHOの紋章（1948年制定）を見た時、ヘビ年生まれの私は「“ヘビ”が描かれている」紋章の気高さに、WHOの懐の大きさ・深さを思い、感動したものです。医学を目指している私にとっては、『WHOにヘビのマーク』に感謝の気持ちが芽生えました。ヘビの話はさておき、1973年秋開学時の一期入学で、翌春には緑が丘の新校舎での授業。中学時代からサッカー部でしたので、学生課にサッカー部の届出をしたことや、地区での優勝とか当時のメンバーが思い出されます。令和6年の6月には創部50周年のお祝いと試合もしました。その時ボールが目の前に来ても体が動かない不思議さも経験しました（笑）。M6の時、高利貸しの会社を相手に、知人原告側の訴状を提出し、約一年かかりましたが勝訴（全国2例目の勝訴）。嬉しかっ

たことが思い出されます。そのため当然一年留年し二期卒業。でも悔いのない学生時代でした。

筒井真人：今年で70歳になりました。子供の頃から大好きだった雪かきが体力的につらくなり、30年住んだ一軒家に別れを告げ、家内の両親が住んでいた近くのマンションをリフォームして今年の夏に引っ越しました。幸い駐車場も屋内で、雪の心配を一切せずに済むのは高齢者にとって実にありがたいことです。マンションの隣にはローソンもでき、歩いて2～3分のところにスーパー、郵便局、銀行、メディカルモール、ピザハット、ラーメン屋、居酒屋、コインランドリーもあり余生を過ごすには最適のロケーションです。皮膚科医としての仕事はまだ続けており、現在札幌徳洲会病院に非常勤医として勤務、週3回午前外来診療を担当しています。1年ごとの更新ですが、肩を叩かれるまで続けてみようかと考えています。

橋本政明：私とは言えば、来年には「古希」を迎えます。経営者を引退した時点では、な老後を想定しておりましたが、この10月から愚息の配下になり、忙しきで「呼気」ならぬ息があがっております。加えて、寒さを嫌って、北海道を離れたのに、この年で、寒い土地で単身赴任の憂き目を見るとは・・・トホホ。それに、1/週とはいえ、飛行機で早朝から札幌へ、そして、名古屋へ帰れば、帰宅時間は午後11時という生活、辛くないといえ、嘘になる。老体に鞭打つとはまさにこのこと。ただ、愚息に「コキ」使われ、「コキ」下ろされる日々に、不満ばかりかと言え、そうとも言えず、なんと人間は複雑なことか（笑）。むしろ、今は成長してくれた愚息と働ける幸せに感謝。

第3期だより

川村 祐一郎

COVID-19の流行は一応落ち着いているようですが、今でも病棟閉鎖となる病院の話などもあり、2024年同期会は開催されませんでした。したがって同期諸氏の生の様子やお話をモニターすることができず、近況報告を募集しました。お寄せいただいたメッセージを披露させていただきます。

【上原 聡 氏】

開業して丸18年が経過し、寄る年波には勝てない年齢になってきました。そんな中、来春、息子が医局人事を離れて、札幌へ来てくれることが決まりました。これからは親子二人三脚で今しばらく町医者として頑張るつもりです。

【北原（加藤）優香子 氏】

自分が院長のクリニックのMRI,CTの更新を決めました。一時、法人全体の経営に専心しようかとも思いましたが、どうも私は臨床現場がないとダメみたいです。75歳まで現役決定です。笑

【櫛部 朗 氏】

9年間、非常勤でお世話になったオホーツクの病院をお役御免となった。さてどうしようかと思案、歳を重ねるとこの先どんどん不便になりそうな田舎（富良野）から大変便利そうな生まれ故郷の札幌へ移住しようかと考えた。そして4月から札幌南区の病院で週4日、勤務を始めた。結果は……都会の雑踏には馴染めず、便利なマンションの生活も無機質に感じるようになっていた。ふたたびどうしようかと思案しているところに病院から大事な話があるという。年明けに某病院に売り渡すことになり病院の名がなくなるとのこと。全職員が来年1月31日退職、希望すれば新病院に引き続き勤務可とのことだった。都会は遊びに行くところ、都会の絵の具に染まらないまま田舎暮らしを続けるのが自分にはよいということに気が付きつつあったので新病院との面談はせず。11月現在、富良野から遠くないところで今年2度目の就活中。からだは動く限りは雪掻きする覚悟でいる今日この頃なのでした。

【計良 基治 氏】

現職は70歳の年度で再雇用止め。世間は医師不足なのに70歳切りは理不尽。幸い来年度からは別の病院での常勤医勤務が決まり、バリバリ働きます！

【瀬川 雅史 氏】

札幌で小児科を開業し16年、元気にやっています。

【寺井（大野）高子氏】

北広島はエスコンが出来てから賑やかになりました。駅前が変わっていています。変わらないのはアナログな私で電子化やAIが苦手です。本当にどうしましょう。音楽や犬に助けられています。

【野中 聡 氏】

やっとコロナ感染症が落ち着き日常の生活が戻ってきたかと安堵しておりました。私たちの日常診療においては診療報酬の改定や保険証のマイナンバーカード統合に伴う混乱が生じています。私を含む「アラ古希」の世代には、デジタル化の推進による電子カルテやオンライン診療など種々のシステム導入に毎日苦心していると思われまます。

昨年の大晦日に熊井恵美先生が急逝されました。いつもそばで同じ耳鼻咽喉科開業医として親しく付き合っていた私にとっては、本当に衝撃的な出来事で言葉もありませんでした。同期の皆様も同じような思いだと想像いたします。心からご冥福をお祈りいたします。

皆様、どうぞ健康に留意して、来年には旭川で同期会が開かれるようですので、是非とも対面形式で旧交を温めましょう。

【宮崎 勢 氏】

2024年診療報酬改定で、特定疾患療養管理料の対象疾患から糖尿病、高血圧、脂質異常症が除外された。改定率でマイナス0.25%、医療費ベースで1200億円相当の大規模なリストラで、40426施設ある内科系診療所を狙い撃ちにした報酬削減である。私のように地方の小規模医療機関には大打撃となった。物価も目を覆いたくなるほど高騰化する一方で、厚労省は物価高に負けない「賃上げをせよ」と号令をかけている。収入が激減している中、どうやって職員給与を増やせ、とういうのか。

おそらくコロナ禍で仕事が減り、物価高、人口の高齢化が追い打ちをかけたのだろうか、生活保護者が2023年の1年間の生活保護の申請件数は前の年より7.6%増えて25万件を超え、この10年余りで最も多くなった。生活保護者が増加すると、医療機関を受診する患者も増加する。この増加に伴って、福祉事務所から届く医療要否意見書の数も大量となり、しかも記載費用は無報酬、記載にかかる時間は半端ではなく、休日を利用して記載するが、ちょっとした記載漏れでも（血圧値、血糖値、コレステロール値、向精神薬の不記載が指摘の主だが、「め」なのか、「の」なのか）一文字が読めないという、不届きな返戻もあった）嘱託医の指摘で返戻が来る。しかも、返送費用はなぜか医療機関が負担する仕組みである。理不尽きわまる。10月から郵送料金も1.3倍になった。だから、数年前から福祉事務所に早急に意見書をデジタル化にさせていただきたいと要望書を提出しているが、梨の礫である。「福祉事務所職員になぜ返答がないのか？梨の礫じゃないか」と電話したところ、女性職員が出てこう言った、「梨の礫って何ですか？」泣きなくなった。一つ疑問がある。医療要否意見書は事細かく、病名・病状、検査数値、服用している薬剤名を記載するのであるが、個人情報保護法案に抵触しないのであろうか。生活保護者の医療情報は白日の下に曝されてもかまわないという見解なのか。

生活保護医療要否意見書等の事務に関わる費用負担に関する要望について要望書が各地で提出されているので、一つご紹介しておく。

2024年4月の生活保護医療要否意見書等の事務に関わる費用負担に関する要望 全国生活保護医療要否意見書等の事務に関わる費用負担に関する要望

会長 住江 憲 勇

(中略) 郵送料のみならず文書作成等に係る事務的負担が過重になっています。医療要否意見書の他、治療材料、柔道整復・あんま・マッサージ・鍼灸、移送に関する意見書があつて多岐・多量になっており、無視できません。従って以下の点の要望を実現いただけますようお願い致します。

記

- 一、医療要否意見書等の返送に係る事務費用は全額行政負担とするよう通知すること。
- 一、生活保護医療扶助「指定医療機関医療担当規定」第7条を改正し、給付に係る意見書等の作成費用を担当医療機関に支払うようにすること。

どうか先生方も大きな声を上げて下さるようお願い申し上げます。

最後になりますが、2023年12月15日のこと。某製薬会社主催の関節リウマチに関するweb講演後の懇親会で、函館市内のあるステーキハウスを訪れた時のことである。ワインを飲んでほろ酔い加減になっている時、突然、NHK取材班がやってきて、「インタビューしていいですか？」と尋ねるので、「いいですよ」と簡単に返事をしたのである。それが2024年1月から2月まで3階放送されたのである。題して「函館大門の夜」であった。話している時は、何を話したのかあまり記憶になかったが、放送をみて、なるほどこういう話をしていただけなのか、「なかなかいいじゃあないか」と自賛したのである。人生、

上り坂、下り坂の間にマ坂という坂があるというが、私の場合、3度もマ坂に嵌ったことがある。一つは今回、もう一つは裁判所で検察側の証人として出廷させられたことであるが、よい社会勉強になったのは確かである。もう一つの一回は秘密です。長い人生を生き延びるには、マ坂から這い上がる力が必要です。

【室野 晃一 氏】

2022年3月に名寄市立総合病院長を定年退職した後、引き続き同院で小児科顧問として勤務しています。責任ある立場を離れたこともあって、「ワーク」より「ライフ」が充実した日々を過ごしております。

【矢吹 英彦 氏】

昨年11月に間質性肺炎急性増悪状態となり、危うく八代亜紀状態になりかけましたが、幸いにもパルスが劇的に効果を示し、何とか在宅酸素状態は免れました。現在はバイトもほぼ同じくやっており、平坦なゴルフ場でゴルフも楽しんでおります。只、新型コロナに感染するときと死ぬなと思い、人混みは相変わらず避けております。そんな近況です。

皆様の御寄稿を集約しますと、①老後の働き方、②ご自身の健康、③デジタル化の功罪、という諸点に関心が集中しているようで、筆者も全く同じです。筆者は旭川医科大学を2024年3月31日に退職しましたが、同窓会誌の本号に「退職にあたって」という拙文が掲載されており、個人の事情はそれに詳しいのでここでは省略します。写真は、手前みそで恐縮ですが3月19日に「最終講義」を行った際のもので、筆者と丸山純一氏が写っておりますが、間にいるのは筆者の妻です。向かって最右端は、2024年7月1日付で旭川医科大学 内科学講座 循環器・腎臓内科学分野（旧・第一内科）の新教授に昇任された中川直樹氏です。筆者の16歳下のホープです。

最後になりましたが、アドレス不明、あるいは当方の把握しているアドレスが間違っている等の理由で、御寄稿の案内を届けられなかった同期の皆様には、深くお詫び申し上げます。何かの機会にメッセージを頂けましたら幸いです。yk5610@asahikawa-med.ac.jp



第4期だより

幹事 原 洵 保 明

四季会の会員数は卒業時101名、うち10名が逝去し、現在は91名です。昨年（2023年）10月8日に旭川で四季会を開催し、17名が参加しました。（写真右から、小原敦史、藤原幹人、仲谷了、小野寺信男、大木康夫、西村慶太、三上泰久、秋葉純、船井守、橋本和季、辻和之、宮田達也、宮本守孝、伊藤博之、大田人可、中村公英、原洵保明）。来年は東京（西村慶太先生幹事）で開催予定です。



今年の近況報告は再三に亘るアナウンスにもかかわらず、14名しかいただけませんでした。人生も3分の2が過ぎて、多くの会員が第一線を退いています。老いると、かつて共に過ごした仲間の動向も気になるものです…
次回（2年後）は、数多くの会員のご執筆をお願いします。

伊藤博之

2023年3月に定年を迎えた後も、特任教授として埼玉医大総合医療センター（川崎市）に勤務しています。最後の10年ほど人間ドック・心臓内科に加えて当院の専属産業医を務めていたのですがその代わりがみつからず、新たに資格を取られた先生としばらく一緒に業務をしており、2025年度も続けることになりそうです。一方、2022年秋に進行期ホジキンリンパ腫と診断され、半年間外来化学療法を受ける羽目になりました。先日の治療終了1年半のPET-CTでは、寛解を維持できているみたいです。アドセトリスの副作用でいまだに手足がしびれてますが、それ以外は元気です。

大木康生

あと2年で開業30年になります。そろそろ辞めたいのですが、いわゆる総合診療内科医が育てられておらず、勤務医志向が強い内科では後継者探しが困難です。建物を使ってくれる人を探すことになりそうです。診療科は問いません。内科の患者さんは私がバイトでしばらくはつなぎます。

大田人可（大田内科クリニック）

開業して22年がすぎました。最近、周囲で閉院するクリニックや経営を継承・譲渡・統合する医療機関もみられますが、今の所、何とかやっています。クリニックは外来診療と10数人の訪問診療と特別養護老人ホームの嘱託医を1カ所しています。

先日、道北地区老人福祉施設協議会看護職員研修会の講師を頼まれて「高齢者施設における望ましい看取りとは」という講演をしたのですが、その時参考にした「欧米に寝たきり老人はいない」という本の著者は、旭川医大1期生の宮本礼子先生でした。

プライベートでは、3人いる息子たちがここ数年相次いで結婚し、一昨年は教会でウエディング（札幌）、昨年はリゾートでウエディング（宮古島）、今年はガーデンでウエディング（上川町）と、3者3様で楽しませてもらいました。

大滝憲二（旭川赤十字病院）

寄る年波には勝てず、仕事は減速中です。ストレスが減ったので血圧だけは正常範囲

片岡 亮

ご無沙汰しております。

私は17年前に北晨会恵み野病院を退職し開業しておりましたが、2年前に後継者（今村先生、北大）に継承していただき退職しました。ボケ防止に月数回バイトしておりましたが、バイト先の日本健康倶楽部北海道支部から役員の申し出があり、現在札幌駅前の常設センターの院長をしております（ほとんど仕事はないですが）。時間がたっぷりありますので、ゴルフ（年100回ほど）、孫に会う（孫8人、全員東京）、車で長期旅行（昨年山陰、今年四国、来年は九州）などブラブラしてます。いくらでも付き合えますので、お暇なら連絡下さい。

追伸：みなさん健康に気を付けて下さい。私は今年大腸ポリープとり、一部癌でした。

金井直樹

週3回の定期非常勤バイト（午前のみ）を続けています。白内障の手術予定してます。

坂田博美

相変わらず、定年無しの透析専門医指導医として地域医療に従事しています。

全国学会は年3-4回程参加して、観光がてら知識をbrush upしています。privateでは、wine, golf, walking, high-reso audio, home theater, BBQ, 食べ歩き、温泉巡りなどで忙しくしています。最近、恩師の水戸先生、久木田先生が逝去され、毎年の健診は欠かせません。

辻 和之（花月クリニック）

老化とともに筋肉量が減ったり、体が硬くなったりするので、このままでは、ヤバイと妻に背中を押されて、ライザップのシニアコース通い始めて1年になります。自覚的には、体が硬くなっていると思っではいるが、実際トレーナーについてやってみると、結構硬くなっているのに気付かされました。

BMI=19.4と脂肪量がかなり低く、筋肉は、標準の適正量を維持しています。

趣味のオーディオは、ショップの担当者の言うがままに金食い虫状態ですが、音が良くなりノラ・ジョーンズが目の前で歌っているかのような陶酔感に浸っています。

中村公英

四季会の皆様お変わりありませんか。

私は秋田犬との朝晩1時間ずつの散歩と孫の遊び相手を日課として、のんびり暮らしています。仕事は週2回の非常勤医師を認知症予防と孫の小遣い目的として行っています。

暇にしていますのでいつでも声を掛けてください。

成島 淨

昨年つくば市医師会長に就任し、診療は長男に任せ公務に励んでいます。
興味のある方は当院「医療法人成島クリニック」をご覧ください。

西村慶太

3月に帝京を退職し、現在都内の整形外科病院にいます。
帝京は客員教授として週1回半日顔をだし、細々研究を続けています。
東京に来た際はぜひ声をかけてくださいませ。

原淵保明

2022年3月に23年間務めた大学教授を退任後、2年半になります。

現役時代のストレスと不摂生がたたりに、今年1月に冠動脈ステント手術を受け、DMや高脂血症などの薬を計10種類服用しています。現在は、名寄（週1-2日）と根室（月に2泊3日）の勤務、学会活動として上咽頭擦過療法委員会の委員長として前向き試験やガイドライン作成に携わっているのみです。

普段は美瑛、富良野を中心に北海道の四季を写しだす風景写真、ゴルフを中心に、ジム、釣、園芸、日帰り温泉、ドライブといった自己研鑽の毎日で、ストレスフリーの穏やかな生活を送っています。お陰様でこの1年で7~8kg減量となりました。減量した分、筋肉が衰えたのか、10月にリビングでつまづき、転んで医大で手術、現在は鈍い痛みはありますが、不自由ながらゆっくりなら歩けるようになりました。

Facebook、Webページを開設していますので、どうか御覧下さい。

Website : <https://www.yharabuchi.com>

Facebook : <https://www.facebook.com/yasuaki.harabuchi/>

YouTube : https://www.youtube.com/channel/UCKN6gYrCa7IqzaWI_lfuBVw/videos

**船井 守**

2年前に高知市医師会長になり、高知県医師会副会長も兼任。高知県小児科医会会長も続けていて、県と市との会合が多く、昼間の診療より、夜の会合が忙しい。

体もあちこちが具合悪くなり、いろんな病院を受診している。

本間則行

現在、新潟市近くの民間病院に勤務しています。週4日の勤務で、主に透析の入院患者、外来患者を診ています。管理者としての立場からは解放されましたが、臨床の現場での家族への対応、看護職員への対応に日々神経をすり減らしています。こんなはずではなかったのに、もっと楽な職場はないのでしょうか。

それでも休日には録りだめした映画をゆっくりと鑑賞し、精神と肉体のバランスを取るようになっています。

第5期だより

紀野 修一

20名の同期生から近況報告が集まりました。文字数の関係があり全文を掲載できないので、Chat GPTで要約してみました。原文と比べておかしいところは紀野が訂正しました。

なお、ご逝去された宮本和俊君に関しては、奥様の晶恵さんが書かれた全文を掲載します。ご冥福をお祈りします。

【故 宮本和俊】

2020年3月旭川医大小児外科教授退官後、道北勤医協副理事長に就任し北海道初「こども便秘外来」をはじめ、便秘で苦しむ多くの子ども達を助けてきました。そんな中、2023年11月18日に心原性血栓による左内径動脈脳梗塞を発症。旭川日赤で血栓除去術、旭川医大循環器内科でアブレーションをうけりハビリに励み失語症は残しましたが、温泉に行けるまでに回復していました。しかし、2024年9月27日、大動脈解離により急逝。満70歳でした。同期の皆さま、ありがとうございました。

(妻・宮本 晶恵 記)

★以下、ChatGPTがアツという間にまとめてくれた近況報告です。その秀逸さに驚きました。報告が到着した順に並んでいます。

【山本浩史】 2023年3月に秋田大学心臓血管外科を定年退職した後、再雇用され、特別教授として「遠隔医療推進開発研究センター」で勤務しています。秋田県の高齢化を受けて、無医地区に住む高齢者向けに移動診療車を導入し、オンライン診療を行うプロジェクトに取り組んでいます。

【宮本晶恵】 夫の和俊が急逝後、日々の事務手続きに追われながらも、2025年3月に旭川療育センターを定年退職予定です。新たなキャリアとして、子ども医療に取り組んでおり、体調に気をつけながら生活しています。

【山本明美】 2023年3月に旭川医大を定年退職後、「iDREAMCOACH」というコーチングビジネスを立ち上げました。ビジネス拡大を目指し、メルマガ配信も行い、自己啓発と新たな挑戦に取り組んでいます。

【錫谷達夫】 福島県立医科大学を定年退職後、市内の大原総合病院で再就職し、看護専門学校の校長としても勤務しています。病院でのワクチンセンターの立ち上げにも関与し、地域医療に貢献しています。

【高桑良平】 2024年3月に定年退職となり、現在は嘱託医として麻酔科や感染対策を行いながら、週4日勤務しています。コロナ禍で多忙を極めました。今後は自分の時間を確保したいと考えています。また、母親が高齢となり、函館に引っ越しを考えています。

【坂田耕一】 2024年3月に札幌医大を退官後、東札幌病院で放射線治療科部長として働いています。地域の進行癌患者の治療に従事し、医療現場での貢献を続けていますが、後任教授の決定が懸念されています。

【橋本喜夫】 厚生病院皮膚科で嘱託勤務をし、皮膚科のない地方病院への出張も行っています。また、俳人として活動し、趣味で俳句を楽しんでいます。

【倉林 均】 埼玉医科大学リハビリ科を定年退職後、非常勤勤務をしつつ、温泉学会に参加し、全国各地の温泉巡りを楽しんでいます。今後は群馬県の癒やし系医療機関での勤務を考えています。健康増進のためのスキー、スケート、ゴルフをしています。

【中野 均】 胃アニサキスを発症しましたが回復し、日々忙しい診療所で勤務しています。健康管理を

意識してウォーキングを行い、老後のゆとりを望んでいます。

【長田 薫】 2024年4月から武蔵野中央病院で高齢者医療に従事しています。認知症や寝たきり患者の治療を担当し、医療の原点に戻った感覚を持ちながら仕事を楽しんでいます。

【田中秀一】 札幌市北区の北成病院で人間ドック健診を行い、内科当直も月2回行っています。へき地医療に貢献するため、新冠での当直を行っています。

【鈴木直己】 旭川市保健所長として4年間、コロナ対応に尽力しました。2024年春には定年退職を控え、今後の進路を模索中です。

【大城康一】 沖縄の大浜第一病院で院長として勤務しています。地域医療に貢献し、循環器オンコールを月に8回担当しながら、病院経営に苦しむ日々を送っています。沖縄にこられる際には、お声がけください。

【伴 俊明】 古希を迎え、立派な高齢者となりましたが、いすみ医療センターの院長として、外房地域で高齢者医療に取り組んでいます。医学の進歩に追いつくのが大変だと感じつつも、孫との時間を楽しんでいます。

【竹中 孝】 3月に定年退職しましたが、期間職員（シニア医師）として北海道医療センターに残っています。シニア医師の名に違わず、聴力低下が悩ましい今日この頃です。

【松橋浩伸】 滝川市立病院の院長として地域医療再編に取り組んでおり、コロナ禍を乗り越え、忙しい日々を送っています。ゴルフの腕前が年齢とともに衰えていますが、再会を楽しみにしています。

【長野洋司】 2000年に今治市で長野整形外科クリニックを開業し25年。FC今治のチームドクターを務めています。チームはJ3からJ2に昇格し、今後も活動を続けます。

【水永光博】 永山腎泌尿器科クリニックで勤務し、ジョギングを日課にして健康を維持しています。また、献血も再開し、社会貢献活動を行っています。

【水本博章】 76歳で眼底出血し、生活に支障があり来年3月閉院します。定期通院患者1000名分の紹介状を書くため命削る毎日です。門は開けるより閉じる時の方が大変です。すべてが懐かしい思い出になってきました。

【坂田葉子】 旭川で小児科クリニックを開業して25年。子どもの数は激減しが、手のかかるお子さんたちがとても増えました。医療現場での新たな課題に直面し、対応に追われています。

【紀野修一】 東京へ単身赴任して早2年。少子化、高齢化、人口減少で、将来にわたり献血血液が確保できるか心配。医療に必須な輸血用製剤、血漿分画製剤が今後も安定的に供給できるように、身近な人たちに献血を勧めて下さい。

★ChatGPTが生成した「まとめのこぼし」

この報告から、定年退職後も多くの医師たちが地域医療や専門分野で貢献し、充実した生活を送っていることが伺えます。また、健康に留意しながら新たな挑戦を続ける人々の姿が描かれています。

(文責 紀野修一)

第6期だより

幹事 中 條 拓

2024年8月24日に小原君、藤本君が幹事を務めてくれてアートホテルで5年ぶりに同期会が開催されました。当初の予定では2022年開催の予定でしたがコロナ禍で延期となっておりました。

総勢34名が出席し、母校の学長に就任した西川君のあいさつに始まり、それぞれが近況を報告しあいながらあっという間に過ぎた楽しい時間でした。写真の通り皆少しだけ年を取り、65歳を迎えて定年退職後の進路や年金の話題でも盛り上がっていました。

次回は鈴木君、西川（恵子）さんが幹事を務めてくれることになりました。



青島 正大

昨年12月にこの歳で千葉県船橋市でクリニックを開業しました。診療はともかく、経営、人事労務など慣れないことばかりで試行錯誤の毎日、そのほかGoogleの口コミとかへこみそうになりながらも1年経ちました。なんとか患者さんも増えてきています。興味があればホームページ覗いてみてください。 <https://bayfront-cl-m.jp>

先日、東京の学会で卒業以来初めて角谷君と会いました。そのときの写真です。



伊藤 善也

2024年3月で退職金をもらいましたが、その後も再雇用により同じ場所で同じ仕事をしており、生活は何も変わっていません。医局の後輩達にそそのかされ、気を使わせながら、9月には学会での野球大会に出てヒット1本、盗塁3個。からだは何とか大丈夫です。

小原 充裕

市内の中島病院勤務続けています。2024年8月卒後40周年の同期会の幹事を藤本君とやりました。多くの仲間と再会し楽しい会でした。昔の日々を思い出しましたが、今の皆を見て年を取るのも悪くはないなと感じました。

笠茂 公弘

旭川医大を卒業後、日大精神科に16年。その後、2000年に製薬業界に転じ、2回の転職を経て現在の会社にいます。2019年から米系製薬会社の日本法人、アレクシオンファーマ合同会社の社長を5年半つとめ、2024年12月31日を以って退任予定です。2025年3月末の定年退職までは顧問として残ります。臨床・教育・研究の場から製薬企業に移り24年あまり、直近は外資系製薬企業の日本法人の社長をつとめるという得難い経験をさせていただきました。社長在任の5年半で事業規模を約3倍(対・社長就任前年)に成長させましたし、数値的指標に限らず、様々な点で、会社が大きく成長した5年半と思います。社長として満点ではありませんが、十分な合格点つけられると自負しています。走り続けたので、退職後はしばらくのんびりしようと思っています。

幸村 近

北海道医療大学で臨床検査技師養成学科を始めて6年になります。来年5月に臨床検査専門医会の全国大会を札幌で開きます。大学院の博士後期課程まで作ったのもう少し仕事を続け、北広島へのキャンパス移転より前に退職します。今年、結構大きな病気になりました。幸い後遺症はなく、再発しないように無理せず気を付けています。今も札幌で単身赴任ですが、役目を終えたら旭川でゆっくり過ごすつもりです。

高橋 淳

岡山協立病院の院長をしています。サッカーもまだやっていますよ。先日中村浩と夫婦4人で岡山の旅をしました。彼は千葉県柏市で開業しています。元気でしたよ。



西川祐司

この11月で、旭川に戻ってから15年、学長を務めてから2年7か月が経ちました。多くの懸案を抱える中、奥村利勝先生に助けられながら、校務を続けています。病理学の仕事は途中で中断してしまいましたが、4月にこれまでの肝病理研究を日本病理学会の英文誌に総説としてまとめ、一区切りをつけました。6月にはタイのランパーン病院と協定を結ぶために久しぶりに外国を訪れました。9月には学長アドバイザーの森千里先生(千葉大学)のジュネーブ国際機関視察に参加させていただき、見聞を広めることができました。先日、浜頓別町の中高生に話をする機会があり、子供達の純朴さとクッチャロ湖の自然に心を洗われました。そしてその足でとうとう稚内と利尻島を旅し、積年の念願を果たしました。

浜口千佳子

稲生会生涯医療クリニックさっぽろ(手稲区)という、在宅呼吸器管理をしている乳児?成人の訪問診療クリニックをご存知でしょうか。札幌市?千歳、江別、小樽にも行っています。とても勉強になる唯一無二のクリニック。私は非常勤ですが常勤でもライフワークバランスとれる職場だと思います。興味のある先生方、ぜひHP見てみてくださいね。見学も大歓迎です。

南 宏明

私は現在勤医協伏古10条クリニックで内科外来と訪問診療しています。三大疾病に罹患しておりますが、内服薬とテニスと毎日体重計にのり、元気です。

向山 新

立川相互病院副院長（整形外科）を、今年度末で定年退職予定です。しかし、人手不足なので引き続き仕事はあまり減らずに続けることになりそうです。

被爆者医療、反核運動は引き続き関わっていて、今年から反核医師の会の共同代表世話人に就任いたしました。被団協のノーベル平和賞授賞は、自分の事のように嬉しく思っています。田舎の菩提寺（恵林寺）の近くの山の中に、あばら屋を借りて週末（と言ってもあまりいけない）過ごす2拠点生活を始めました。近くのワイナリーをめぐるったり、庭仕事をしたりしています。

山賀 慎一

令和5年1月に職場で倒れて脳梗塞になりワレンベルグ症候群になりました。

治療していただいた旭川日赤病院脳外科の先生方、クリニック診療を継続していただいた旭川医大整形外科教室及び同門の先生方に心より御礼申し上げます。同期の徳廣君いろいろマネジメントありがとうございました。また大学同窓会6期幹事を急に引き受けてくれた中條君に感謝いたします。令和6年11月の現在、めまいや失調歩行でふらついています。複視や顔面、半身の感覚障害は慣れてきて大変ありがたく思っています。

クリニックも4期の稲尾先輩の助けを借りて、仕事のスピードは落ちましたが何とか地域医療に努めています。またリハビリのつもりでゴルフとガーデニングも続けています。

アドレスやパットの時にふらついて静止するのが難しいですが楽しくやっています。バラの剪定で痛覚が鈍いため手が擦り傷だらけの時もありますが花の美しさに癒されています。

冬直前の旭川の曇天の景色と相まって、もう以前の自分のように自由に動き回することは出来ないと思うと落ち込むけれど、生きてることが大切だと自分に言い聞かせています。私にとっての初孫が生まれた長男、続けて6月と7月に結婚した長女、次女のそれぞれの家庭の幸せを願いつつ生きていこうと思います。皆さんも高血圧、高脂血症を甘く見ないで、くれぐれも自己管理を怠らないようにご自愛ください。

第7期だより

常任幹事 稲葉 聡

7期生の皆さん、元気にお過ごしでしょうか。若い頃のようにはいかないなあ実感している日々かと思いますが、から元気で頑張りましょう！（稲葉）

我が7期、恵佑会札幌病院副院長（耳鼻咽喉科）、渡邊昭仁先生が、本学同窓会第23回医学奨励賞、特別奨励賞を受賞しました。記念講演会が令和6年10月8日、西川祐司学長、藤谷幹浩会長のご出席のもと、看護学科棟大講義室で記念講演会・授賞式が行われました。受賞題目は『頭頸部表在癌の診断と低侵襲治療の確立』です。渡邊先生は癌を専門とする病院で数多くの患者さんと真摯に向きあい、Narrow Band Imagingを耳鼻科領域で初めて導入し、それらの結果から世界に先駆けた「頭頸部表在癌」という診断概念を確立しました。また治療においても内視鏡下咽喉頭手術の第一人者として活躍中で、さらにロボット手術にも着手しています。これらの成果を数多くの英語論文で発表した偉業を、気取ることなくわかりやすく講演し、聴取者に強い感銘を与えました。西川学長より受賞のご紹介と表彰をいただき、また出身の耳鼻科医局から花束贈呈がありました。我が7期からはこれが初めての奨励賞受賞で喜ばしい限りです。7期幹事の私が座長を務めましたが大変感激の1時間でした。（太田）

旭川医科大学医学部医学科同窓会
第23回 医学奨励賞受賞記念講演会・授賞式



【赤坂伸之】 10年間、製鉄記念室蘭病院心臓血管外科に勤務しておりましたが、諸般の事情にて令和6年10月に釧路孝仁会病院に移動しました。ゴルフができるうちは仕事ができる、を実践してもうひと働きする予定です。**【秋葉裕二】** 1997年から27年あまり旭川厚生病院に勤めています。呼吸器内科を新設すべく赴任した経緯で、一人での診療から始まり、現在は5人体制です。65歳の誕生月が定年となるため、今年の6月で定年退職となりましたが、続けて再雇用の上、嘱託医として働いています。役職が全くなしとなり、少しお気軽であります。約4年半、病身（担癌状態）であり余り長く勤められないと思っておりますが、診療自体が好きで生きがいでもありますので、できる間は続けようと考えています。**【朝倉利久】** 埼玉医科大学国際医療センターで心臓血管外科医を続けています。働き方改革の名のもとに患者の具合が悪くても帰宅する今の若い医師達とその結果として失われていく患者の命を見るにつけ、今後の医療の現状を危惧しています。**【東 信良・百絵】** 東：ひたすら血管の道を突き進んでいます。日本静脈学会をR7年旭川で開催しますので、応援よろしく！モエ：依然として意思疎通不能のモエです。でも、頑張ってます！病院長が見舞いに来たときは笑顔をつくるようにしています（当院ルールとして親族以外は未だ面会不能、悪しからず）。**【石井良信】** 市立旭川病院に勤務して29年になります。循環器救急が好きでやってきましたが、今はほぼデスクワークのみ。肺炎を起こしたり、古傷の膝を痛めて注射通院したりの日々です。いつまで働きますかね？**【市川良之】** 開業して、30年になります。息子にもう全て任せても良いのですが、まだ働いています。あと数年で引退??**【一色 学】** 道庁の異動で7年ぶりに北見の自宅で妻と2人暮らし。網走に秘密基地をこしらえて、金曜テレワークと土日は北見で過ごし月～木は網走と紋別で仕事。定年延長で、まだしばらくは道職員で過ごす予定。神経痛や関節痛にも負けずに、エアロダンスとズンバダンスに通ってます。**【稲葉 聡】** 遠軽厚生病院勤

務28年、趣味は孫。たまに手術のお手伝い（邪魔）をすると、へとへとになります。これから先の働き方、思案中です。【大見広規】まだ、老健勤務継続中。明治時代の医学史を調べて遊んでいる。【太田勲男】24年半、旭川赤十字病院に勤務し定年を迎えます。眼科勤務医不足の現状のため、引き続き嘱託医として働きます。体力が落ちていますが、もう少し地域医療のため頑張ります。【太田知明】函館の病院（2か所）に勤務し29年。現在は函館渡辺病院で消化器内科・内科を担当。今年1月にとうとう私も新型コロナに感染。軽症で回復したのですが、3月ごろから心房細動に気がつきました。カテーテルアブレーションを行うことになり、11月5日に入院して術前の造影CT、経食道エコーを行いました。6日朝に主治医が見えられ、左肺静脈に4～5mm程度の血栓がCTで確認され本日の治療は中止しますと。ワーファリンを開始し、頭に飛ぶのではと不安も少し持ちながら生活しています。納豆も食べられません。65歳になればこんなモノでしょう。皆様もお体にはお気をつけください。このようなこともあり、少し仕事も減らすため、12月31日で現在の病院は退職し少し内視鏡など手伝いながら市内の他の病院に移ることになりました。【岡田 靖】健康上の問題で2023年末に医師を引退、悠々自適といかないのが困ったところです。皆様、くれぐれもご自愛ください。【長内 忍】まだ、旭川医科大学にいます。所属部署は「内科学講座 呼吸器・脳神経内科学分野 地域医療再生フロンティア研究室」という難解な名称です。本学にご来訪の際にはお気軽にお寄りください。【小澤幸彦】ゆうあいクリニック院長を退職して、名誉院長というポストをいただいて、非常勤で仕事をしております。あまり暇になっていないです。前立腺癌は相変わらず生えてこないです。PSA測定とMRI検査でフォローしていますが、ずっと異常なしです。誤診だったのですかね？【加藤（竹本）幹子】札幌市地下鉄東西線西28丁目駅ナカ1Fを改修して、小児科クリニック開業13年になりました。東西線は1976年開業ですので、日々老朽化を感じながら診療しています。細く長くを目標にいつまで診療できるかなと思っています。【金関延幸】2年前、75才でリタイアしました。今はもっぱら国内外の世界遺産巡り、シーズン中はゴルフです。【川名英世】「先生は若々しいですねー」と事務や看護師からおだてられ月5回当直のヘタレ院長してます。【川端規弘】岩内町で約16年間開業医をしていましたが、2023年5月に診療所を継承してもらいました。その後は、札幌で非常勤医をしています。1人で透析、入院患者を抱えていた開業をやめ、今はストレスの少ない生活をしています。【木村 隆】院長になり早3年。半分医者、半分管理者で過ごしています。医者の仕事も大変だけれど、楽しかったなーと思いつつ今日この頃です。【黒川聰則】釧路に来て32年になりました。人生の半分をここで過ごしています。院長・理事長・会長と三足の草鞋を履いて走り回っていますが、フルマラソンのタイムは遅くなる一方です。【黒須昭博】昨年まで順天堂大学練馬病院リハビリテーション科の科長をしていましたが、今は早期退職して都内の民間病院で働いています。大学病院は何かとストレスフルでしたが、現在はほぼストレスフリーで気楽に過ごしています。【小村好弘】もう定年を迎える年になって、役職が変わっても仕事は減らない毎日です。初孫の成長が楽しみのじいじやっています。【斉藤（増田）信子】日本の行く末を憂いて、2014年にセミリタイアしてニュージーランドに移住。その後2024年6月完全リタイアメントしてバヌアツ共和国で暮らしています。牝鶏を飼い、バナナ、パパイヤ、アボカド、野菜を収穫して半自給自足で遊んでいます。もう何もいらな思っていました、プール自動掃除機と自動芝刈り機が欲しい今日このごろです。【坂上晃一】運動しないと筋肉痛が生じるので定期的に運動が必要な身体になってしまいました。人生設計では60歳で優雅にリタイア生活に入る予定でしたがままたまならず、今も医師業務を続けております。早く人間になりたい！（妖怪人間ベム風に）もとい、早く3食、ゆっくり食べて食後の昼寝ができるような生活になりたい。【佐藤広和】JR北海道の産業医をしてはや35年が経ちますが、今のところ元気で道内あちこちに出張しています（もちろんJRで）。【佐藤正夫】今年3月に一応定年退職になりましたが、なんだかんだでまだ非常勤講師をやっております。残務整理や、複数科の病院通いも増えまして、なぜかゆっくりできません。とりあえずの健康維持が今の目標となっております。埼玉医科大学、保健医療学部。【七戸康夫】4月から副院長になっちゃいました。好きな言葉は「産業収支改善」、嫌いな言葉は「組合労使交渉」です。まだ救命センターの夜勤を月3回やっています。残

り少ないライフを全て赤と黒に捧げ、今年もアウェイ遠征7回、11/9のアウェイ湘南戦ではゴル裏最前列で吠えていたらTVに抜かれちゃいました。それにもかかわらず7年守り抜いたJ1から降格の危機！でもまだ諦めてません、Never Surrender。【柴田 定】卒業してからずっと勤医協にいます。ついに来春で定年です。身体を痛めながら、テニス・サッカーを細々と続けています。【高畑 治】この4月から旭川市内のペインクリニック病院へ異動した高畑です。実際の業務はペインというよりも関連する老人福祉施設で体調が悪くなった高齢者の管理を担当してます。いつ診る側から診られる側になるのだろうと思ひながら、お勤めしてます。最近の80代はお元気だなと感じるこの頃ですが、皆様、体調管理には十分お気を付けてくださいませ。【館石宗隆】新型コロナ対策では、多くの先生方に大変お世話になりました。2022年3月をもって札幌市保健所を最後に行政医を卒業して、現在は北海道結核予防会で健診と産業医の仕事に従事しています。70歳までは仕事を続けていきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひいたします。【田中利和】毎日好きな手の患者さんだけ診ています。好きなことをする時間しかありません。毎日充実しています。柏Handクリニック。【田中宏之】小樽市保健所に来て5年目になります。令和6年12月2日に小樽築港駅直結のウイングベイ小樽に庁舎が移転します。近くに来ることがあったら全国でもユニークな商業施設内の保健所に是非お立ち寄りください。【田村保明】中標津の町立病院で、病理医をやっています。車で20分の野付半島トドワラに学生時代以来45年ぶりに訪れたところ、あの幽玄な景色は全くなくなっており衝撃を受けました。今年5月には屋久島の縄文杉登山をしてきました。3000年変わらず存在し続ける縄文杉がある一方で、変わらないはずと思っていた大自然さえ、その姿を変えていくことを目の当たりにして、自分も古き良き時代にしがみつかず変わっていくことが必要だな、と痛感しました。でも相変わらず声はでかいです！【遠山三四夏】開業して20年たちました。ランドセルしょってお母さんについてきた子が赤ちゃん抱いて受診したり、更年期かしらとみえた方に主治医意見書を書くようになったり、年月を感じるこの頃です。私もそろそろ…札幌市東区で内科を開業していただける方探しています。【長野悦治】家内が小児科診療をしているクリニックの2階で耳鼻科を開業して約2年が過ぎました。幸いな事にお互い喧嘩せずにやっています。電子処方箋に必要な医師資格証（HPKIセカンド電子証明書）も手元に届かない状態ですし、紙カルテに慣れているアナログ人間にとって、電子カルテへの拒絶反応は強く医療DXへの対応に苦戦しています。もしかして、このままでは廃業？と家内とも話している次第です。【中山桂司】小生は、ザイム真理教による医療費削減政策にもめげず、まだ細々と、さいたま市内で循環器内科開業医やっております。【西原正幸】2012年7月に留萌市にて西原腎・泌尿器科クリニックを開業しました。まる12年経過し、おかげさまで優秀な7名のスタッフに支えられ日々診療にあたっております。最近年齢のせいか少々疲れが溜まって来ているような気がします。これからも自身の健康に留意して、地域医療に邁進したいと思っております。【丹羽一善】そろそろ年金をいただける年になって、将来の閉院の時期を考えることが多くなりました。最近仕事は趣味となってしまう感じなので、もう少し張り切ってやってみようと思っています。【林 公人】2022年から精神科単科の道立病院で院長しています。今年の2月の当直明けに突然の右眼周囲の発赤と腫脹と38℃の発熱あり。外来当直の看護師から「患者さんに叩かれた？」と心配されてしまいました。診断：丹毒でした。【藤田（山口）結花】今も主治医をしているゆかぼんずです。忙しいけど、カワイイものたちに囲まれて毎日楽しく暮らしています。【松田 年】開業して6年が経過しました。何とか潰れないように毎日あくせく働いています。9月に東京浅草で日帰り手術専門の分院を開院しました。毎週、旭川と東京の行き来をしています。いつまでたっても楽にはなりません。【松原悦郎】3月末に大分大学神経内科学講座を定年退職し、現在は大分大学特別教授と白杵市医師会認知症先端医療学研究所所長の二刀流です。【溝口弘美】当協会では定年が65歳になっているので、まだ現役です。とはいえ当直に入ってるわけでもないのだけど。65歳すぎたら仕事日数減らしたいと思うこの頃。【村上達哉】苦小牧から旭川に移って8年経過。手術よりも料理の腕が上がった。趣味は医局で昼食を調理すること。エスニック料理（中華、インド、タイ）にも挑戦中。【矢沢和人】生まれ故郷の群馬県で保健福祉事務所・保健所に勤めています。今は公衆衛生分野で働いてい

ますが大先輩である山長（山本長史先生）の頑張りに強い影響を受けつつ全国保健所長会の一員として日々を過ごしています。**【山口 聡】**元気に過ごしていたつもりですが、ここ2年間で、Afでアブレーション、アキレス腱断裂、胆石症など、他にもいくつか・・・見事に身体がガタついておりますが、何とかフルタイムで頑張っております。**【吉田英次】**小生は整形外科、荆妻は内科で旭川の街中でビル開業をしております。仕事の量を年毎に減らしています。**【吉村（寺島）恵理子・信行】**相変わらず信行と付かず・付かず・離れずクリニックやっています。そろそろ世代交代で愚息が4月より耳鼻科に参入してくれて楽になりましたが、おかげで体重増加。夏に人生初の人間ドックへ。Aランクは聴覚のみであとは全て要再検。身体だけは自信があったのに揺らいでいます。信行は「あれっ！大丈夫？」が増えて、おまけに説教くさくなって・・・。ゴルフで息抜きしているようです。**【渡邊昭仁】**恵佑会札幌病院の耳鼻咽喉科で働いて30年になります。頭頸部癌を主に行っていますが、30年の集大成で今年同窓会の特別奨励賞をいただきました。母校を久しぶりに訪れて、昔を思い出し泣きそうになりました。ありがとうございます。

第11期だより



とうとう我々も還暦だー

代表幹事 小笠 寿之

11期のみなさんこんにちは。代表幹事の小笠です。表題にも書きましたけど、現役入学の同期は今年60歳、つまり、還暦を迎えた年となりました。まだ、これからの人もいると思いますが、ご家族（または病院スタッフ）に赤いちゃんちゃこでお祝いされたことと思います。さあ、「これから新しく生まれ変わった」気持ちでこれからの時代を迎えましょう！

さて、本日まで、同期の訃報はありません（アー良かった）。皆さんが心配されている私のHb1cも8.2%まで下がりました（「お前内科だろ！」との声は多数寄せられています）。単身赴任11年目ですが、これからも食事と運動＋薬物療法頑張ります。

さて、11月16日に札幌ニューオータニインで「旭川医科大学昭和58年入学及び平成元年に卒業した同期と仲間の会」を久々に行いました。5-6年次学年担任でした八竹直旭川医大元学長（元泌尿器科教授）にも御列席いただき、仲間29名が集まりました。秋葉（受付ありがとう）、浅野、安保夫婦、井内（幹事ありがとう）、井手、太田、小笠、尾形A、小原、川上、河野、久保、小林（泰之）、佐藤（淳）、鈴木（隆司）、高橋、竹田津、田中、寺山、廣島、藤井、藤谷、藤原、本間、前田、矢萩、山口（滋紀）、米山が出席。当日の列車事故で函館からの斎藤（美也子）と仕事の都合でドタキャンとなった永井が来れなかったのが残念でした。詳細は、11期のFacebookに載せていますので、ご参照ください。まだ、このFBに加わっていない方は、小笠（ogasa39@asahikawa-med.ac.jp）まで連絡ください。八竹先生の熱いメッセージ聞いてください。まだまだ私たちは「ガキです」、これからも第一線で頑張んなきゃと感じます。





あと、本会に参加できないと連絡くれたのが青木、青山、赤坂、猪川、石崎、石田、伊藤、稲葉(和紀子)、岩切、上北、榎本、大西、奥山、笠原、鹿野、木戸、黄、後藤、佐藤(紀)、佐藤(剛)、篠原、須藤、銭丸、高木、武田、谷内、谷口、玉川、田屋、塚本、研谷、鳥家、中隋、西垣、山田、長谷川、原、星、町田、水野、三宅、明、森山、矢倉、山口(聖)、山口(修)、山本、湯浅、横山(和)、横山(哲)、渡邊、稲場(守)、上西、大角、大坪、解良、高橋(啓)、武田(昭)、橋本(学)、林、平井、村木、蕨、小佐川、加藤でした。メールアドレスも把握できたので、後日集合写真送ります。期待してください。7人はとうとう勤務先が不明で残念ながら連絡できませんでした。それ以外の仲間よ、こっちは往復はがきで、きちんと君たちの職場に連絡したぞ！忙しいのはわかるが、せめてリアクションぐらいしてくれないか？

今回は、室蘭で院長されている前田君と、広島で総合病院を経営している藤原君に近況報告をお願いしました。

次回の同期会は旭川での開催予定です。お楽しみに。さあ、残りの人生を家庭に、仕事に、趣味に楽しみましょう！！

近況報告

大川原脳神経外科 前田高宏



2024年11月16日にホテルニューオータニイン札幌で「昭和58年入学及び平成元年に卒業した同期と仲間の会」がありました。昭和58年入学は11期という事になります。そして今年で還暦を超えたことになります。コロナ禍もあけたとの事で11期の代表幹事である小笠寿之君（北海道立北見病院呼吸器内科）が同期会開催の労をとってくれました。

わたくしも先日の同期会に出席させていただきました。5～6年生時に学年担任をしていただいた八竹直先生（泌尿器科 元旭川医科大学学長）もご参

加していただいております。先生は今でも外来をされているようで、還暦を迎えた我々にも還暦などまだまだ若い、これからだと思って働きなさいとエールというか喝をいただきました。私の専門科である脳神経外科も御多分に漏れず若い方の入局者がそれほど増えません。したがって、高齢化が進んでおります。一方、地域の高齢化も進んでおり、脳血管疾患の罹病もふえており、需要が増えております。したがって、還暦だからと言って隠居するわけにもいかないようです。脳神経外科に進まれた先輩方もまだまだ働いておられます。

少し話がそれてしまいました。久しぶりに会った同期の皆様は、卒業から35年ほどたち年齢を重ね、貫禄がついておりましたが、みな学生ころの面影がのこっており、会話をするとそのしゃべり方は全く変わっていないことがたいへん面白く感じました。なんとなく学生の頃に帰ったような気になりました。そんな同期会でありました。卒後35年ほど経て、それなりにみんな肩書がつき、何人かは教授になり、それぞれの職場で中心的な役割を果たしているようです。小笠君の言葉ではないですけど「11期すごいな」と感じ入った次第です。

その同期会の席で小笠君から「同窓会誌の各期だよりを書いてほしい」と頼まれてしまいました。何を書いたらいいものやら・・・

平成元年に大学を卒業後は米増祐吉先生が主催される脳神経外科に入局し、以降は医局人事のなかで研修し、専門医、学位を取らせてもらいました。2011年に縁があり、室蘭市にある今の職場に勤務しております。室蘭市は1970年代に人口は18万人ほどになったことがあったようですが、その後の石炭産業の衰退、鉄鋼業の縮小などがあり、現在は8万人程度の小さな町であります。そんな田舎町であります。御多分に漏れず人口の高齢化が進んでおり、脳卒中特に脳梗塞の患者様が多いです。脳血管疾患の加療も最近では血管内治療が増えてきており、外科的に加療する機会は減ってきてはおりますが、脳神経外科医の需要は多分にあります。当院は脳神経外科の137床ほどの病院であります。毎日のように何台も救急車が入ります。この地域の脳神経外科医療の要の病院であると自負しております。さきほども書きましたが、還暦になったからといって隠居できる状態ではないと感じております。日々、市中の一脳外科医をして過ごしております。

話は変わりますが、わたくしは学生時代に陸上部で短距離をしていたくせにタバコを吸っておりました。卒業後もスパス吸っておりましたが、2008年からタスポがなければ購入できなくなることを機にタバコを止めました。結構つらかったです。その後いろいろ思うことがあり、47歳ころからジョギング(6km/hrていど)をするようになりました。走った後は水を飲んでもおいしいですし、ごはんを食べてもおいしいです。夜も眠られるし、多少嫌なことがあっても忘れることができるので、なんとなく続けております。月に100kmほど走ることを目標にしております。50歳手前でマラソンにも挑戦し、完走することができました。一度だけサブフォー(4時間切り)を達成したのでタイムについてはそれで満足しております。42.195キロのうち30キロほどで走るのが嫌になり、残り10キロほどは地獄であります。「なんでこんなことしているのだろう」と思いながら走ることになり、ゴール時には写真のごとくへろへろになっております。しかし、ゴールした後は達成感が半端ではなく、また次も走ろうと思ってしまいます。とはいうものの年々体力は落ちていくように感じており、いつまで走ることができるのかわかりません。走ることでできる健康状態に感謝しつつマイペースで楽しんでいきたいなと思っております。

近況報告



社会医療法人里仁会 理事長
興生総合病院 院長

藤原 恒太郎

令和6年11月16日、第11期の還暦同窓会がありました。同窓会誌への寄稿を指名されましたので、卒後35年間振り返ってみました。

私が勤務する興生総合病院は、広島県三原市という人口9万を切った地方都市にあります。昭和48年（西暦1973年）に創設者である父、故藤原恒弘（やすひろ）が、24時間365日、地域のために、最良の医療を行うことを理念として、25床の藤原病院を開設し、その後、藤原病院を323床の興生総合病院に発展させ、複数の介護施設を設立運営するに至りました。平成21年（西暦2009年）に現在の新病院へ移転し、昨年令和6年7月創立50周年を迎えることが出来ました。旭川医大など新設医大と同じ歳ですね。

私自身は、旭川医大を卒業後、岡山大学第一外科（現消化管腫瘍外科）に入局、4年間ほど病理学研究室に籍を置き、その後は岡山市の循環器専門病院にて心臓血管外科を学ぶという、全く一貫性のない時期を経て、卒後10年も満たない平成9年、当院で標榜の無かった循環器科を開設するために帰郷し、大した臨床経験もないまま一人で循環器内科医と心臓血管外科医を兼ねるといふ、今考えれば（当時でも）無茶なことをしていました。

帰郷した翌年平成10年に、父が脳梗塞を発症したため、一勤務医のまま病院を引き継ぐこととなりました。当時、本院は常に赤字、介護系施設の利益を食いつぶすという状況が延々と続いていました。特に手立てがないままに数年を経過しているうちに、更に追い打ちを掛ける自体が発生。平成16年（2004年）の本格的な初期研修制度の開始により、大学からの医師派遣の引き上げです。父が倒れた後、父の右腕であった外科医師が2代目院長に就任されましたが、多数の医師の引き上げに伴い、一般臨床を一手に引き受けて過労のため倒れてしまいました。もう流れとして、私が3代目院長に就任するほかに道がなくなりました。

院長就任とともに、本院の老朽化という現実的な問題が浮上してきました。もともと25床の小規模な病院は、増築を繰り返すたびに継ぎ接ぎだらけの状態となり、雨漏りや術中の停電まで発生する事態となっていました。資金繰りは非常に厳しい状態でしたが、バブルが弾けて貸し出し先がなかったためか、銀行や医療事業団から合わせて60億円超の借金をすることができてしまいました。半ばやけくそになりながら、新築移転に舵を切ることになりました。

実は医師引き上げの怪我の功名で、建築基本設計に異を唱える「偉いお医者さん」が全くいなくなり、合理的な病院設計を進めることができました。更にコメディカルスタッフを充実させることにより、今では当たり前となっているタスクシフトも一気に進みました。

平成21年の移転に合わせて、救急医療・災害医療により社会医療法人の認定を受け、経営的にも安定しました。社会医療法人は事業税が無税となり、救急や災害に関する固定資産税も免除、余剰利益を積み立てていく事も可能といった利点が多数あります。こうして、新築移転の効果も相まって、本院自体を初めて黒字に転換することができました。

移転から1年半経過した平成23年（2011年）3月11日、日本全土を文字通り震撼させる東日本大震災がありました。当院からはDMAT 3隊を随時派遣し、被災地への支援活動を行いました。身近に発生した自然災害に直面するのは、令和元年（西暦2018年）7月6日の西日本豪雨災害でした。病院や施設への直接被害は無かったものの、三原市を流れる一級河川の氾濫が浄水場を直撃し市内のほぼ全域が断水となりました。救急を含めた一般外来診療は休止しましたが、市内唯一の分娩機関のため産科は継続、最も苦慮したのは100名以上の透析患者の透析継続でした。地元企業や自治体の給水車両に

よるピストン搬送、各方面からの飲料水等の提供、最終的には自衛隊の給水車両の到着により、最低限の医療を提供することができました。断水は1週間後解消されましたが、たった1週間の断水だけでもこれほどの苦労かと考えると、全てのインフラが長期間停止した東日本大震災による被害は想像を絶するものだったことを改めて認識しました。

その翌年令和2年（西暦2019年）12月中国に端を発した新型コロナウイルスパンデミックは、全世界を巻き込む、今までにない形の災害となりました。数年前から指摘されていた人口減少社会に伴う医療需要の減少が突然表面化し、外来・病棟とも閑古鳥が鳴く状態に陥りました。2020年末から始まったワクチン接種を契機に、院内の病棟を再編成、1病棟を感染隔離病棟へ改修、2021年7月から新型コロナウイルス感染患者の受入を開始しました。第5波に突入し、急激に患者数が増加することと相まって、毎日のように入院患者を受け入れ、初年度は全患者の主治医を私が引き受けることにしました。大変ではありましたが、結局のところ最も助かったのは病院経営でした。補助金収入は莫大であり、職員の給与を増額しても資金を留保することができ、MRI、DSA、透析システム等多くの医療機器を更新することが可能となりました。コロナ禍で厳しい経営を強いられる一般企業もある中、正直、医療機関はなんと優遇されているのだろうと思っていました。それにも関わらず一般的にはコロナ患者を受け入れる病院をヒーロー扱いしており、心苦しい気持ちでした。

コロナ禍が完全に明けた今年、コロナバブルも終わりました。医療業界はこれからかなり厳しい氷河期のような時代に突入するでしょう。私自身が、もともと壁がなければ成長も努力もしない性格なので、乗り越えられる程度の壁が来てもらうのはありがたいと思っています。乗り越えられないような巨大な壁が来てしまったらどうしよう、と思うこともあります。新築移転時に大借金した折、酔っぱらって弟（当院脳外科医）と二人、夜の道を歩きながら交わした言葉を思い出します。弟「こんなに借金して大丈夫かな?」、私「まあ、売れるもの作っとけば大丈夫じゃない」。もちろん、そうならないようにこれからも頑張ります。「ごっばち」ぶらすアルファの皆様、これからもよろしく。

第13期だより

13期幹事 西 條 晴 美

2024年11月に5年ぶりの同期会を札幌で開催しました。アラ還の私たちですが、皆で集まれば、瞬時に20代にタイムスリップ、楽しい時間を過ごしました。最近の記憶の定着は限定的ですが、学生時代の思い出は次々に溢れてくるものですね。当日集えなかった皆様からの近況報告もいただき、懐かしいつながりを実感しました。



第4回 AMC13期 同期会 2024年11月23日 札幌にて開催

さて、今年度のA組は、石巻赤十字病院院長の石橋悟先生からバトンを受け継いだ齋野朝幸先生に寄稿していただきました。

旭川医大13期便り（また齋野が書くの？）

岩手医科大学 解剖学講座細胞生物学分野

A組 齋 野 朝 幸

13期の皆様、いかがお過ごしでしょうか。長らくご無沙汰しております。今回は「同窓会岩手県支部だより」ではなく、「13期便り」として執筆させていただきます。石巻赤十字病院の石橋悟院長からバトンを受け取ったことによります。この場をお借りして、近況をご報告させていただきます。

岩手という地に身を置く私ですが、13期の同期の皆様と交流する機会はなかなか持てずしております。昨年は東京で開催された少人数の同期会に参加することができ、14名の皆様と再会することができました。懐かしい話題で大いに盛り上がり、楽しいひと時でした。今年は札幌での開催と伺っておりますが、この原稿が出版される頃には既に終了していると思います。残念ながら、推薦入試の試験委員を務める関係で参加できませんでしたが、盛会だったことと存じます。

盛岡での生活も早いもので28年目に入りました。30歳までは北海道以外で働いたことがなかった私ですが、こちらでの暮らしもすっかり日常となっています。今年に入り、コロナ禍も落ち着きを見せ、ようやく飲み会なども再開されるようになりました。その席で、「齋野先生は岩手医大出身だと思って

いました」と言われることもあり、いつの間にかこの地に馴染んでいるのかもしれない、と感じる日々です。最近では、旭川医大の先輩や同期、後輩のお子様たちが岩手医大に入学するようになり、自分も歳を重ねたことを実感しております。学生たちには、時にお尻を叩きながら、進級に向けてしっかりと指導に当たっています。

同期で特に親交が深いのは、能代厚生医療センターの太田原康成院長です。長男の初期研修先でもお世話になり、昨年まで大変助けていただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。また、旭川医大病理学講座の小林博也教授にも、日頃より多大なご支援をいただいております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。そして、最近大変驚いたことがありました。佐藤正夫先生のご子息が、なんと私の教え子とご結婚されたと聞き、驚きとともに心からお祝い申し上げます。

13期の皆様、もし盛岡や岩手にお越しの際には、ぜひ一声おかけください。懐かしい顔ぶれと再会できることを心より楽しみにしております。これからもどうぞお元気で過ごしてください。

そしてB組は、13期幹事の釋文雄先生のバトンを受け取った堀江徹先生からです。

旭川医大13期便り

B組 堀 江 徹

13期生、B組同窓会幹事の釋くんから同窓会誌への寄稿文を依頼された堀江です。釋くんによると、13期はA、B両組から毎回1人ずつ書いていくとの事です。早目に書いておかないといろいろとチャンスがなくなりそうですので、拙い文章ですがよろしくお願ひします。

私が旭川医大に入学した年が1985年、卒業して地元の栃木に帰ったのが1991年ですからずいぶんと時間が経ったのだと思います。物忘れがひどくなる前に旭川の思い出について書いておきたいと思います。

初めて旭川に来たのは高校の卒業式が終わった数日後、二次試験受験のため、猛吹雪の旭川空港に到着しました。宇都宮ではほとんど雪は降らないため、何て所きたのかとビックリしました。一か八かの受験でしたがかろうじて合格し大学生活がスタートしました。

下宿はやや高級感のあった「ジュネスつかさ」、部活は高校からやっていた柔道部です。同期のメンバーはピーマン、佐藤正夫ちゃん、諏訪ちゃん、寺尾くん。春の陽気とともに人生の春も謳歌しよう！わくわく気持ちで講義を受けましたが、朝から夕まで何のことかさっぱりわからず、部活は予想以上につらく、さらに飲み会も激しい。「ヤバイ、落ちこぼれる。」と自覚するのに時間は必要ありませんでした。当時、留年率は高く、私の頭のレベルでは無事6年間で進級するのは極めて困難です。絶対落としてはいけない科と再試にまわす科に分け、戦略的に試験勉強することとしました。ライバルは隣の下宿「末広荘」にすむツムラくんと甲府の天才千富です。毎年、毎年の再試の砲弾をくぐりぬけ、傷だらけになりながら進級を重ねていきました。二口さん、ノムさん、斎野くん、児玉さん、小林さんその他多くの方々の圧倒的援助の賜物であることはまちがいありません。

試験以外ではロック研の林くん、学ちゃんのコンサートを聞かされたり、長野の貴公子花ちゃんの高速カーで旅行したりと本当に楽しく過ごしました。

卒業後はすぐ栃木に戻り独協医大の外科に入局、2009年より父の診療所を継承しています。しかし医者になってからの人生も吹雪のなか砲弾の降り注ぐなかをさまよひ、周囲の皆様に助けられ、その時々をあほのように楽しんでおります。「少しでも楽しい時間を長く過ごせる事ができたらいいな」と日々を送っています。

以上、宇都宮でひっそり開業しているB組堀江でした。

第16期だより

常任幹事 田村 義之

皆様、元気にお過ごしでしょうか？卒業して30年が経過し、2024年8月10日に卒後30周年同期会が開催されました。これを機に岡本君と長屋君が16期のメーリングリストを作ってくれました。同期会で直接話をしたり、メーリングリストでの情報交換が増えると同期の絆がさらに深まると思います。これからも宜しくお願い致します。

卒後30周年同期会報告 岡本 健作

去る8月10日に5年ぶりの同期会が開催されました。前回、2019年に卒後25周年の節目に札幌で開催されて以来の開催だったのですが、前回開催の後で新型コロナの問題があり、なかなか多くの方が集まるのは難しい状況でした。やっと新型コロナも落ち着いてきたので、卒後30周年という節目ですし、是非開催しようという声が上がリ、なんとか開催することができました。42名の方が出席していただき、盛會に終わりました。懐かしい面々と会うことができ大変楽しく過ごせました（たぶん、常任幹事の田村先生がその際の記念写真を載せてくれると思っています）。その同期会から早くも丸3ヶ月が過ぎ、師走になりました。今年も残すところあと1ヶ月です。気持ちは若いですが、年齢は確実に増えてきてしまっているので、皆さん身体に気をつけてがんばってください。次の同期会は札幌開催の予定と聞いています。2年後か3年後か分かりませんが、皆さんにまたお会いできることを楽しみにしています。



近況報告

青木 直子：本当に細々と病理医として働いています。最近は2.5次元にはまっています。

阿部 浩史：今年のクラス会で歌おうとCreepy Nutsの『二度寝』と『Bling-Bang-Bang-Born』を練習して行ったのにカラオケが無かったことだけが人生の心残りです。

阿部(旧姓 辻) 由紀子：新潟に転居して10年目になりました。意外と居心地が良くのんびり過ごしています。

宇佐見 誠：さっぽろ香雪病院にて副院長として勤務しています。

大羽 文博：相変わらず函館中央病院の診療部長として整形外科医をやっています。

岡本 健作：旭川医科大学 内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野（旧：第2内科）で引き続き仕事をしています。大学では、内科再編などがあり“旧：第2内科”という名称はなるべく使用しないことになっていますが、同期を含め以前からの先生方は第2内科の名称の方が分かりやすいと思うので併記しています。2024年4月から新しく野本博司先生が当講座の教授に就任され、フレッシュな雰囲気です。この流れに乗り遅れないようにがんばっていきたいと思っています。

鏡(旧姓 高杉) 雅代：相変わらず、成育医療研究センターで、インプリンティング疾患の研究を進めています。週末は、少し余裕ができてきたので、演劇を観に行ったり、低山に登ったりと楽しんでおります。

片山 隆行：市立旭川病院神経内科に勤務しておりましたが、2025年1月より旭川医療センター脳神経内科に異動することになりました。引き続きよろしくお願い致します。

金子 登：私は湘南鎌倉総合病院から始まり函館共愛会病院まで30年間の徳洲会生活を送っていましたが今年8月いっばいで徳洲会を退職しました。現在高齢の両親を見るため茅ヶ崎と札幌の行き来をしておりますがその間スポット勤務でいろいろな病院でお世話になっている状態です。Freeに使える時間が増えてストレスはだいぶ減りました。

桐山 健司：2002年の赴任以来、まだ小林病院におります。5月に法人化したので正確には『医療法人社団桜会 小林病院』となりました。一つ一つは大したことはないのですが、日々膨大な雑用と格闘しております。

小久保 拓：今年の8月から東京の病院を退職し、札幌孝仁会記念病院血管外科立ち上げで就職しました。札幌のみなさんよろしくお願い申し上げます。

清水 美穂：日々の雑務に追われていたら、あっという間に市立札幌病院10年目突入しました。もう少し人間らしい生活をしようと思います。

高原 幹：大学にてこのまま耳鼻咽喉科・頭頸部外科を盛り上げていこうと思っています。同期の皆様には、今後も色々ご協力をお願いすることもあるかもしれませんが、よろしくお願い申し上げます。

竹山 吉博：のんびり診療しようと選んだ千歳、でもラピダス進出以降、新ホテルの建築増加、土地の値上がり等で慌ただしく、診療も忙しくなっていますが体に気をつけてもう少し頑張ります。

田中(旧姓 黒木) 文子：変わらず、済生会横浜市南部病院で小児科勤務医をしております。お蔭様で今年‘小児薬用量ガイド’も第4版を出すことができました。臨床現場で役立つポケットガイドでいられるよう、こちら頑張っていきたいと考えています。

田村 義之：2023年2月に開業し、2024年11月に法人化しました。これからも体調に気を付けて頑張ろうと思います。

鳥井 希恵子：変わらず旭川で勤務しています。今年は同期会で変わらぬ皆さんの姿に刺激を受け、楽しい時間を共有できて良かったです。

長岡 泰司：最近田舎にいる両親の老老介護が限界を迎え、元気でいられる時間には限りがあることを教えてもらいました。一日一日を大切に生きようと思います。

長屋 建：病院内での仕事に加え、病院外の医療者以外との仕事がおもしろいです。

松本 啓：札幌徳洲会病院で勤務してもうすぐ4年になります。もういい歳になりましたが、急性期病院の一人部長として日々忙しく院内を走り回っていて、一日があつという間です。

三上 健太：卒業後2年間とある大学で研修後、関連病院だった帯広の病院に6年半勤務、消化器中心の内科や救急をしていました。2002年に札幌に移住。3院目となる精神科単科の病院で内科医として勤務、間もなく20年になります。今回の同窓会では酔いすぎて、スピーチに失敗してしまいました（順番がかなり後の方なので）。

三浦 優利香：深川市立病院に赴任して、5年目になります。実家のある旭川と深川を行ったり来たりの毎日です。一人体制ですが、いろいろとご考慮いただき、ゆったりやらせていただいています。

三浦(旧姓 長谷部) 夏子：札幌市内のクリニックで勤務医をしております。子供もお金を出してやるだけになりつつあり、老後にも楽しめるものを始めようか、考え中です。

森 久恵：2025年1月24-25日の第21回日本ガンマナイフ学会学術総会開催にあたり、同窓会の国際・全国学会等主催助成制度を利用させていただき、大変感謝しております。盛会となるよう、鋭意準備を進めております。

森川 守：大阪（関西医科大学産科）へ移動して4年目になりますが、夏の異常な暑さと私立大学での医学教育の大変さ、臨床の過酷さ（教授ですが当直月4回）という国立大学とのギャップに未だ慣れません。

横浜 吏郎：私は2012年から旭川医療センターに勤務しております。臨床研究部に所属していますが、消化器内科、産業医、NSTとしても活動しているため、まだまだ結構忙しいです。下の子が中学2年生なので何とかあと10年は働かなくてははいけません。健康維持のため毎日ジョギングとウォーキングで12000歩を目標としています。せっかくなので最近アプリを入れてポイ活始めました。そうそう、1月から片山先生が旭川医療センターに勤務してくださることになりました。同期と一緒に働けるのは心強いです。

第17期だより「卒後30年になります」

17期 今野 哲

10月30日に同期の石本隆広先生よりメールがきまして、次回の17期だよりの原稿を書いて欲しいとの依頼をいただきました。17期の皆様の近況を書くのは難しく、どうしたらいいのでしょうか？と石本先生に尋ねたところ、来年17期は卒後30年を迎えるので、次々回には、皆様がたの近況を詳しく書く機会になりますとのことで、今回は、今野の近況を書いて欲しいとのことでした。ありがたく光栄に思い、この文章を書いています。17期の中でも、コロナ禍を経て、年に一度、同期会が行われているようです。その様子は、井上充貴先生や長井（旧姓飛世）桂先生、谷野（旧姓森）洋子先生より教えてもらい、写真も見せてもらいました。

私は、平成17年以降ずっと大学病院にいるもので、医学部生とは夏季、冬季休暇期間を除き、ほぼ毎週お話する機会があります。今は3年生で臨床講義、4,5,6年生で臨床実習があり、私たちが学生の時よりもはるかに長い期間、病棟での実習があります。特にsmall lectureでは、学生と直接話す機会があります。昔のように出席番号順に実習班が決まることはなく、学生100人がランダムに組まされるようで、（私たちの場合であれば）A組、B組関わらず、多くの人と接する機会ができることとなります。いっぽう、気の合わない人、変？な人と一緒にグループになってしまうと、さぞ1年間やりづらいたろうなと思ったりもします。

今の学生は、ほんとおっとりとしていて、とても真面目です。3年生の講義では、多くの学生が真剣に講義を聞いているように見えます。途中で退席する人はごくわずかで、後の方で漫画を読んだり、囲碁をしたり、もちろんタバコを吸っている学生は一人もいません。個人的には、そんなに真剣に聞かなくてもいいのにな途中で部活などで退席しても全然いいのにと心の中で思いながら、淡々と講義をしています。今は、皆自分のiPad内のELMSに挙げられている講義資料（スライド）を見ながらの授業です。中には、YouTubeを見ている人もいるかもしれませんが・・・1989年に、巨人対近鉄の日本シリーズをラジオで聴きながら講義を受けていたことを懐かしく思い出します。実習での態度も皆、それなりに立派です。さぼる人も少なく、プレゼンもしっかりしています。ただ、4年生より実習が始まる為、最後のほう（6年生）になると、むしろだれてしまい、また、国試の勉強がしたいが為に、楽な診療科を選択する学生も多いと聞いています。

個人的に、実習に来ている学生を見ていつも思い出すのは、私の学生時代の出席番号の前後の人たちです。特に黒島研美さんのことは、しばしば頭に出て来て、あの時いろいろ助けてくれたなあ 試験ではたくさん答えを教えてもらったなあ と感謝しています。そう言えばあの時黒島が言ってなあ といまだに覚えていることもあるものです。

コロナ禍で心配していたのは、学生が大学に来られなくなり、授業はon-lineのみ、部活動もほぼなくなり、その結果、皆が講義棟などで一緒になる機会がなくなったことです。2021年には、試験の直前に一人の学生が私の部屋に来て、「僕には友達がいなく、過去問が手に入らないので、過去問をもらえませんか？」と言ってきました。驚きと共に、気の毒な時代に学生生活をおこっているのだと思いました。（がんばって、コンタクトをとって過去問を手に入れてください と回答しました。）現在、ソフトテニス部（昔の軟庭）の顧問をしているのですが、令和5年度末は、総部員が16人でした。一時は80人ほどいた部員がどんどん減っていったのもコロナの為です。しかし、令和6年度に入り、なんと20人の新人が入り、更に、10月におこなわれた宴会では、まだ一人も辞めた部員がいなくて聞いて、

本当に嬉しく思いました。この調子だと、5年後には120人になり、医学部で最も大きい部活にしようとして張り切っています。(とは言っても、私の仕事は年に3回の宴会に出て、追いコンで、6年生一人一人に、部員が書いた卒業証書を読んで渡すだけです。)

大学病院は医育機関ですので、まじめに、「教育とは？」と考えてみたことがありますが、素晴らしい答えを高校の同期（現在小学校の先生）より教えてもらいました。それは、慶應義塾大学名誉教授の村田昭治先生がおっしゃった「学校の授業のことはすべて忘れたとしても、何か残っているものがあるでしょう。その残っているものが教育です。」という言葉です。学生が、授業をきちんと聞いているかどうかは別として、学校に来れば、授業の合間や、部活動等を通し、人と交流する機会があるでしょう。そして、時に対立することもあるでしょう。しかし、そのような日常があることこそが教育であって、日々の経験が、将来、ONE TEAMの医療ができる基礎を作る礎になっていると感じ、感激してその言葉の意味を考えてみました。

今の医学部生は、以前よりも、かなり均一したキャラクター、家庭環境を持つ集団のように感じています。なんとなくですが、皆同じように見えます。しかし、医師が実際に診療するのは医学部生ではなく、社会の全ての人たちです。教育の理想は、社会全体の方々と接し、それぞれ個人の考え方を共有することなのかな と思ったりもします。漫画の世界で言うと、ドラえもんとかちびまる子ちゃんの世界が理想のような気がします。出来の悪いのび太とパワハラジャイアン、かわいいしずかちゃん、そして金持ちでずるがしこいスネ夫。でも、いざ映画になると皆団結する仲間たちです。ちびまる子ちゃんに出てくる人って、皆変わってますよね。でも、それが社会なのだと思います。

以上のような観点より、自分の同期の皆様を思い出してみると、とてもユニークな人たちの集まりだったと思っています。皆決して、学問に真面目に取り組んでいたとは思ってなくて、部活、バイト、趣味などに打ち込み、試験はいつも徹夜でギリギリ、授業に出ない、出ても寝てる、追試の連発、人間関係で悩む、時にははめを外して酒を飲みまくる などなど、昔のほうが皆様が多様性は大きかったと感じています。



年をとるたびに、自分を入学させていただき、医師にさせていただいた旭川医大に対する感謝の気持ちは強くなり、当時の学生時代を懐かしみ、日々、今の大学生と接しています。最後に、皆様が日々健康に過ごされ、次回の同期便りでは、多くの方々の近況を聞けることを楽しみにしています。

令和6年11月3日

(ちょうど横浜ベイスターズが優勝しました)

17期 今野 哲

この原稿を書いている週末の北大の風景です。銀杏並木がとても綺麗です。

第18期だより18期 幹事 **小原和宏**

18期の皆様、お元気でしょうか？最初に悲しい報告をさせていただきます。同期の金子秀紀先生が逝去されました。突然の訃報にただ驚くばかりでした。出来る限り、PCメールや同期のSNSを用いて情報を共有させていただきました。今でも金子先生の優しい笑顔、上手にスキーを滑っている姿を思い出します。ここからお悔やみを申し上げます。私はポリクリで同じ班で大学の試験だけではなく国家試験の勉強も一緒にやっていたので、精神的なショックをかなり受けました。金子先生の方もしっかりと頑張っていかなければならないと思っています。我々18期は、人生の半分が過ぎました。健康寿命を少しでも長くなるよう健康に配慮し、再開できる機会が多くなりますよう祈念いたします。

さて、今回もPCメールで同期から近況報告を頂けた人を集めましたのでご紹介させていただきます。

鈴木英章：今年の4月から、青森県むつ市の介護施設併設の内科クリニックより心機一転、神奈川県厚木市のビルテナントのあつぎ内視鏡・内科クリニックに転職し、内視鏡検査とポリペクトミーの毎日です。

中村英記：名寄16年目になりました。皆さん、お元気ですか？

石田浩之：学生時代はお荷物的な存在でみんなに迷惑かけてたと思います。現在は勤医協中央病院の救急科で研修医や救命士志望の学生とまみれながら働いています。元気です。

学生時代と正反対のことを言いながら...笑（病歴・身体診察・バイタルサインの解釈が大事！なんて）

尾島英知：2024年1月1日から、理事長先生からの強いお誘いを受け栃木県立がんセンターに異動しました。異動に際しては、いろいろと考えましたが、医師人生の第4コーナーは、あえて険しい道を選ぶことにしました。各部門の運営、システムの改定を積極的に行っていますが、言うは易く行うは難しです。東京から新幹線で通勤しています。皆さんもお体に気を付けてください。

田中（波多野）緑：皆様お元気でお過ごしでしょうか。変わらず精神科医勤務医を続けております。これからもよろしくお願ひします。

小池裕美子：平成22年3月に自治医大を退職し、5月から医療社団法人廣仁会に就職して、今に至ります。あっという間に14年半経ちました。系列の皮膚科クリニック3件で週4日勤務しています。一般皮膚科を主に美容室皮膚科も少しだけしています。元気に働いています。

田中（菅沼）民子：三島と浜松で病棟、訪問診療、産業医、健診とわらじを履き替えながら働いています。産業医の対応が増えていて、労働者の抱える困難さを痛感します。

中尾幸晴：枝幸町立病院で毎週火・金曜日に総合診療科を開いています。私の地元なので、盛一先生を始め同期の先生方にもご協力をいただき、いつも大変感謝しております。もし他に手伝っても良いと思われる先生がいらっしゃいましたら、是非ともご協力をお願いいたします。その他の曜日は頼まれ麻酔科医と産業医として働いて、さらに札幌で心療内科とペインクリニックの赤字クリニック（某院長曰く私の趣味の一つとのことなので、収益は気にしていません）を開いています。健康だと思っていた我々の身体も結構ガタが来ているようなので、自分自身の健康にも気を配りながら、細く長く頑張りたいです。

大久保仁史：富良野協会病院に勤務し、はや10年が立ちます。顔馴染みの患者さんも増え、なかなか離れにくい土地になりました。アレルギーが楽しくて、先輩からも患者さんを紹介していただき、頑張っているつもりですが、これで本当に良いのかと、自問自答の日々を送っています。同期会があったら参加して、久々にクラスの皆さんにお会いしたいです。

和田恵子：勤続16年目で初めて完全週休二日になりました。休みの日は推し活や小旅行などしていません。

福永亮朗：2019年から引き続き、呼吸器外科医として旭川赤十字病院で働いています。ロボット手術や外傷など忙しいですが頑張っています。

小原和宏：同窓会の名簿の整理や同窓会誌の作業をするたびに、大学生活を昨日の事の様に思い出します。学生時代って楽しかったですねー。私はしばしば学食で、チャーハン、カレー、ラーメンを食べて懐かしさを楽しんでいます。提供されるお皿は同じですが、味と値段は変わりました。ちょっと残念です。「学食を食べる同窓会」とか楽しいかもしれませんね。

第19期だより



朝井 裕一

19期の皆様、こんにちは。国立帯広病院の朝井です。今回の同窓会誌ではおめでたい報告があります。同期の須藤英毅先生が旭川医科大学同窓会第23回医学奨励賞において学術奨励賞を受賞されました。(他にも文部科学大臣表彰科学技術賞や保険文化賞なども受賞されています。) 僕も講演を聞かせていただきましたが素晴らしい研究成果だと思いました。そこで今回は同期の須藤英毅先生と、現在も大学で働いておられる岸部幹先生に近況報告をお願いしました。

まず須藤先生の近況報告です。

北海道大学病院整形外科特任教授 須藤 英毅

皆様、ご無沙汰しています。医学奨励賞を受賞することになった縁で、幹事の朝井裕一君からの依頼にて原稿を書かせていただいております。受賞講演にあたり、久しぶりの大学訪問となりました。校舎内は変わっていないところも多くあり、とても懐かしく感じました。講演会終了後は、思い出の小西鮎で朝井君にご馳走していただきました。帯広から座長として来ていただいた上に、そのまま車で帯広に帰るとのことで恐縮しきりでした。また、偶然にも藤谷幹浩同窓会長にお会いし、実用化に向けた先端研究のお話を伺ったことも大きな励みになりました。私は現在、札幌にいますが、室田栄宏、加藤良久、沢口直弘、竹内淳、石川訓行君や吉澤史子、伊藤規絵さん達と不定期で「もえぎ会」なる飲み会を開催しています。東京の飯塚純平、野崎大司、島根の東耕一郎君らも時に駆けつけて10名以上になることもあります。何かの機会があれば、皆様とご一緒できればと思います。

次に最近大学の手術でも偶然お会いした岸部先生の近況報告です。

旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医局長・准教授 岸部 幹

19期の皆様、いかがお過ごしでしょうか？ドクターストップがかかっても飲み食いはやめられず、体重は減少の兆しも見えていません。直腸癌でEMRもしましたが、全く食生活に変わりもありません。そこに酒とつまみがあれば、飲みまくり、食べまくってしまいます。いまだに酒の飲み方が良くわかりません。まあ、太く短く(十分太いですが。。)生きるのだろうなと思うこの頃です。2019年に開催された卒後初めての大規模な19期同期会では、遠方にいる同期の方々とも久しぶりに話すことができました。同期会といえば個人の病気の話になるのが常と思っていましたが、皆様はご健康でいらっしゃるのかそういう話にならなかったのが非常に印象的でした。学生時代を回顧でき、現在の同期の動向も伺えて非常に楽しいひと時でした。コロナも明けたことですし、2019年に同期会をして以来なので、また同期会ででも飲みましょう。(結局飲むことに終始ですね。)

お二方ありがとうございました。そろそろまた19期みんなで集まる機会があればうれしいなと思っております。また同窓会誌では数人の先生方に近況報告をお願いしていこうと思っておりますので是非嫌がらずにお引き受けいただければと思います。では皆様、またお会いできる時までお元気で。

第20期だより

20期常任幹事 山口 祐 司

今回も同期の皆さんからお寄せ頂いた近況報告を掲載いたします。把握できる範囲にメールで声掛けしました。お返しいただいた皆さん、ありがとうございます。次回も同形式を考えております。ご案内の届かなかった皆さん、すいませんが山口へメールください。

1) 氏名（ふりがな）、2) 勤務先、3) お気に入りの学会出張のお土産、4) 最近ハマっている事（趣味。スポーツ。推し活。）、5) 同期の皆さんへ一言。

トップバッターは、2023年10月に第22回医学奨励賞受賞記念講演会で旭川に来てくれた井原君からです。

- 1) 井原 欣幸（いはら よしゆき）
- 2) 岩手医科大学
- 3) 道民の愛するカツゲンが安上がり（笑）で意外と喜べれます。
- 4) 変わらずLANCIA DELTAのRestore
- 5) 両親の受診・治療や医療相談等本当に同期、同門に感謝しています。恩師宮本和俊先生の訃報に接し心痛切なり、去年の祝賀会が最後の一酌となってしまいました。

井原君と講演会座長の沖崎貴琢君。二人ともお疲れさまでした。阿部さん、写真ありがとうございます。



その後の祝賀会。主役の井原君を囲んで楽しいひと時でした。井原君から時計回りに、阿部里見さん、竹内茂君、田中和幸君、山口、高崎英気君。井原君、写真ありがとうございます。

- 1) 阿部 里見 (あべ さとみ)
- 2) 旭川医大 整形外科
- 3) 羽田空港で買う千疋屋のスイーツ、定番の東京ばなな
- 4) 手術とバスケの体力作りのために美瑛と旭川のハーフマラソンにでること、銭湯スタンプラリー
- 5) バスケ部50周年記念で(旧姓)向井と再会し最高の時を過ごしました！！

- 1) 内田 (向井) 淳子 (うちだ (むかい) じゅんこ)
- 2) 有限責任監査法人トーマツ
- 3) 以前は住んでいたこともあり、開催も多かった京都で「阿闍梨餅」をよく買いました。最近は重たくなるのを避け、小箱系ばかり選んでいます。
- 4) ランニング、大会目指して毎週皇居ランしてます。
- 5) 10月にバスケ部の50周年記念会に参加し、同じバスケ部の里見(阿部さん)と20数年ぶりに再会で感激！旭医のキャンパスにも足を運び、郷愁に浸りました。

- 1) 津田 宏重 (つだ ひろしげ)
- 2) 社会医療法人博愛会 開西病院
- 3) 軽井沢で買った「なめたけ」がおいしかったです
- 4) ゴルフと、相変わらずテニスの二刀流。先日平山杯(ゴルフ)に参加しました。平山(青木)、中田、桜井、今井といったメンバーとゴルフを楽しみました。
- 5) 病気とけがに気を付けて頑張りましょう！ゴルフやる人は平山杯に参加しましょう！

- 1) 岡田 憲二 (おかだ けんじ)
- 2) 高知県立あき総合病院 脳神経外科
- 3) 野根まんじゅう
- 4) 最近は特にはないです。
- 5) 元気ですか。再会できる日を楽しみにしております。



2023年8月にご家族と旭川に来てくれた憲二君の歓迎会。鈴木恒仁さんと共に。さんざん飲み食いしました。岡田君、写真ありがとうございます。

- 1) 岸部 麻里 (きしべ まり)
- 2) 旭川医科大学皮膚科
- 3) お菓子系では、幸煎餅の七福神あられ (群馬)、一創堂のちょろけんぴ (大阪)、餅文総本店の栗ういろ (名古屋)。自宅用におかず系お土産を購入することが多く、最近のヒットは近藤商店のもつ味噌煮込みうずらどて (名古屋) でした。家康らしき武士の絵が描いてあるパッケージです。野菜を加えれば、さらに美味しくいただけます。
- 4) もはや、推し活は私にとって働く原動力。夏はDAZNで日ハムの試合観戦！ほかの推し活は、非公表です。
- 5) 人生100年の折り返しを過ぎ、キャリアも体調も曲がり角な今日この頃です。皆さんは、いかがお過ごしでしょうか？とりあえず、運を引き寄せるべく、何事も楽しんで、笑って過ごすよう心がけています。

- 1) 滝沢 修一 (たきざわ しゅういち)
- 2) 二十四軒メンタルクリニック
- 3) 豆政 京の茶だんご
- 4) 電子工作 (raspberry pi)、アーケードゲーム筐体のミニチュア制作
- 5) 【*いしのなかにいる*】

- 1) 沖崎 貴琢 (おきざき あつたか)
- 2) 旭川医科大学 放射線医学講座
- 3) 水まる餅 (京都まるもち屋)
- 4) 色々な解析や読書 (に没頭したいけれど雑用に追われて出来ていません…。書類の山が…。)
- 5) 機会があれば酒でも飲みたいですね。

- 1) 池田 大輔 (いけだ だいすけ)
- 2) 市立千歳市民病院循環器科
- 3) バトンドール (伊丹)、とおりもん (福岡)
- 4) ちょっと前までは自転車でしたが、今は登山です。日本百名山と北海道百名山をコツコツ登っています。
- 5) 元気に楽しく仕事していますが、だんだん体力が落ちてきました。緊急カテや夜間の呼び出しをいつまでつづけられることやら (笑)。

- 1) Takeuchi Shigeru

- 1) 水上 創 (みずかみ はじめ)
- 2) 金沢医科大学法医学講座／東京都監察医務院
- 3) こちら金沢では「圓八のあんころ餅 (賞味期限は当日、金沢駅ではよく売り切れてる)」、「中田屋のきんつば (万人に安定のおいしさ)」。また、お土産ではありませんが、JR名古屋駅の立ち食いきしめん。在来線7/8番ホームの店舗はフライヤーがあり、揚げたてかき揚げきしめんが食べられてオススメ。
- 4) 休日ゆっくり寝ること (?)。
- 5) 能登半島地震では年明け早々から輪島市で死体検案活動とその後の法医学会派遣医師の後方支援をしました。次第を時事メディカル「行動する法医学者の記録簿 第5回 (中) (https://medical.jiji.com/column4/203#google_vignette)」で取り上げて頂きました。ご興味ありましたらどうぞ。

- 1) 永井 しづか (ながいしづか)
- 2) 静岡県中部健康福祉センター
- 3) 京都の阿闍梨餅、広島生の生もみじ
- 4) スターバックスめぐり
- 5) 久しぶりに保健所に異動しました

- 1) 杉本 昌也 (すぎもと まさや)
- 2) 杉本こども・内科クリニック
- 3) ひとくち餃子点天(子どもたちの好物なので関西出張時や札幌出張時に大丸地下で買って帰ります)
- 4) コロナ前から週1で水泳教室に通っていましたが、昨年からは金星橋ちかくのジョイフィットに入会し、仕事帰りに週2か3くらい寄り道して泳いでます。
また、時間を作って国内留学時代の先輩(教授)と京都や神戸、銀座など年数回美食ツアーをしています。土曜日の午前診療後に旭川空港から羽田ー伊丹ー京都、おいしいものを食べて翌日旭川に帰ります。日程ハードだけど、一生に一度は食べてみたい絶品グルメを味わっています。
- 5) 開業して9年目になりました。来年もよろしくお祈りします。



写真は9月に郡山で学生時代の勉強会のメンバーで同期会をしました。(左から永峯、広島、杉本、桜井、山本、竹内)。杉本君、写真ありがとうございます。

- 1) 田中 和幸 (たなか かずゆき)
- 2) 医療法人仁友会北彩都病院
- 4) 趣味は山スキー(テレマークスキー)、Sax演奏、ロードバイク、Jazz鑑賞、等です。
- 5) みなさん、お元気でしょうか?

- 1) 山口 祐司 (やまぐち ゆうじ)
- 2) やまぐち眼科
- 3) うなぎパイ(通販していないので見つけたら買い込みます)、モロゾフのプリン(西武デパートが撤退し旭川では買えません)、彩鳳の焼売と肉まん(羽田空港で最後の数の帳尻合わせ)。
- 4) ランニング。恒さんに触発されて始めました。フルマラソンにはほど遠く、楽しみながら走っています。冬はスキーとスケートで筋力維持に努めます。

- 5) この同窓会誌がHPで一般の人からも見られることが発覚しました。皆さんには至急お知らせしたとおりです。そんな状況下でも多くの方から返事をもらえました。深く感謝いたします。次回もよろしくをお願いします。

第23期だより

国家公務員共済組合連合会
斗南病院 緩和ケア内科・精神科

上村 恵一

同窓生の皆様。日頃からお世話になっております。

幹事の野原からの依頼で同期だよりを書くことになりました斗南病院 上村恵一です。今年は23期卒業以来最大のイベントである同期会を開催しました。2001年卒のわたしたち23期が卒後23年で開催した同期会、2024年7月27日土曜日OMO7旭川（旧・旭川グランドホテル）にてなんと驚き48名の同期が道内・道外から集まってくれました。卒後20年で企画していましたが幹事の怠慢とコロナ禍のため延期延期で今年なんとか開催にこぎつけました。野村、野原、上村の3名で幹事をつとめ必死に連絡先を探し声掛けを行い超ハイシーズンのホテルに宿泊予約も頼み、当日の同期会が開式した時はとても感慨深いものがありました。準備を始めたときは、なんとか5割を始めた目標にしていたのですが実際のところは30名そこそこが現実的な数字と思っていました。蓋を開ければ、ほぼ半数の48名が参加、幹事・野村の根性ある情報収集に感服しました。

当日は、最初に物故者3名（市川、金関、高柳）に対して黙祷を行い3人もこの日に再会することを強く希望しことを想像し思い出を語りました。その後は、会が始まると23年前にタイムスリップしたような会話がはずみ、全員が一言スピーチを行いました。外見変化こそありますが話す中身が学生時代と変わらず、すぐに誰かわかります。また海外在住の桑原からは一言スピーチ（以上に熱い）動画が送られてきており当日上映され相変わらずのアイスホッケーの華麗なスケートिंगも見る事ができました。当日の写真を後日にFacebookにアップしましたが参加できなかった同期から「誰の写真かわからないから名前を付けて」というリクエストがあり全員の名前を入れる作業が発生しました。あっという間に1次会が終了し、2次会でも飽き足らず3次会に移動しようとしたのですが、当日が旭川の36祭り当日でお店が見当たらずなんとか臨時で開けてもらったお店に囁み込み、最終メンバーし4次会で朝の5時まで語り尽くしたと聞いています。



これまでの巻での同期が記載しているように、同期の集まりはそれぞれ旭川、札幌、関東で開催していましたが全員が介して集まったのは今回が初めてであり、学生時代の苦い思い出も時効になった裏話にも花が咲きました。わたしは、8月と9月にも旭川に仕事があったので8月は幹事打ち上げ、9月も同期数人と食事をする事になり同期会をきっかけに集まる機会が増えたように思います。

さて、次に話題になっているのは次回をいつにするかです。オリンピック年にやろうということになり4年後開催を企画しています。今回の開催によって、同期名簿がかなり完成し共有することができました。それでも準備にあたり幹事はそれなりに労力を使ったので2年後は早すぎるかなと4年後になりました。

わたし自身は、旭川医大での緩和ケアの講義、市立旭川病院、旭川厚生病院での緩和ケア研修会など年に複数回旭川に来る機会がありましたが、あまり同期と顔を合わせる機会もないままでした。今回の同期会をきっかけにして連絡を取るハードルも下がり話題も増えように思います。札幌会、関東会、実際には九州会も開催されていると聞きます。次回開催は目標の50名を現実にできるように頑張りたいと思います。

第27期だより



27期 吉澤（旧姓：鷺見）明希子

27期の皆様、ご無沙汰しております。幹事を拝命しておきながら、卒後一度も幹事らしいこともせず、この各期だよりも一度も書かず、のらりくらりとかわしながらもう20年近くもたってしまいました。（ちなみに私、小、中、高、大学と幹事だった気がしますが、どれもちゃんと仕事してません。どう考えても不適任です。）そろそろ良心が痛んでまいりましたので、一度お便りさせていただきます。

さて、私は現在母校である旭川医大の産科で働かせてもらっています。業績もないので、ほんとに「働かせてもらってる」という感じですが、赤ちゃん達に癒されながらほかほかに温められた分娩室とオベ室で汗だくで頑張ってます。学生や研修医がたくさん回ってきてくれるのも良い刺激です。オベ室でかかる曲でジェネレーションギャップを感じたり（大学時代のヒット曲をこの曲知りませんと言われる）、タブレット使う時の裏技を学生に教えてもらったり、「ああおぼさんだなー」と日々強制的に感じさせてもらいながら折り返した人生をどうやって過ごしていくか真剣に考える日々です。

さて、この度、宮本君、藤谷君が卒後20年の節目に同期会を企画してくれました。同期LINEも立ち上げてくれて、少しずつ参加者が増えてきているところです。

同期LINEで原稿を募り、連絡をくださった方々の近況をご紹介します。

大高和人先生：北海道大学病院呼吸器外科に助手として勤務しています。ロボット手術に明け暮れています。近々、肺移植も始まりそうです。

小野綾美先生：ご無沙汰しています。近況報告ですが、10数年呼吸器内科勤務のあと東京で修士博士を修了し、今は公衆衛生（疫学）で国立がん研究センターがん対策研究所勤務です。今年も旭川には子供を連れてスキーに行く予定です。

小島崇史先生：小島です。産婦人科医をしています。北大産婦人科に入局し道内いろんなところで勤務、埼玉で産科麻酔の修行をした後、2020年4月から実家のある函館市に戻ってクリニック（こじま産婦人科）の副院長として働いています。分娩数が急速に減少するなか経営的にも大変な時代ですが、楽しく元気にやっています。

佐々木（旧姓：長崎）由希世先生：色々衰えを感じる今日このごろ。『マツケンサンバのハッピー間違い探し』をやって、同窓会までに「やる気・集中力・記憶力・幸福感をUP」しておこうと思います。

棚野一郎先生：釧路市で眼科開業して6年目になります。みなさまもし良かったら実家のある隣町（白糠町）にふるさと納税よろしくお願ひします！

藤井公一先生（菅間記念病院 救急科）：栃木県北部の病院でソロ救急医として働いています。栃木県といえばバスケットです。GO BREX!

藤田（旧姓：箭原）希実先生：札幌に出て、もう19年になりました。皆様お元気ですか。今は札幌東区にある勤医協中央病院の放射線科医長として働いています。麻酔科に身崎先生がいまして、たまーにお話しています。放射線科の職場では15期生の吉川先生をはじめ、優しい先生方に助けいただきながら、日々CT、MRIの読影業務をしています。私生活では3人の子供の子育てに毎日バタバタしています。長男の中学受験が終わったと思ったら、次は長女の高校受験です。親はやキモキしているだけで

すね。あっという間に自分も経験した大学受験となりそうです。

藤谷好弘先生：私は感染症診療、感染対策を専門とする感染症医をやっております。現在は札幌医科大学で臨床、教育等を担っています。コロナ禍では感染対策でご苦労された先生方も多かったと思いますが、感染症の治療や感染対策で何かお役に立てることがあればお声がけください。

(50音順)

同期会は2025年9月に旭川で開催予定です。まだ連絡が取れていない方がこれを見てくれたら、ぜひ最寄りの同期、または私の職場宛に連絡をください。私はクラス会とかはめんどくさいタイプの人間ですが、同期LINEに参加して懐かしいみんなの名前を見てたら、試験前に深夜まで図書館で頑張ったこととか、寄生虫実習の後、捌いた魚を神楽岡公園で焼いて食べたこととか、シケタイ印刷しまくったこととか思い出してなんか元気になりました。やっぱり年をとったということなんでしょう。久しぶりにみんなに会いたいです！ぜひ連絡ください！

第30期だより

熊井 琢 美

卒後17年、皆様いかがお過ごしでしょうか？
 段々と中堅の中でも若手と言えない年次になり、管理業的な仕事が増えてきているかと思えます。病院勤めの先生は日々の雑務も完全に免除というわけでもなく、中間管理職の無情の中でどのような将来を思い描くか、悩ましい時もあるかと存じます。そんな時に仕事やプライベートと無関係に愚痴をこぼし合えるのが、同期の良いところでしょうか。

今年は同期会を札幌で開催する運びとなり、土井綾子先生に幹事をして頂きました。土井、平井、二村、佐藤、畑山、熊井が参加し、楽しい思い出話を花を咲かすことができました(写真添付)。心が20代に戻れる時間があると、明日からを澆刺と過ごせる気がします。辻調理師専門学校創設者である辻静雄さんの言に、” 疲れた時にいい顔をしているヤツがいい” というものがあります。少しずつ体力も衰えて楽しい話題ばかりではないのかもしれませんが、” 疲れている中でもいい顔をしている” と、同期と感じ合えるように日々を過ごしたいものです。



“40歳を過ぎると「不惑」、感わなくなると言いますが、
 実際のところはまだまだ感いながら日々を過ごしております (一同微笑)”

という台詞を耳にするたび苦笑していましたが、気づけば我々も40歳を越していました。実際には惑うことが多くても、患者や後輩、学生の前では惑っていないように見せられるのが大人でしょうか。年齢とともに構築されてくる矜持や見栄を忘れて、2025年も同期同士で忌憚なく語り合える会ができればと思います。次回は11月ごろ旭川で予定しています。FacebookやLineで9-10月ごろに告知しますので、お待ちください(ずっと連絡来てないよ！という方は、個別にご連絡いただければ助かります)。

ネットで収集した皆様の現状を載せておきますが、ネット由来の情報なので間違っていたらすみません。どうしてもわからなかった方は空欄になっています。2020-2022年でアカデミアにいる人は33人から27人、2022-2024年で22人と徐々に減ってきました。母校に残っている人数は2020-2022年で16人から15人、2022-2024年で14人とあまり変わりはありません。

クリニックや医院に所属している方は増えており、2012年の0人から2016年に2人(うち院長1人)、2018年に7人、そして2020年は8人、2022年は10人、(うち院長5人、副院長1人)、2024年は13人(うち院長8人、副院長1人)となっています。

今後も同期内での情報共有を目指して、まだ登録していない方はFacebookの”旭川医大30期”グループへの参加をご検討頂ければ幸いです。

(旧姓表示) **A組** **青山**:旭川医大、**浅野目**:中村記念病院脳神経外科副部長、**雨宮**:大阪医科薬科大学 医長、**池辺**、**出水**:市立札幌病院 内科副医長、**伊藤**、**糸島**:済生会熊本 医長、**祝原**:大阪母子医療センター 医長、**遠藤**、**尾上**:京都桂病院 副部長、**柿木**、**風林**:旭川厚生 医長、**金木**:遠軽厚生 医長、**鹿原**:旭川医大 助教、**川井**:旭川厚生 医長、**菊地**:旭川医大血管外科 准教授、**小島**:大垣市民病院 医長、**小針**、**斎藤**:大通りテラスクリニック 院長、**坂田**、**笹倉**:済生会宇都宮病院外科 医長、**佐藤**:旭川赤十字病院、**神保**:東京武蔵野病院、**鈴木(幸)**:神奈川県立がんセンター 医長、**平**:神奈川県立こども医療センター病理、**高橋(麻)**:いつきクリニック石川橋、**辻**:小田内科形成外科、**土井**:斗南病院 医長、**豊島**:府中恵仁会病院、**中西**:塩尻病院、**二村**:北海道がんセンター循環器内科、**野中**:富士吉田市立病院放射線科治療医長、**長谷川**:森産婦人科麻酔科医長、**羽田**:さいたま赤十字病院 副部長、**浜野**:銀座並木通りウィメンズクリニック 院長、**平井(理)**:アメリカ留学、**福岡**:がん研有明 副医長、**藤林**:旭川赤十字病院 副部長、**堀**:帯広協会病院総合診療科責任医長、**政田**:呉医療センター、**箕輪**:手稲溪仁会病院 主任医長、**森川**:石金病院、**八代**:勤医協中央病院病理科 副科長、**矢野**:白峰クリニック、**山口**:ふじみ野整形外科内科骨粗鬆症スポーツクリニック 院長、**山下**:済生会宇都宮 シニアスタッフ、**山本**:君津中央病院?、**横澤**:さいたま赤十字病院 副部長、**吉田(健)**:岐阜県総合医療センター 医長 **B組** **秋山**:目黒駅前アキクリニック院長(皮膚科)、**阿部**:王子総合病院 主任科長、**安藤**:斗南病院 医長、**石川**:釧路協立病院 副院長、**石原**、**板谷**:北海道医療大学?、**井村**:洛和会音羽病院 副部長、**上森**:旭川医大 助教、**大原**:旭川医大 講師、**賀来**、**柏倉**、**勝俣**:青森県立中央病院 副部長、**神谷**:旭川医大眼科助教、**神崎**:札幌マタニティ・ウィメンズホスピタル、**熊井**:旭川医大 特任准教授、**小泉**:イムス札幌消化器中央総合病院、**児玉**:クラーク病院、**小森**:長野県立こども病院 副部長、**佐賀**:勤医協中央病院 血液病副センター長、**坂井**:がんセンター中央、**佐古**:旭川医大麻酔科助教、**鯖戸**:市立札幌病院麻酔科副医長、**鈴木(智)**、**芹川**:名寄市立消化器内科主任医長、**高橋**:手稲溪仁会病院 主任医長、**田中**、**民谷**:旭川医大?、**土屋**:札幌徳州会病院 外傷センター部長、**土岐**:三愛病院、**中嶋**:旭川医大 副センター長、**長沼**:大分県立病院 副部長、**埜澤**:ふたば皮膚科 院長、**長谷部**:旭川医大 助教、**畑山**:旭川医大血液内科、**羽中田**:楽天堂内科整形外科院長、**平井(俊)**:旭川厚生循環器内科医長、**平田**:横浜市立大学 助教、**平湯**:久留米大 助教、**藤田**:恵庭ふじたクリニック 院長、**古館**:仙台医療センター 医長、**本庄**:済生会横浜市南部病院 副部長、**増田**:手稲溪仁会病院 主任医長、**馬渡**:旭川医大 特任助教、**向井**:横浜市立大学 市民総合医療センター 部長、**森本**:名古屋大学、**柳町**:弘前大学 助教、**山崎**、**山本(知)**:さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック 副院長、**山本(昌)**:旭川医大 助教、**横塚**、**吉田**:武蔵浦和耳鼻咽喉科 院長

第32期だより

常任幹事 海野茂樹

32期生の皆様並びに同窓会の皆様こんにちは。今回の各期だよりでは、昨11月に開催した同期会のご報告をしたいと思います。なお、この同期会はオフィシャルなものではなく筆者が山形の片田舎から旭川にプライベートで遊びに行くにあたり旭川近隣でその日に集まれるメンバーに声をかけて開催されたものです。そんな集まりがあったなんて知らないよとか、なんで声かけてくれなかったという方、本当に申し訳ありません。

今回の同期会は2023年11月某日に旭川の二幸本店で開催されました。参加者は同期生17名とお子様たちが5名でした。当日は子供たちもいる手前、学生時代のような飲み方ではなくずいぶん大人な雰囲気となりましたが、それでも久しぶりに会えたこともあり近況報告や昔話で盛り上がりました。中堅としての立場での苦労話やそろそろ転機を迎える、新しい挑戦をするなどの話を聞けばやはり同期会というのは学会や医師会の集まりとは違う特別なものだなということを感じるものでした。

2020年の本誌でご報告した通り前回の同期会は2019年の11月に開催していますが、それから想像もしていなかったような状況になりいろいろな制限のある世の中になってしまいました。また次の機会になどと言っているけどどのようなことが起こるかわからない世の中ですので、2025年中に集まる機会を設けようと思います。旭川か札幌か、時期もいつ頃がいいか、僕の連絡先は変わっていませんのでいつでも連絡いただければ幸いです。また、同期会に関するだけでなく連絡先や勤務先の変更の連絡だけでもいただくと助かります。



第33期だより

幹事 青木 友希

我々33期は来年で卒後15年と節目の年になります。そこで、来年2025年に同期会が開催されることになりました！岡崎先生を筆頭に、浦先生、佐々木先生、萩尾先生が役員となって準備を進めてくれています。日時は2025年7月20日(日) 17:00頃開始で、札幌での開催予定となっています。詳細については同期LINEで流れる予定ですので、まだ同期LINEに入っていないという方は okazawa@asahikawa-med.ac.jp まで連絡をいただければグループに招待させていただきます。よろしくお願いします。

さて、今回も皆様から近況のコメントを募りました。連絡先がわからず、声がかかっていない方もいるかと思います。申し訳ありません。「コメント載せたかったのに声かからなかった！」という方がいましたら okazawa@asahikawa-med.ac.jp まで連絡をいただければ次回以降連絡させていただきます。今回は総勢19名の方からコメントをいただきました。ご協力くださった皆様ありがとうございます！

それでは以下皆様からのコメントを掲載します。氏名、所属、近況 or 一言となっています。

並木 (旧姓 石本) 詩子 慈恵医科大学消化器肝臓内科 大学院4年目で国立がん研究センター中央病院 研究所で膵癌の研究をさせて頂いています。なんとか学位取得して卒業できそうです。一歳半の息子に毎日デレデレしながら、仕事と研究と育児を楽しみながら頑張ってます。

板橋 彩 旭川医大産婦人科 変わらず大学で婦人科やっています。上がいっぱい辞めて下がたくさん入ってきて歳を感じています。

岡崎 智 新札幌乳腺クリニック 大学を離れ、2年半が経過し、週4外来、週2手術と充実した日々を過ごしています。サッカーも現役として続けていますが、執刀の増加に伴い手を怪我出来ない立場のため、そろそろ引退かなあと思っております。

青木 (旧姓岡澤) 友希 旭川医科大学放射線医学講座 旭医で相変わらず放射線治療医として働いています。今年の春、なんとか医学博士を取得することができました。今は二人目をお腹に宿しつつ、仕事をやっております。

小野 嘉允 沼津市立病院 地元の病院に赴任して4年目、今のところ問題は起こさずに働けてます。昨年、高校の同級生だと気付かずに手術をして、術後1年でふと気付いて気まずい感じになりましたが、問題にはなりませんでした。

千葉 (旧姓金子) 真由子 防衛医科大学校病院救急部 1歳と5歳の男の子の育児に日々奮闘中です。長男のお受験が終わりほっとしています。

加藤 (旧姓 河野) 真奈美 松波総合病院院麻酔科 岐阜に移住して一年半、今の病院で旭医出身の先生方にもちらほら出会い、大学の繋がりを感じています。仕事は変わらず総合病院で麻酔科やっています。私生活は、長男次男がスポ少バスケ部に入って休日はバスケ三昧です。こうなったら三男にもバスケやらせたい…なぜなら送り迎えが大変だから (笑)

久野木 健仁 なかしべつ内科クリニック 旭医第三内科で大学院を卒業して、今は縁あって道東の中標津で開業しています。たまに札幌や旭川、東京行くので飲みましょう

後藤 和海 関東労災病院 スポーツ整形外科 (東大整形外科医局) なんと関東労災病院・スポーツ整形外科に所属している8名の医師のうち3名が旭医出身 (20期真田先生、39期葛原先生) と一大勢

力になっています。関東労災病院がある武蔵小杉にはニッシーも住んでいるみたいで、ネッシーくらいの頻度で目撃します。

小林 進 旭川医科大学腎泌尿器外科学講座 周囲の助力もあり変わり無く診療にあたらせてもらっています。シベリア廊下が工事されてついにシベリアではなくなるようです

坪井 (旧姓小林) 瑠美子 さいたま北部医療センター 日々時間に追われ、何のために仕事をしているのか?と考えることもありますが、大学時代に憧れた医師像を思い出しながらなんとか仕事しています。2025年春に札幌開催の学会に行く計画を立て、それもモチベーションになっています。久しぶりの北海道、楽しみです。

林 (旧姓 小松) 伸子 芝浦アイランド皮膚科 開業して1年ちょっと経過して、経営者として楽しい日々を過ごしています。形成外科医として、慣れない皮膚科もようやく身につけてきました。私生活は日々、子供3人の習い事の送迎で電動自転車ですべてを走り回っています。

山梨 (旧姓佐藤) 香菜 元町総合クリニック 大学院卒業後、札幌市内で勤務しています。子どもは男児3人の母ちゃんになりました

佐藤 雅 東千葉メディカルセンター 整形外科 筋肉量を増やすには体重を増やす必要があることが判明しましたが今度は体重が増えずに困っています。

本居 (旧姓更科) 美羽 北海道中央労災病院循環器科 今年度から岩見沢で夫婦で循環器しています。

鈴木 桂悟 がん研有明病院 下部消化管 趣味の大腸ESDを毎日できる幸せな日々を送っています。最近3歳の息子にpit patternを教え始めました。

大寺 (旧姓：武田) 紗夜 市立札幌病院腎臓内科 市立札幌病院腎臓内科勤務。今が1番お仕事楽しいです！まだまだ急性期の医療頑張りたいなと思っています。

仲嶺 盛 三愛眼科 沖縄で眼科クリニックに務めています。3人の子供を育てながら、最近また始めたバスケットボールでリフレッシュしつつ、家族の支えを得て日々診療に励んでいます。

高橋 (旧姓：橋本) 真美子 川島病院 去年ようやく総合内科専門医、血液内科専門医を取得し、4月から医局人事で民間病院に異動しました。高齢者メインですが、化学療法をひっそり行っています。プライベートでは、子供3人とも小学生となり、ランドセルがリビングによく散乱していますが、楽しく生活しています！

第36期だより

永 幡 研

皆様お元気ですか、卒後10年が過ぎましたね。

杉山先生からのバトンを受け継ぎ、今回は皆様に所属、同期へのメッセージなどを一言ずつお願いしました（幹事の力不足で伺えていない人申し訳ありません）。沢山の近況をありがとうございます。字数ギリギリです。

永幡：札幌医大免疫リウマチ内科、総合診療科。診断困難例、不明熱などあれば紹介下さい。ひろちゃんは育児ノイローゼ気味です。/**たいき**：俺はラボやめて、妻がリサーチでバージニアに就職したのでそこで主夫予定です！英語喋れないけどなんとかやってるよ！/**西條さん**：札幌徳洲会病院プライマリ科にいます。誤嚥性肺炎、体動困難ウェルカムです。近隣でお困りの先生方ご相談下さい。/**よしたけ**：大阪公立大学の救命救急センターで外科系救急医やってます。外傷のOJTとか興味ある人は連絡下さい！/**しみけんさん**：静岡県浜松市でひかり在宅医療クリニック浜北院の雇われ院長やってます！/**あまのさん**：筑波大学附属病院で神経放射線のお仕事をしております。現在最も effort を割いているのは小6になった娘と小5の息子の中学受験対策委員業務です。しにそうです。/**杉山**：体は資本ですので、健康には何よりも気をつけて頑張っていきましょう！/**たかたか**：医局人事で2023年度から帯広第一病院消化器内科に赴任しています。9年ぶりの道民生活です。/**カヤバ**：旭川医大整形外科で地方病院を転々としています。旭川に家は建てましたが引き渡し直前から3年単身赴任しています。かえって公私のメリハリがはっきりしていて充実しています。/**オディ**：女子医大整形外科に所属して神奈川で勤務しています。2023年はアジアマスターズでリレー2冠（35歳の中で日本9位）。2024年は世界マスターズで準決勝進出。2025年は早稲田大学の大学院生になりそうです。/**ゆうた**：いまはアメリカ、フィラデルフィアで心臓外科フェローしてます。/**のっちさん**：大学で乾癬やってます！来年から院行く予定です！/**松本**：横浜での勉強を終えて、去年から旭川医大に戻って小児の血液・腫瘍を診てます。今年、たいきとともにきと馬場ホルで再会。/**関さん**：長野県諏訪中央病院で呼吸器内科医をしています。学生時代、皆さんに可愛がって頂いた長女も、早いもので来年中学生です。長野県に来られる場合は、ぜひお気軽にご連絡ください。/**けんた**：オーストラリアメルボルンのSt Vincent Hospital MelbourneのICUで働いています。オーストラリアの臨床留学に興味があればお力になれるかもしれないのでご連絡ください。/**うつつー**：今は神奈川とか東京で勉強していますが、どこかでまた会ったりすると思うので、その際はよろしくお願ひします。/**りかちゃん**：つい先ほど私は3人目の子供を出産し、病室でこの文章を書いてます笑 色々な都合で耳鼻科医を休んで5年経ちますが、2025年4月からは長野県に戻りまた耳鼻科医に復帰する予定です。かなりのブランクがありますが、のんびり頑張ります！/**梅影**：旭川医科大学病院の感染制御部にいます。みなさん頑張りましょう。/**チャーリー**：2023年4月から帯広厚生病院でリウマチ専門医として勤務しています。気軽に紹介してください。/**あやなちゃん**：今年度網走から旭川に戻り北彩都病院におります。子育てで保留していた専門医試験に挑みます。透析導入紹介ください。ABO適合の腎移植希望は旭医へ。/**林夫妻**：林夫妻は札幌進出していて、隆介は医局人事で札幌東徳洲会病院耳鼻科にいます。なつきは退局し産婦人科クリニック勤務です。三姉妹を育てながら元気に過ごしています。/**かなえ**：北大の眼科で網膜外来と小児斜視外来やってます。来年4月から1年だけシンガポール留学予定ですので、もし旅行に来たら連絡下さい！/**ななちゃん**：北海道大学病院乳腺外科にいます。来年は旭川で働いてると思われれます。/**ゆうかちゃん**：千葉県にある国府台病院の眼科に所属しています。/**ともちゃん**：旭川医大皮膚科で、悪性腫瘍や皮膚外科中心やってます。気になるホクロなどあればご相談ください。/**たけさん**：今は福岡の飯塚病院というところで産婦人科and漢方内科医として働いています。漢方専門医取得と、トリカブト（附子）を上手に使い

るお医者さんになることが目標です。標準治療に反応しない症例が漢方で軽快することも少なくないので、困った症例があったら連絡ください/**満ちる**：旭川の北海道療育園で小児神経科医として働いています。神経発達症外来もしているので、困ったことがあればご相談ください。/**くぼけん**：福井県立病院精神科で、アルコールからクロザリル、緩和、せん妄対策チームと元気に何でも屋してます。ついでに助産師の妻経由で周産期ケアもやらされてます（笑）/**ゆさゆう**：東北大学病院形成外科、大学院4年目。4月からは県内市中病院で臨床復帰（予定）。たまにこっそりと北海道に出没してます/**たぎさん**：遠く沖縄にあるファミリークリニックきたなかぐすく／北中城若松病院で、在宅医療を中心に家庭医・総合診療医として働いています。沖縄で1～2年、訪問診療したい方がいれば、ついでに在宅医療専門医が取れるコースもありますので、ぜひお声かけ下さい！/**ゆきちゃん**：留萌市立病院に眼科医として所属してます。現在2人目の育休中のため2025年9月までお休みをいただいています。また同病院で復帰予定です。/**よっしーさん**：旭川医療センターで外科にいますが、来年度からは旭川医大の緩和ケア科に転科します。新たな道を進み始めます。/**しゅんくん**：東北大学病院産婦人科に所属しています。現在NIHでポストクをしており妻、子供5人と円安ドル高節約アメリカ生活をエンジョイしています！2026年までは少なくとも契約してもらえそうなのでワシントンにいらっしゃる時はご連絡ください。/**とみーさん**：仙台の慢性期病院精神科に勤務してます。仙台近郊で入院が必要な認知症の方がいれば教えて下さい。/**くみさん**：千葉大におりましたが札幌へ移り、2024年5月に糖尿病・内分泌代謝と女性ヘルスケアのクリニックを開業しました。再会楽しみにしています。/**石王さん**：現在、母校の総合診療部で、外来診療をしつつ、週1で基礎研究をしています。研究テーマは中枢神経系による腸管バリア機能制御機序の解明で、薬理的な検討を行っています。今後の展望を考えるに光遺伝学・化学遺伝学的検討も必要です。もし、そうした技術を習得中もしくは習得済の方がいらっしゃれば、ご連絡ください。/**ザキヤマ**：トータルアーチ、AVRの緊急手術でしたもうヘトヘトです。明石医療センター麻酔科に所属しています。手術麻酔一筋でしたが、最近はペインクリニックにも挑戦しようと思っております。/**貴紀**：横浜で麻酔集中治療医。住んでるマンションで小さい火災発生、全住民一時避難して震えた/**阿部くん**：2児のパパになりました。今年から札幌で在宅医やってます（そよ風ってところ）。/**ひろたか**：大学で脳外科やってます。医局員が足りません/**ばんばん**：市立旭川病院泌尿器科で勤務中、2歳イヤイヤ期に振り回されながら仕事と育児の両立目指して頑張っています！/**ほたてさん**：函館で耳鼻咽喉科クリニックをやってます！道南へお越しの際はお立ち寄りください。/**かねごん**：消息不明/**中川くん**：札幌白石記念病院循環器内科。主にアブレーションやPCIなどしてます。元気にやってます。/**さらさん**：網走で細々と開業し、田舎生活を楽しんでいます！

以上です。皆さんそれぞれの場所でご活躍されているようで嬉しかったです。

次回2026年のバトンをPhiladelphiaで頑張ってるゆうたに託します！



第38期だより

佐久間 寛 史

大変お世話になっております。38期の佐久間と申します。毎回のことながら、準備不足が仇となっています。今回も、学内勤務の先生方へ声をかけさせていただき、可能な範囲で、一言メッセージをいただきました。本当は、国内外で活躍されている同期の皆様の実情を、できる限りお伝えしたいと思うのですが、実現できず申し訳ございません。また、お忙しい中、ご協力をいただきました先生方、誠にありがとうございました。毎回、言っていますが、次回以降はどのような形式にするか、検討いたします。

ご意見・ご要望などございましたら、私佐久間 (hsakuma210@asahikawa-med.ac.jp) まで、遠慮なくご一報ください。

(順不同です)

佐藤 遼介 (耳鼻咽喉科)：耳鼻咽喉科専門医を取得し、現在は大学院3年目として腫瘍、扁桃免疫の研究を行っています。今後は頭頸部癌を中心に研究、臨床に励んでいく予定です。結婚して子供1人います。

池知 佑太 (リウマチ・膠原病内科)：旭川医科大学病院 リウマチ・膠原病内科所属の池知です。悪名高きJ-OSLERを何とか突破し内科専門医、リウマチ専門医は取得しました。その他、医局の命令もあり、JMECCインストラクターとして毎年駆り出されております。2025年は総合内科専門医が取ればとは思っていますが、どうなることやら。我々もそろそろよい歳なので38期、37期、36期の同期の皆様、お身体には気を付けてお過ごしください。

脇坂 理紗 (耳鼻咽喉科)：大学院で腫瘍免疫の研究をしており、春に院卒業目指しています。研究メインの生活から10月から久々に臨床に復帰して慣れない日々を送っています。

山村 日向子 (小児科)：小児科専門医取得後に出産、2年間の専業主婦を経て、今年度から小児内分泌・糖尿病班で復職しました。各科に同期がいて心強いことこの上ないです。夫(山村祐司：38期卒：旭川厚生整形外科)も元気です。

宮内 琴菜 (腎泌尿器外科)：泌尿器科専門医を取得し2024年度から大学で勤務しています。ロボット手術や女性の泌尿器科疾患の診療など勉強中です。

上小倉 佑機 (腫瘍病理)：大学で日々病理診断に明け暮れております。今年度より医局長となりました。病理診断でお困りのことがありましたら、気軽にご相談ください。

大平 成真 (血管外科)：医師9年目になり、今年は脈管専門医を取得しました。さらに心臓血管外科専門医試験があり、受ければサブスペ資格を得ることになります。大学院は4年目になりますが、こちらはまだ卒業の見通しが立っておりません。なんとか早く卒業できるように頑張りたいです。

佐藤 允洋 (消化器内科)：まーぼーこと佐藤允洋です。札幌東徳洲会病院→富良野協会病院を経て2023年に大学に戻ってまいりました。消化器病専門医・消化器内視鏡専門医取得し、現在は今年から新たに登場するIBD専門医の取得を目指しています。専門はIBDです。ありがたいことに娘二人の子宝(3歳, 2歳)に恵まれ、絶対に将来嫁にはやらないと決めております。自分みたいな男を連れてきたら

ぶん殴ります。大学帰ってきたらぜひ声かけてください。

栗垣 彩華（糖尿病内科）：息子が生まれて二児の母になりました。現在育休をいただきイヤイヤ期&新生児と日々奮闘中です。

津村 亜依（産婦人科）：産婦人科専門医を取得後は昨年まで2年間、市立稚内病院で勤務して今年から大学産婦人科学講座にいます。生殖医療専門医を大学で取ろうと思っていたら、なんやかやで取れなくなったので、再来年に札幌医科大学で研修して取得を目指す予定です。蒔田先生にお願いして臨床遺伝専門医の研修も開始しました。どちらも頓挫しないように頑張ります。

水上 奨一郎（消化器外科）：ようやく消化器外科専門医と消化器病専門医を取得しました。昨年から大学院に進学し、今は本業の消化器外科から少し離れて院生として働いています。日々、病理部で大腸癌の検体を顕微鏡で覗きながら、手術をたまに手伝い、月に何度か救急科医として働いて…、中途半端に広く浅くやっています。早く学位論文が出来上がったらいいな～と思う毎日です。

斉藤 美季（放射線科）：変わらず母校で時短勤務で周りに助けられながらも変わらず沢山の経験をさせていただいています。

第39期だより

矢口陽介

こんにちは。このたび、この「持ち回り原稿」の順番が巡ってきた2017年卒の矢口です。「持ち回り」とはいえ、選出方法は現在同じ病院で働いている整形外科医の2017年卒同窓会幹事M原さんからの熱い（という名の強引な）パスでした。おそらく「文章書くの得意でしょ？」と軽い気持ちで押し付けられたような気がします。筆を執るとなるとこれがなかなか難しいものですね（笑）。とはいえ、麻酔科医として「どんな場面でも冷静に対処する」をモットーにしていますので、今回もその精神で何とか書き上げたいと思います。どうぞ最後までお付き合いください。

さて、私は医学部6年生のときに麻酔科を志しました。当時は、医師として患者さんの生活の質を支える慢性期医療に興味がありました。特に、ペインクリニックや緩和ケアといった分野に携わることで、患者さんの痛みや苦しみに直接向き合い、寄り添う仕事がしたいと考えていました。そのため、麻酔科は自分にぴったりの道だと感じたのです。しかし、実際に麻酔科医としてキャリアをスタートさせると、日々の仕事の中心は手術室での麻酔管理でした。現在も日々手術室で患者さんを支えています。緩和医療からは少し距離を置いた形になっています。それでも、目の前の患者さんに対して最善を尽くし、手術という大きなイベントを安全に乗り越えるお手伝いができることにやりがいを感じています。

振り返れば、私の医師としてのスタート地点は、初期研修を行った北海道の最北端・稚内市でした。稚内といえば、涼しい気候や強い風、大量の鹿が特徴的な土地ですが、研修医時代の私にとってそれ以上に印象的だったのは、病院スタッフや地域の方々の温かさでした。特に、未熟な自分を見守りながらサポートしてくれた看護師さんや指導医の方々のおかげで、厳しい研修生活を乗り越えることができたことと感謝しています。研修医時代のエピソードといえば、初めて麻酔を担当した日の緊張感や、当直明けの眠気と戦いながらの診療など、どれも思い出深いものばかりです。

初期研修を終えた後、私は函館に移り、比較的穏やかな環境で経験を積みました。「北海道の南国」とも言われる函館は、稚内とは全く異なる風土で、雪も少なく温暖な気候に驚かされることもありました。しかし、医療の現場はどこでも同じように厳しく、患者さん一人ひとりの安全を守る責任を感じながら働いていました。その後、大学勤務に移り、さらに麻酔科医としての専門性を深める日々が続きました。大学病院では、臨床だけでなく教育や研究にも携わる機会があり、自分の技術や知識がまだまだ未熟であることを痛感する毎日でした。特に、学生や研修医からの突拍子もない質問に頭を悩ませたり、手術室での予期せぬ状況に冷や汗をかいたりする場面も多く、忙しさと学びに満ちた時間だったと振り返っています。

そして今、私は再び市立稚内病院に戻ってきました。19年ぶりに稚内に麻酔科常勤医として勤務することになり、現在はひとり麻酔科医として手術麻酔のすべてを担っています。「19年ぶりの麻酔科常勤医」という立場の重みは想像以上で、責任の大きさに押しつぶされそうになることもありますが、それでもスタッフや地域の患者さんの支えに助けられながら奮闘しています。研修時代を知る看護師さんから「あの頃より頼もしくなりましたね」と言われることもあり、少しは成長したのかなと感じることもあります。

麻酔科を志した当初、ペインクリニックや緩和医療に携わりたいという思いがありましたが、現在は手術室麻酔が中心となっています。緩和ケアのような長期的に患者さんと向き合う医療とは異なり、手術室では短期的かつ緊急性の高い状況で患者さんと向き合うことが求められます。そのため、当初思い描いていたキャリアとは少し違う道を歩んでいますが、手術室での麻酔管理を通じて患者さんの命を守る仕事に携われることに誇りを持っています。

卒業して8年が経とうとしていますが、この間に思い描いていた未来とは異なる方向に進むことも多々ありましたが、振り返ればどれも大切な経験です。そして、こうして学年の同期と繋がり、原稿を

書く機会をいただけたことにも改めて感謝しています。また、こうした文章を書けるのも、便利な世の中になったおかげです。実際、この原稿も ChatGPTさんの力を借りて書き上げました。筆下手で話下手な自分がここまで書けたのは感動ものですが、その一方で、「AIにできない医療を提供するにはどうしたらよいか」ということを日々考えさせられます。患者さんに求められる医師になるために、今後も精進を続けていきたいと思えます。

次に原稿の順番が回ってくる方には、ぜひ私のように楽しんで(?)書いていただければと思います。それでは、また同窓会やどこかの現場でお会いできることを楽しみにしています。どうぞ皆さんお元気で!



第40期だより

大 湊 久 貴

第40期の皆様いかがお過ごしでしょうか。

いつの間にか若手ではない年次になってきてしまいましたね。

自分は子どもが4歳になり、日々翻弄されています。子どもがいつの間にかどんどん成長しびっくりさせられることも多くなりました。今年から幼稚園に入園し楽しそうですが、風邪もたくさんもらってきています笑。ただ自分は耳鼻科医なので、ある程度子どもの診察等ができることは他の親御さんたちよりは楽かなと感じています。最近子どもを初めてUSJに連れて行ったところお気に入りになり、来年も行く予定になりそうです。

仕事では、耳鼻科はとうとう専門医試験があり、大湊・中村ともに合格することができました。みなさんもそれぞれのキャリアを積んでいるところだと思います。健康には気をつけてお過ごしください。

以下はアンケートで記載していただいた内容を簡条書きで記載させていただきました。

「氏名、勤務地、専門科、ひとこと」の順で掲載致します。(順不同)

皆様ご回答ありがとうございました。

- 齊藤 翔真 遠軽厚生病院
 藤澤 拓真 旭川医大 整形外科 パパになります。育休が欲しいです
 鈴木 悠太 東京 消化器外科
 井上 貴博 旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 大学院に在学中です。
 中嶋 拓磨 札幌 救急・集中治療
 上坂 司 旭川医科大学 麻酔蘇生科・緩和ケア科 旭川にお寄りの際はお声かけください
 大湊 久貴 旭川厚生病院 耳鼻咽喉科 子どもは4歳になりました。
 永瀧りりこ 旭川医大 麻酔科 去年娘が産まれました。親バカしてます
 伊丹 秀作 北海道 腎臓内科
 中村 基角 日鋼記念病院 耳鼻咽喉科 ついに結婚した
 伊與部拳太 網走厚生病院 循環器内科
 宿田 夕季 旭川医大 糖尿病・内分泌内科 ぼちぼちやってます
 津村 諄一 北海道せき損センター 整形外科 脊椎外科
 山田 一紀 旭川赤十字病院 腎臓内科
 村住 拓哉 北見赤十字病院 整形外科
 小川 弘記 札幌 皮膚科
 黒田 祥平 旭川赤十字病院 消化器内科
 宿田耕之介 旭川赤十字病院 消化器内科 休日はだいたい山にいます。

柵橋祐典先生を偲んで

旭川医科大学小児科

鈴木 滋
(第24期生)

令和6年5月30日、柵橋祐典先生が享年64歳でご逝去されました。訃報に接した瞬間、動揺で診療が手につかなかったことを思い出します。最後に先生とお話したのはその2か月前、Zoomでの面談でした。体調が思わしくない中でも、若手医師を気にかけてられ、また秋の学会発表に意欲を示しておられました。

柵橋先生は平成2年に北海道大学医学部をご卒業後、小児科医としてのキャリアをスタートされました。臨床経験を積む中で、当時北大小児科に在籍されていた当科第3代教授・藤枝憲二先生の勧めにより、北海道大学生理学講座で時間生物学を学ばれました。その後、アメリカでの留学も経験され、10年にわたり基礎研究に邁進されました。

平成21年4月、柵橋先生は、「基礎研究の経験を臨床に活かしたい」という初心に立ち返る思いから、藤枝教授の招きで旭川医大小児科に赴任されました。翌年、藤枝教授のご逝去された後は、内分泌グループのチーフとして重責を担われました。先生は藤枝教授の遺志を継ぎ、時代を先取りして当科に新設された次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析プロジェクトを主導し、研究の活性化と進展に多大な貢献をされました。

柵橋先生は、私たち後輩一人ひとりに親身に、熱意を持ってサポートしてくださいました。ハイボールを片手に軽快なトークで若手を引きつけ、個人的な事情や進路についても積極的に聞き出し、一人ひとりと真剣に向き合っていたお姿は、皆がよく知るところです。その結果、先生が医局長を務められた3年間で、14名もの新たな医局員を加わるといふ素晴らしい成果を残されました。

研究面では、厚生労働省の難治性疾患研究班や科学研究費補助金による研究プロジェクトに携わり、特に、家族性低マグネシウム血症の全国調査と診断指針作成では研究代表者として尽力されました。また、日本小児内分泌学会北海道地方会を代表世話人として立ち上げられ、小児内分泌分野の向上にも幅広く貢献されました。

多忙な日々の中でも、柵橋先生は北大全学オーケストラ時代から続けていたバイオリニストとしても活動され、北海道交響楽団でコンサートマスターを務めるなど、芸術面でもご活躍されていました。小児科医局では、7階への教室新装記念として藤枝教授が待ち望んでいたエレベーターホールで「バイオリン二重奏の夕べ」が催され、柵橋先生と鳥海先生による演奏が披露されました。闘病中であつた藤枝教授は札幌から来られ、奏でられる美しい音色に満足そうな表情で耳を傾けておられました。きっと天国で、お二人で語り合っておられることでしょう。

令和3年4月、柵橋先生が市立稚内病院副院長に転出される際の壮行会でのご挨拶では、旭川医大の



まとまりの良さを強調し、それがいかに大切かを語っておられ、さらなる発展を心から考えてくださっていました。柵橋先生に教えていただいた理念を胸に刻み、微力ながらも活動を進めて参りたいと思います。

柵橋先生、大変お世話になり、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

小児外科 教授(病院) 宮本和俊先生(5 期生) を偲んで

旭川医科大学 外科学講座 小児外科

宮城 久之

(第25期生)

旭川医大初の小児外科教授(病院)の宮本和俊先生は、小児外科の名門、順天堂大学小児外科へ国内留学された後、旭川医大でずっと約30年以上に渡り道内の子ども達の医療を支えてこられました。9月のお通夜、告別式では会場に入りきれないほど多くの患者さんやその御父兄、多くの医師(旧第一外科、旧第二外科、小児科、同期の先生方、市中の小児科の先生方、・・・)、看護師、コメディカルの方々まで参列されておられました。

告別式後に開催されました日本小児外科秋季シンポジウム(東京)、日本小児外科QOL研究会(青森)では宮本和俊先生へ黙祷をして頂きました。宮本先生のお人柄から、全国各地のたくさんの先生方からお声かけ頂きそれぞれ思い出話を伺いました。

宮本先生とわたくしの出会いは、医学部4、5年生の頃、手術に入れて頂きカメラ持ちなどさせて頂きました。手術中は容赦なく叱られたりしましたが、手術が終わるとお店のお酒が無くなるくらい飲んで、店主が買いに走るほどでした。アルコールが入っても手術のお話しはつきず、しかし決して自慢話では無く、手術で上手くいかなかったこと、辛かった手術などをお話しくださり、非常に勉強になりました。今でも臨床に役立っており、若い先生方にも伝えているところです。

普段からモノにこだわっておられた宮本先生。ご自宅の数々の道具や美しい人形達。「外科医は手術に使う道具にもこだわれ」という生き方をあらわしておられるようでした。そんな宮本先生が昨年倒れた際にApple Watchが救急車を呼んだというepisodeも流石と感じました。実はわたくし自身も宮本先生の3ヵ月後にくも膜下出血を発症してしまい、幸いにも復帰後はすぐに働くことができおりますが、宮本先生からのメッセージと思ってApple Watchを装着して、大好きな酒とサウナもやめ、健康管理を始めた次第です。

3ヵ月が経過した今、まだまだ心に大きな穴があいて放心状態でおります。わたくしの経過も宮本先生のちょうど3ヵ月を追っており、そろそろ迎えに来てくださり、あの世で酒が無くなるまで飲もうと誘ってくださるのか、などと妄想しております。しかし現実には患者さんは次々と来ており、道東・道北中には札幌からも当施設を求めてやって来ます。臨床、教育、研究と旭川医大の小児外科の存在理由を再確認しつつ、どのように宮本先生へご恩返しをしていくか模索しているところです。

最後に告別式の際に読んで頂きましたサラエボで働くDr. Lamija Hukicは、宮本先生に師事した最後の海外留学生ですが、追悼のメッセージを紹介させていただきます。

“I am very sad to hear about the passing of Professor Kazutoshi Miyamoto.

Professor was not just an extraordinary educator, but also a mentor and inspiration to many of us, not just myself. He touched so many lives with his kindness and warmth.

I will always remember the time I spent with him as an exchange student in Japan. For a month I was able to learn from him, not only medicine but also life lessons It's these memories that will keep his spirit alive in our hearts. I will always be grateful that I got to meet him, for the guidance and support he provided, which shaped my academic journey. Professor Kazutoshi Miyamoto, leaves behind a legacy that will continue to inspire future generations.

He and his family are in my thoughts and prayers. Please accept my heartfelt condolences during this difficult time.

With deepest sympathy,

Lamija Hukić, his exchange student from Bosnia and Herzegovina”

小児外科一同、謹んで哀悼の意を表します。



<手術中は厳しい宮本先生>



<第56回日本小児外科学会学術集会(久留米)にて
“くるっば”と記念撮影>



<留学生 Lamija Hukic(ボスニア・ヘルツェゴビナ)と小児外科>



<宮本邸にてLamija Hukicの歓迎会(うれしそうな宮本先生)>



<2023年10月20日 最後に宮本先生と飲んだ日>

令和5年度 旭川医科大学医学部医学科同窓会事業報告

1. 幹事会の開催と議事録の作成、議題の周知

- 5月23日 第1回執行役員会（zoom）を開催した。
- 6月6日 第1回幹事会（zoom）を開催し、議題について同窓会HPに掲載。
- 8月23日 第2回幹事会（zoom）を開催し、議題について同窓会HPに掲載。
- 3月5日 第3回幹事会（zoom）を開催し、議題について同窓会HPに掲載。

2. 医学奨励賞事業

- 10月20日 第22回医学奨励賞受賞記念講演会・授賞式を開催した。

【学術奨励賞】

受賞者なし

【特別奨励賞】

課題：国内初の経営母体の異なる隣接二施設による小児肝移植の始動

--埼玉県立小児医療センターの挑戦--

受賞者：埼玉県立小児医療センター 井原 欣幸 先生（第20期）

3. 同窓会誌制作事業

- 12月27日 同窓会誌第41号（2023）をオンライン発刊し、発刊案内状を会員へ送付した。

4. 卒後研修支援事業

「臨床研修プログラム説明会」および「合同入局プログラム説明会」の開催に際し、軽食・飲料の提供を行った。

「卒後臨床研修症例発表会」へ軽食・飲料の提供を行った。

5. 同窓会支部支援事業

同窓会誌第41号（2023）にて各支部の支部だよりを掲載し、会員の交流支援を行った。

6. 在学生支援事業

- ① 医大祭支援：医大祭への資金援助（10万円）を行った。
- ② 4年生の症例研究発表会へ、優秀者への副賞としてスターバックスギフト券（2万円）を提供した。
- ③ 医師国家試験受験支援：医師国家試験対策委員会に対し、必要経費として30万円の支援を実施した。
- ④ キャリア紹介イベント：3・4年生を中心とした在学生を対象に、同窓会員の多様なキャリアを紹介し、進路選択の幅を広げていただくきっかけとなるようなイベントを開催。3名の同窓会員にお集まりいただき、25名の学生参加者へご自身のキャリアを紹介いただくとともに、直接ご質問いただく時間を設け交流を図った。
- ⑤ 卒業生へ卒業記念品贈呈：卒業記念品（温湿度計付き時計）を贈呈した。

7. 同窓会ホームページ・オンライン住所録管理事業

ニューストピックスの追加など、同窓会ホームページの更新を適時実施した。

オンライン住所録の更新作業を行うほか、新卒会員の新規登録を実施した。

8. 同窓会員への情報発信

同窓会に関するトピックスを同窓会メールマガジンとして配信した。

9.退職教授への記念品贈呈

ご退職教授の最終講義の様子などを撮影し、アルバムに仕上げ、歓送式にて藤谷会長より贈呈した。

10.その他、会員の福利厚生に関する事業、大学事業への協力

海外留学費用助成制度を実施し、1名の申請者へ助成を行った。

国際・全国学会等主催助成制度については応募がなく実施しなかった。

11.会員の慶弔等

慶事 本年度は該当するものがなかった。

弔事 第3期 故 熊井 恵美 先生(第3期) 供花

12.その他

・山本明美会長の辞任に際し、藤谷幹浩先生(第11期生)が第7代会長に就任。

・遠藤 享氏(本会シンボルマークデザイナー)ご逝去に際し、線香付き弔電を送付。

令和6年度 旭川医科大学医学部医学科同窓会事業計画

1.幹事会の開催と議事録の作成、議題の周知

令和6年度第1回幹事会を開催するとともに、議事録を作成する。議題については後日、同窓会ホームページへ掲載する。

また、必要に応じて執行役員会や幹事会、メールによる持ち回り幹事会を開催し、議題について同窓会ホームページに掲載する。

2.医学奨励賞事業

第23回医学奨励賞(学術奨励賞・特別奨励賞)の授与ならびに受賞記念講演会を開催する。(受賞記念講演会・授賞式は学内講義室にて10月開催予定)

第24回医学奨励賞 応募受付(応募締切:令和6年12月末日)

3.同窓会誌制作事業

同窓会誌第42号(2024)を発刊し、会員へ発送・配布する。(12月発刊予定)

4.卒後研修支援事業

① 旭川医科大学卒後臨床研修センターと合同し、「旭川医科大学病院医師臨床研修プログラム説明会」を開催する。(詳細未定)

② 旭川医科大学二輪草センターならびに卒後臨床研修センター主催、同窓会共催にて「合同入局・地域枠説明会」を開催する。(6月下旬開催予定)

③ 卒後臨床研修センターが開催する「卒後臨床研修症例発表会」へ軽食・飲料の提供を行う。(学内講義室にて年5回:6月下旬、8月下旬、10月下旬、12月中旬、2月下旬 開催予定)

5.同窓会支部支援事業

全国各地ならびに米国、欧州の同窓会各支部の会員交流を支援する。

6.同窓会海外留学費用助成制度

同窓会員支援事業として、「海外留学費用助成制度」を創立し、会員の海外での研究を支援する。(応募期間:9月1日~12月31日、選考・実施:~3月31日)

7. 在学生支援事業

① 医大祭支援として支援金200,000円※を支援する。(4月中旬を予定)

※ 第50回の記念回につき、支援金を増額

② 医師国家試験受験に際し、医師国家試験対策委員会へ300,000円の資金援助を行う。(1月上旬を予定)

③ 卒業生へ卒業記念品(同窓会ネーム入り温湿度計付き置時計を予定)を贈呈する。(3月下旬の卒業式当日に前室にて配布予定)

8. 同窓会ホームページ・オンライン住所録管理事業

同窓会ホームページ並びに会員専用サイトを活用し、各種事業の案内や報告、会員の相互交流の場を提供していくほか、オンライン住所録の管理・更新を行う。

9. 同窓会員への情報発信

同窓会員への情報発信として、同窓会HPでの案内・報告に加え、メールマガジンの他、SNSを活用した情報発信を行う。

10. 退職教授への記念品贈呈

退職教授へ退職記念品(最終講義や講座員との写真などを収めたアルバム)を作成し、贈呈する。(3月中旬に開催予定の歓送式にて会長より贈呈)

11. 会員の福利厚生に関する事業、大学事業への協力

会員の福利厚生に関する事業を実施するほか、大学からの要請に応じて各種事業への協力を行う。

12. 会員の慶弔等

会員が破格の栄誉を受けた場合は、適宜、幹事会に諮り祝意(祝電、花束)を表す。

会員、特別会員、名誉会員が逝去した場合、役員会の会葬又は弔電及び供花などにより哀悼の意を表す。

13. 会員支援事業

本会正会員の主催する全国学会等への助成を行う。

14. その他

令和5年度 旭川医科大学医学部医学科同窓会収支決算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額	決算	差異	備 考
会 費	10,000,000	7,481,000	△ 2,519,000	
預 金 利 息	200	268	68	
団体保険集金代行費	650,000	941,749	291,749	¥564,800(Dr保険手数料)+¥376,949(総合保険手数料)
そ の 他	0	0	0	
合 計	10,650,200	8,423,017	△ 2,227,183	

支出の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額	決算	差異	備 考
1. 事業費	8,040,000	5,241,513	2,798,487	
同窓会誌作製費	2,650,000	2,809,895	△ 159,895	会誌第41号制作・会費案内状印刷・封入封緘等 2,368,883 会誌発刊案内状・会費納入案内状 送付料 441,012
医学奨励賞事業費	900,000	491,513	408,487	学術奨励賞・特別奨励賞 副賞 222,741 受賞者旅費 98,080 撮影(写真・動画)、動画編集等 33,000 演台花、受賞者への花束、目録等 9,350 講演会会場一文字、表彰状、式次第等 111,100 式典運営謝礼 副賞振込手数料、その他雑費 17,242
同窓会入会案内印刷費	50,000	50,000	0	入学案内に同封
海外留学費用助成制度	800,000	100,440	699,560	留学生への支援金(100,000円×8名)。令和3年度の残支援枠(3枠)が増加。
在学生各種事業支援費	100,000	120,000	△ 20,000	医大祭支援、4年生研修報告 副賞協賛(スターバックsgift ¥20,000分)
国試受験支援費	300,000	300,000	0	医師国家試験受験支援として、必要経費分として
卒業後研修医支援事業費	950,000	320,981	629,019	二輪草センター「合同入局説明会」支援 99,400 卒業後センター合同企画「臨床研修プログラム説明会」 89,886 卒業後臨床研修症例発表会 131,695
卒業記念品費	210,000	215,600	△ 5,600	過去実績:44期生+院卒 計130名 (@1,400+税)
退職記念品費	440,000	334,400	105,600	令和3年度実績:6名
ホームページ管理費	540,000	476,574	63,426	同窓会HP・会員専用サイト管理費 330,000 サーバ・ドメイン・SSL認証等契約料 69,574 新卒会員登録費・住所録データ更新費 77,000
同窓会支部活動支援費	100,000	0	100,000	支部運営に係る通信費等(平成31年度第3回幹事会議決)
国際・全国学会等助成制度	500,000	0	500,000	
その他事業費	500,000	22,110	477,890	ZOOM契約費
2. 事務費	2,810,200	2,379,356	430,844	
事務局費	1,368,000	1,368,000	0	業務委託費等(月額169,000円=※1+※2) 月額 114,000※1
事務室管理費	180,000	183,946	△ 3,946	事務室使用料 117,648 電話・電気・水道・コピー機使用料 66,298
団体保険集金代行費	660,000	660,000	0	団体加入保険関連業務委託費 月額 55,000※2
通信費	30,000	978	29,022	郵便切手、メール便(幹事、同窓生との連絡)
備品費	50,000	0	50,000	事務局備品
消耗品費	90,000	11,440	78,560	封筒、プリンター消耗品 他
交際費	10,000	0	10,000	支援下さる関係者
会議費	10,000	0	10,000	弁当、茶(幹事会 等)
交通費	10,000	200	9,800	会計監査連絡 等
慶弔費	50,000	22,000	28,000	
支払手数料	30,000	22,572	7,428	同窓会費 口座振替払い手数料など
公認会計士決算報酬費	110,000	110,000	0	
予備費/雑費	212,200	220	211,980	
合 計	10,850,200	7,620,869	3,229,331	

資産(繰越金)の部

(単位:円)

区 分	期首	期末	増減	備 考
定期預金	15,000,000	15,000,000	0	郵貯定期:500万円、旭川信金定期:1,000万円
普通預金	12,203,989	13,006,137	802,148	ゆうちょ普通:5,720,876円、信金普通:7,285,261円
その他	0	0	0	
合 計	27,203,989	28,006,137	802,148	

令和5年度収支計算書を監査し、適正であることを認めます。

令和6年5月29日 旭川医科大学医学部医学科同窓会 監事

令和6年 月 日 旭川医科大学医学部医学科同窓会 監事

長谷部 牛登美
小野 信男

令和6年度 旭川医科大学医学部医学科同窓会収支予算案

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

収入の部

(単位:円)

区分	令和6年度予算	令和5年度予算	増減(対本年度予算)	備考
入会金	200,000	200,000	0	入学時 2,000円×100名
会費	9,500,000	10,000,000	△ 500,000	
預金利息	200	200	0	
団体保険集金代行費	700,000	650,000	50,000	
その他	0	0	0	
合計	10,400,200	10,850,200	△ 450,000	

支出の部

(単位:円)

区分	令和6年度予算	令和5年度予算	増減(対本年度予算)	備考
1. 事業費	7,759,000	8,040,000	△ 281,000	
同窓会誌作製費	2,700,000	2,650,000	50,000	会誌第42号 誌面データ制作費 600,000 会員名簿更新費・新会員追加・会費納入状況等データ処理費 700,000 会誌発刊案内・会費払込用紙等印刷費、封入封緘作業費・配送費 1,400,000
医学奨励賞事業費	900,000	900,000	0	学術奨励賞・特別奨励賞 副賞 450,000 受賞者旅費 180,000 撮影(写真) 55,000 演台花、受賞者への花束、目録等 35,000 講演会会場一文字、表彰状、式次第印刷費 132,000 式典運営費 33,000 副賞振込手数料、その他雑費(選考委員会弁当代等) 15,000
同窓会入会案内印刷費	50,000	50,000	0	入学案内に同封
海外留學費用助成制度	500,000	800,000	△ 300,000	留学生への支援金(100,000円×5名)。
在学生各種事業支援費	200,000	100,000	100,000	医大祭支援 ※第50回の記念回につき、支援金増額
国試受験支援費	300,000	300,000	0	医師国家試験受験支援
卒後研修医支援事業費	950,000	950,000	0	二輪草センター「合同入局説明会」支援 100,000 卒後センター合同企画「臨床研修プログラム説明会」 700,000 卒後臨床研修症例発表会 150,000
卒業記念品費	230,000	210,000	20,000	47期生+院卒 予定計130名 (@1,500+税)
退職記念品費	440,000	440,000	0	令和5年度実績:4名
ホームページ管理費	639,000	540,000	99,000	同窓会HP・会員専用サイト管理費 462,000 サーバ・ドメイン・SSL認証等契約料 100,000 新卒会員登録費・住所録データ更新費 77,000
同窓会支部活動支援費	100,000	100,000	0	支部運営に係る通信費等(平成31年度第3回幹事会議決)
国際・全国学会等助成制度	500,000	500,000	0	10万円/1件、5件を上限として実施
その他事業費	250,000	500,000	△ 250,000	在学生支援施策を検討・実施する
2. 事務局費	2,641,200	2,810,200	△ 169,000	
事務局費	1,368,000	1,368,000	0	業務委託費等(月額169,000円=※1+※2) 月額 114,000※1
事務室管理費	210,000	180,000	30,000	事務室使用料 110,000 電話・電気・水道・コピー機使用料 100,000
団体保険集金代行費	660,000	660,000	0	団体加入保険関連業務委託費 月額 55,000※2
通信費	20,000	30,000	△ 10,000	郵便切手、メール便(幹事、同窓生との連絡)
備品費	50,000	50,000	0	事務局備品
消耗品費	50,000	90,000	△ 40,000	封筒、プリンター消耗品 他
交際費	10,000	10,000	0	支援下さる関係者
会議費	10,000	10,000	0	弁当、茶(幹事会 等)
交通費	10,000	10,000	0	会計監査連絡 等
慶弔費	50,000	50,000	0	
支払手数料	30,000	30,000	0	同窓会費 口座振替払い手数料など
公認会計士決算報酬費	110,000	110,000	0	
予備費	63,200	212,200	△ 149,000	
合計	10,400,200	10,850,200	△ 450,000	

資産(繰越金)の部

(単位:円)

区分	次年度予算額	本年度予算額	増減(対前年度予算)	備考
定期預金	15,000,000	15,000,000	0	郵貯定期:500万円、旭川信金定期:1,000万円
普通預金	11,000,000	11,000,000	0	
その他	0	0	0	
合計	26,000,000	26,000,000	0	

事務局からのお願い

1. オンライン住所録の登録・更新のお願い

第35号より、会員情報の取り扱いを「オンライン住所録」へ一本化しております。(平成29年第4回幹事会決議)

現住所、勤務先等に変更があった場合は同窓会ホームページ上のオンライン住所録からご自身で変更いただくか、あるいは事務局あてにメールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

令和2年度より、会員相互の交流をより深めていただくことを目的として、同窓会メールマガジンの配信も行っております。この機会に、是非ともオンライン住所録の更新並びにメールアドレスのご登録をお願い致します。

なお、オンライン住所録で変更頂く場合は、住所録設置時あるいは卒業時に交付したIDとパスワードが必要となります。IDとパスワードがご不明な場合には、事務局宛にメール又は郵便にてお問合せください。

2. 会員自宅住所等の問い合わせ

事務局に対して同窓会員または親族を名乗り会員自宅住所等の問い合わせがございましたが、当局ではいっさい返答しておりません。業者からの同窓会誌の提供・売却依頼にもお断りいたしております。また、事務局職員や同窓生を名乗り、皆様の住所を調査するために、勤務先やご実家へ電話をする業者があるようです。当局では電話で皆様のご住所を確認することは一切いたしておりませんのでご注意ください。不信に思われましたら即答せずに、同窓会事務局にお問い合わせ下さい。

同窓会ホームページについて

同窓会ホームページは <http://www.asahikawaidai.jp> です。

同窓会ホームページからリンクできる項目は「旭川医科大学」、「旭川医科大学病院」、「旭川医科大学図書館」、「学生団体(部・サークル)」、「全国大学(医学系・看護系・薬学系)一覧」、「各種証明証の発行方法」となっております。

「ドクター総合補償制度」のご案内

同窓会では、日常の医療に不可欠な「医師賠償責任保険」及び会員の疾病や不慮の事故で就業不能になった際に役立つ「所得補償保険」からなる『ドクター総合補償制度』の団体契約の窓口となっております。

掛金(保険料)は団体割引が適用され、個人で契約するよりも割安な保険料で加入することができます。(現在の割引率:勤務医師賠償責任保険20%、医療・がん保険10%、所得補償保険10%)

この保険の引受保険会社は東京海上日動火災保険(株)が、取引代理店は(株)第一成和事務所が行っております。

パンフレットをご希望の方は、同窓会事務局(mdosokai@asahikawa-med.ac.jp)までご連絡ください。

通常年会費と終身会費について

通常年会費は、30年間のお支払いで終了となります。それ以後につきましては、会則にありますように5万円を前納して頂くことで終身会員（終身会費納入者）となります。

終身会費はこれまで第1期生から第15期生の皆様についてお願いいたしました。今年度は第16期生の皆さまへお支払いのご案内をさせて頂いております。

なお、第1期から第15期生でまだ終身会費を払い込み頂いてない方には、今回改めてご案内させて頂いておりますので、よろしくお願い申し上げます。

会費納入などに関しまして不明の点がございましたら、同窓会事務局までご照会下さい。

会費 口座振替払い方法の導入について

同窓会費のご納入にかかる会員各位の利便性向上を目的として、事前にご登録頂いた口座から同窓会費を自動引き落としする「口座振替払い」方法を今期より導入いたしております。「口座振替払い」方法につきましては、集金代行サービス会社へ委託し、事前にご指定頂いた金融機関口座より毎年1月下旬ころ同窓会費を自動引き落としするものです。

お申込みの際には、同窓会事務局までその旨お申し出ください。申請書様式をご案内させていただきます。なお、口座振替払い方法をお申込み頂かなかった場合には、これまで通り、同窓会誌に併せて払込取扱票をお送り致しますので、お近くの郵便局より会費をご納入下さいますようお願い申し上げます。ご不明点等ございましたら事務局までお問い合わせください。

同窓会事務局への連絡について

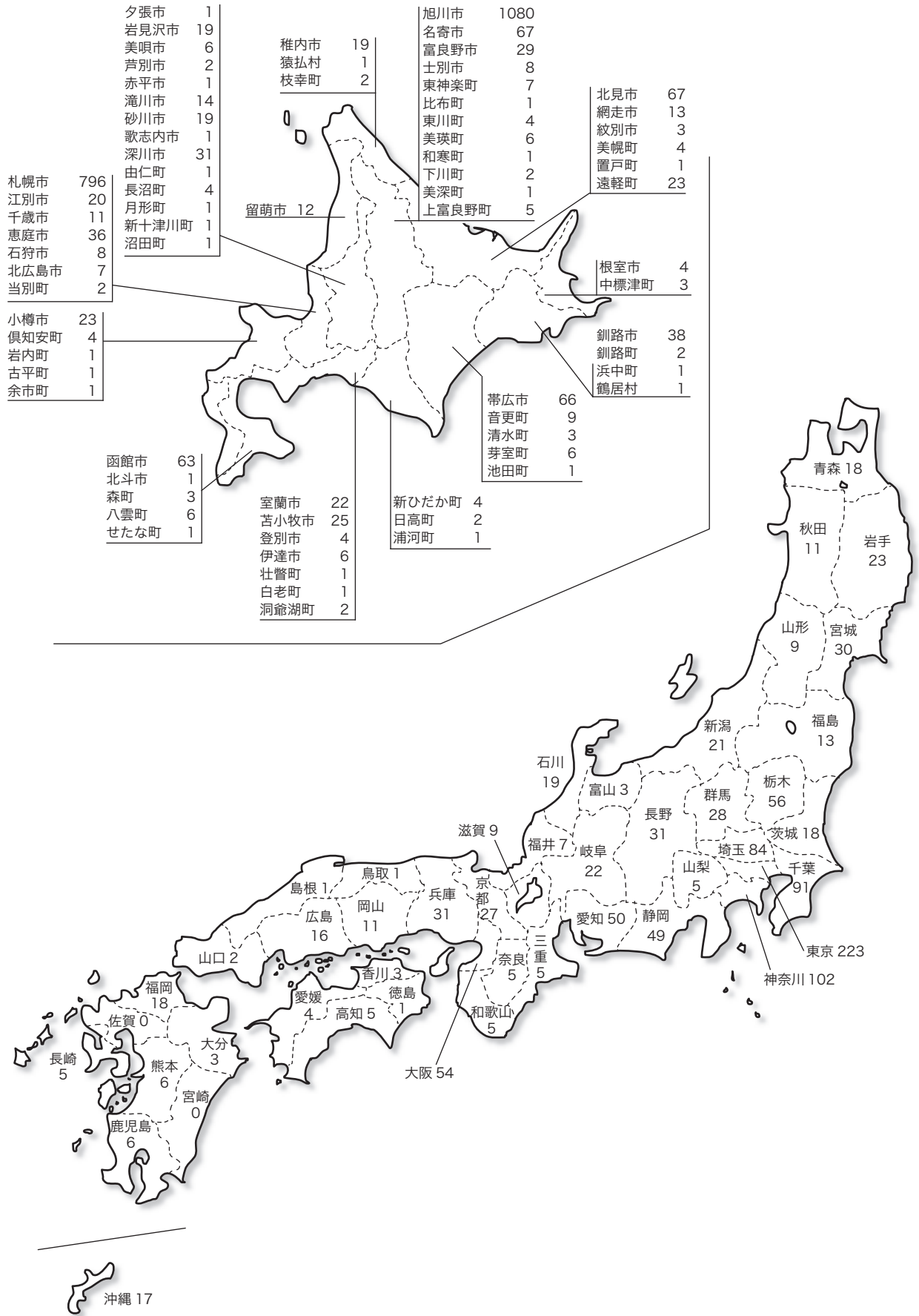
本会の専用事務室は、共用研究棟2階にございます。(実験実習機器センターから移転しました。)

事務局員は時間雇用(月水金 9:00～12:00)となっており、また、雇用時間内にて事務にかかるすべての業務を行っております。そのため担当者不在の時間帯が多くあり、電話に出られない場合があります。その場合はメール、FAX等でお問い合わせ頂ければ幸いです。会員の皆様にはご不便をおかけしますが、事情をご理解の上、ご協力下さるようお願いいたします。

事務局への連絡先などは次の通りです。

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
TEL・FAX 0166-68-2234
E-mail: mdosokai@asahikawa-med.ac.jp

勤務先	道内							道外							その他	海外	小計	死亡	合計	
	道南	道央	札幌	道東	道北	旭川	道内小計	東北	関東	東京	中部・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄						道外小計
第1期	0	3	6	4	3	17	33	6	7	6	7	1	2	1	30	2	0	65	13	78
第2期	0	9	22	3	4	19	57	2	1	7	0	2	1	1	14	4	0	75	12	87
第3期	4	6	19	10	2	18	59	0	9	4	5	1	1	3	23	1	0	83	6	89
第4期	6	7	14	8	4	22	61	2	6	7	6	2	3	0	26	3	0	90	8	98
第5期	1	8	24	3	5	25	66	2	9	1	5	4	2	3	26	3	0	95	4	99
第6期	2	11	24	4	2	21	64	2	9	4	4	1	1	0	21	5	0	90	5	95
第7期	2	7	17	10	4	27	67	2	14	1	4	1	1	3	26	11	0	104	9	113
第8期	2	18	20	7	3	28	78	2	8	7	3	1	5	2	28	7	0	113	1	114
第9期	3	13	31	9	4	19	79	4	7	11	6	4	4	1	37	5	1	122	2	124
第10期	2	12	33	11	2	19	79	3	14	2	1	4	1	0	25	6	0	110	0	110
第11期	3	13	26	16	4	20	82	4	16	8	4	1	2	0	35	3	0	120	3	123
第12期	2	6	24	11	3	21	67	3	15	9	5	2	1	1	36	16	1	120	2	122
第13期	3	18	15	5	8	13	62	3	8	13	10	1	2	2	39	13	1	115	6	121
第14期	2	9	22	9	4	22	68	4	18	8	3	0	2	0	35	8	1	112	1	113
第15期	4	7	30	6	8	29	84	5	4	4	0	1	1	0	15	12	1	112	3	115
第16期	6	17	31	5	1	26	86	1	7	5	8	2	0	3	26	3	0	115	4	119
第17期	1	10	32	6	0	20	69	0	7	4	1	0	1	1	14	15	0	98	0	98
第18期	1	7	22	2	7	19	58	2	7	4	6	0	0	1	20	18	1	97	2	99
第19期	0	4	20	6	3	16	49	3	12	5	6	2	0	1	29	18	0	96	0	96
第20期	0	5	23	6	2	13	49	3	10	4	5	0	1	0	23	27	1	100	0	100
第21期	0	7	15	4	2	20	48	3	10	6	5	2	2	0	28	21	2	99	0	99
第22期	0	7	13	7	6	21	54	6	7	6	6	4	1	0	30	17	2	103	0	103
第23期	1	2	15	3	3	25	49	1	11	7	3	2	2	1	27	21	2	99	2	101
第24期	3	7	20	2	1	20	53	2	10	5	5	3	1	1	27	14	1	95	2	97
第25期	1	4	13	3	3	22	46	1	8	6	5	0	3	1	24	20	1	91	1	92
第26期	3	3	18	4	2	12	42	2	8	3	3	5	1	0	22	44	0	108	0	108
第27期	0	1	13	6	4	14	38	2	7	3	5	3	1	1	22	40	1	101	0	101
第28期	0	4	11	5	3	14	37	1	10	5	4	0	1	3	24	38	0	99	0	99
第29期	1	3	14	6	2	15	41	1	7	8	3	2	2	2	25	27	1	94	1	95
第30期	0	0	15	3	2	24	44	3	17	7	4	3	4	2	40	10	2	96	0	96
第31期	1	1	20	4	2	20	48	4	8	5	11	5	0	1	34	19	0	101	0	101
第32期	2	1	9	0	0	30	42	4	5	3	4	4	0	1	21	30	3	96	0	96
第33期	1	3	12	3	1	12	32	0	13	11	11	2	2	2	41	20	0	93	0	93
第34期	0	4	9	6	1	13	33	1	9	2	5	3	5	1	26	32	1	92	0	92
第35期	1	1	7	2	3	12	26	4	8	2	5	2	2	0	23	45	0	94	0	94
第36期	0	2	7	2	5	40	56	4	7	1	8	3	2	1	26	16	0	98	0	98
第37期	1	3	8	5	4	27	48	0	6	3	1	1	3	1	15	36	0	99	0	99
第38期	2	7	26	9	7	37	88	1	5	5	4	3	1	0	19	20	1	128	0	128
第39期	4	8	25	11	15	27	90	1	8	3	3	5	2	3	25	10	1	126	0	126
第40期	4	8	17	3	11	27	70	0	9	4	1	4	1	1	20	9	0	99	0	99
第41期	2	9	13	7	7	48	86	1	11	6	7	7	3	2	37	10	0	133	0	133
第42期	1	0	1	0	1	7	10	1	0	0	0	0	0	0	1	119	0	130	0	130
第43期	0	1	2	2	1	2	8	0	0	0	1	2	0	0	3	94	0	105	0	105
第44期	0	0	4	2	1	12	19	0	3	1	0	0	1	2	7	97	0	123	0	123
第45期	0	1	2	0	0	2	5	0	2	1	1	0	0	0	4	113	0	122	0	122
第46期	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	130	0	133	0	133
小計	72	277	764	240	160	917	2430	96	377	217	194	95	71	49	1099	1102	25	4656	87	4743
大学院	1	2	4	2	3	16	28	0	2	0	3	1	2	2	10	26	0	61	0	64
合計	73	279	768	242	163	933	2458	96	379	217	197	96	73	51	1109	1125	25	4717	87	4804



同窓会歌

我等医学の徒

作詞 森田 昭之助
作曲 菊池 武志

1. みよ
2. たて
3. きけ

た い せ つ の い た い あ だ き を
に じ か か ん か む ぜ の き の を
じゅ ひょう の の か ぜ の こ こ を

あ さ ひ に は ゆ る そ の ゆ う し
き び し の い ろ の う つ く し
ま し ろ の こ の だ い ち

か ぐ ら の お か の ま な び や よ わ れ ら は き ほ の い が く の と
し ぜ ん の た く み に み せ ら れ る わ れ ら は き よ ら な い が く の と
り ん ぜ ん と し て た え し の ぶ わ れ ら は ふ く づ い が く の と

(1. つ き ぬ し ん り た ん き ゆ う に)
2.
3.

Poco a rit... *Ga tempo*

い の ち の ほ お を も や し つ つ い せ い の ち か い わ す れ す に ほ こ り
は げ み の こ お を や し な い つ つ や め る な り そ う わ か ち あ い き よ う か
と お と い し め い を さ と り つ た か さ り そ う は た さ ん と き か い

を い だ き (1. す す む な り)
ん し つ つ 2.
を し む ね に 3.

りー

りー す す む な りー

同窓会歌 我等医学の徒

森田昭之助・作詞
菊池 武志・作曲

一
見よ大雪の山頂を
朝日に映ゆるその雄姿
神楽の丘の学び舎よ
我等は希望の医学の徒
つきぬ真理の探究に命の炎を燃やしつつ
医聖の誓忘れずに、誇りを抱き進むなり

二
立て虹かかる神居の岸边
ユーカラの色の美しさ
自然の巧に魅せられる
我等は清廉な医学の徒
つきぬ真理の探究に精励の心を養いつ
病める悩みを分かちあい、共感しつつ進むなり

三
聴け樹水の風の声
厳しい真白のこの大地
凜然として耐え忍ぶ
我等は不屈の医学の徒
つきぬ真理の探究に尊い使命を悟りつつ
高き理想を果さんと、気概を胸に進むなり
進むなり

旭川医科大学 医学部医学科 同窓会会則

制 定	昭和 53 年 4 月 1 日
一部改定	昭和 63 年 4 月 1 日
”	平成 11 年 2 月 12 日
”	平成 12 年 6 月 21 日
”	平成 25 年 8 月 7 日
”	平成 26 年 10 月 17 日
”	平成 29 年 8 月 21 日
”	平成 30 年 10 月 15 日
”	令和 3 年 4 月 1 日
”	令和 5 年 11 月 1 日

第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 本会は、旭川医科大学医学部医学科同窓会（通称「旭川医科大学同窓会」）と称する。

(事務局)

第 2 条 本会は、事務局を旭川医科大学内に置き、幹事会の承認を得て支部を都道府県又は地区ごとに設けることができる。

第 2 章 目的及び事業

(目 的)

第 3 条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、旭川医科大学の発展並びに医学の進歩に寄与することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 同窓会誌の発行
- (2) 親睦会の開催
- (3) 会員の福利厚生に関する事業
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会 員

(会 員)

第 5 条 本会は、次に掲げる会員をもって構成する。

(1) 正会員

旭川医科大学（以下「本学」という。）医学部医学科を卒業した者、本学大学院医学系研究科博士課程を修了した者及び本学における研究歴を有し本学の博士の学位を取得した者

(2) 特別会員

本会の非正会員で、本学の現職の教授、准教授、講師、助教及び医員並びに元教授及び准教授（看護学科を除く。）

(3) 学生会員

本学医学部医学科に在籍する者及び本学の非正会員で本学大学院医学系研究科博士課程に在籍する者

(4) 名誉会員

本会に対する功労が顕著であつて、幹事会において推薦された者

第4章 役員

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 会長補佐 若干名
- (4) 常任幹事 若干名
- (5) 幹事 若干名
- (6) 監事 2名

(選出方法)

第7条 役員の選出方法は次のとおりとする。

- (1) 会長は、役員・幹事のうちから互選により選出する。
- (2) 副会長、会長補佐は、正会員のうちから会長が指名し、幹事会の承認を得るものとする。
- (3) 幹事は、各期から2名充てることとし、原則として、互選によるものとする。
- (4) 常任幹事は、幹事のうちから各期1名を充て、互選によるものとする。
- (5) 監事は、幹事会において正会員のうちから選出する。

(任期)

第8条 役員の任期は2年とし、再選を妨げない。ただし、会長の任期は連続して3期(6年)までとする。

2 役員は、任期満了後であっても後任者の選出があるまで、その職務を行わなければならない。

(任務)

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会務を分担執行する。会長に事故のあるときは、いずれかの1人がその職務を代行する。
- (3) 会長補佐は、会長及び副会長の職務を補佐する。
- (4) 幹事および常任幹事は、幹事会の構成員として重要会務の審議、決定に加わる。また、常任幹事は幹事会の委嘱を受け会務を分掌する。
- (5) 監事は、本会の会務及び会計の状況を監査する。

第5章 顧問

(顧問)

第10条 本会に、若干名の顧問を置く。

2 顧問は本会に役員として永年に渡り著しく貢献し、執行役員会が会務遂行上必要と認めた者で、幹事会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

3 顧問は、執行役員会、幹事会、及び総会及び評議員会に出席し、意見を述べることができる。ただし、採決には加わることはできない。

第6章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、幹事会、執行役員会とする。

(総会)

第12条 総会は、正会員をもって構成し、幹事会が必要と認めたとき、会長がこれを招集し、その議長となる。

2 総会は、正会員現在数の過半数が出席する会議をもって成立する。ただし、委任状による出席を妨げない。

3 総会の議決は、出席正会員の過半数をもって決する。

(幹事会)

第13条 幹事会は、会長、副会長、会長補佐、幹事、常任幹事より構成され、必要に応じて会長が招集する。

第14条

2 幹事会の議決は、構成員の過半数が出席する会議をもって成立する。ただし、委任状による出席を妨げない。

3 幹事会の議事は、出席構成員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

4 監事は、幹事会に出席し、監査結果を報告し、意見を述べるができる。

5 会長が急を要すると判断した事項については、審議の迅速化を図るために、メールを利用した幹事会(メール幹事会)又はウェブ会議を招集することができる。

6 次に掲げる事項は、幹事会の決議又は承認を得なければならない。

(1) 収支決算

(2) 会則の制定及び改廃

(3) その他本会の運営上の重要事項

7 前項各号のうち、会長が特に重要な事項と認めた案件は、総会において審議するものとする。

(執行役員会)

第15条 執行役員会は、会長、副会長、会長補佐をもって構成し、必要に応じて会長が招集し、議長となる。

2 執行役員会は、本会の事業を滞りなく遂行するために必要な事項を審議し、決議する。

3 執行役員会は、構成員現在数の3の2以上が出席する会議をもって成立する。ただし、委任状による出席を妨げない。

4 執行役員会の議事は、出席構成員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

5 監事は、執行役員会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

6 会長が急を要すると判断した議事については、審議の迅速化を図るために、メールを利用した執行役員会(メール執行役員会)又はウェブ会議を開催して審議し、構成員の過半数で決議することができる。

(学生会員の会議出席)

第16条 学生会員は、会長の要請に応じ、幹事会に出席することができる。

2 学生会員は、オブザーバーとし、議決権は有しないものとする。

第7章 会 計

(会 計)

第17条 本会の経費は、入会金、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれに充てる。

(会費等)

第18条 前条の入会金、会費は、次のように定める。

(1) 入 会 金 2,000 円

(2) 会 費 年額 4,000 円

(3) 終身会費 入会后 30 年を経た会員を終身会費納入資格者とし、以後の会員として 50,000 円を前納することで終身会費納入者とする。

(会計年度)

第 19 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日をもって終わる。

第 8 章 細 則

(会費の免除)

第 20 条 以下の会員については同窓会費を免除する。

- (1) 特別会員 本会則第 5 条 (2) に定める特別会員においては、本会則第 17 条に定める入会金及び年会費を免除する。
 - (2) 学生会員 本会則第 5 条 (3) に定める学生会員においては、本会則第 18 条に定める年会費を免除する。
 - (3) 名誉会員 本会則第 5 条 (4) に定める名誉会員においては、本会則第 17 条に定める年会費を免除する。
 - (4) 顧 問 本会則第 10 条に定める顧問においては、本会則第 17 条に定める年会費を免除する。
- 2 前項各号において年会費の免除を受けた会員においても、同窓会誌の送付並びに会員活動は本会則第 4 条に準ずるものとする。

第 9 章 そ の 他

(その他)

第 21 条 この会則に定めるもののほか、支部並びにその他本会の運営に関し必要な事項は、幹事会の議決を経て会長が別に定める。

附 則

- 1 この会則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 18 条第 2 号の規定にかかわらず既に納入されたものについては、従前の額とする。
- 3 第 17 条第 3 号の終身会費納入資格者で、会費を既に前納している者は、同号に規定する金額との差額を納入することで終身会費納入者となるものとする。
- 4 第 7 条第 3 号の規定にかかわらず、幹事の定員については当分の間、定員数にこだわらないものとし、その定員数は会長が定める。

附 則

この会則は、平成 12 年 6 月 21 日から施行し、平成 12 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この会則は、平成 25 年 8 月 7 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 26 年 10 月 17 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 29 年 8 月 22 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 30 年 10 月 15 日から施行する。

附 則

この会則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この会則は、令和 5 年 11 月 1 日から施行する。

慶弔費支出基準

幹事会決定

平成20年 5月19日

一部改定 令和 3年 6月14日

- 1 旭川医科大学医学部医学科同窓会（以下「本会」という。）の会員が破格の栄誉を受けた場合は、適宜、執行委員会で協議の上、祝意（祝電、花束）を表す。
- 2 本会に対し多大な貢献を行った者に対して、適宜、幹事会に諮り感謝の意を表し、記念品を奉じる。
- 3 会員の逝去を知りえた場合は、その旨を速やかに本会事務局に連絡する。
- 4 会員が逝去した場合、弔電及び供花などにより哀悼の意を表し、同窓会誌にて会員に周知する。
- 5 会員が逝去した場合の弔意は次のとおりとする。
 - (1) 弔電、供花 20,000 円相当
 - (2) 宗教上の理由又は逝去後の日数を経過して連絡を受けた場合若しくはご遺族が辞退した場合などにより、上記の内容で弔意を表せない又は表すことが不適切の場合は、執行役員会で協議の上、適宜対応する。
- 6 会員の疾病、災害を知りえた場合には、執行委員会で協議の上、対処する。
- 7 その他緊急性又は特別な事情により、この基準により難しい場合が生じた場合は、会長又は副会長の判断で処理し、後日幹事会に報告し承認を得るものとする。

附 則

この基準は、平成20年5月19日から実施する。ただし、この基準制定以前に処理したものについては、この基準により処理したものとする。

附 則

この基準は、令和3年6月14日から施行する。

同窓会支部会則

制 定 平成 29 年 12 月 22 日

(目的)

第 1 条 この規定は、旭川医科大学医学部医学科同窓会会則第 2 条および第 19 条に基づき設置する同窓会支部に関し、必要な事項を定め、その適正な執行を確保することを目的とする。

(構成)

第 2 条 同窓会支部の構成は当該地区に居住もしくは勤務する同窓会会員(支部会員)で構成される。

(役員)

第 3 条

1. 同窓会支部の活動を円滑に施行するために、支部会員の中から支部長 1 名、その任務を補佐する副支部長若干名を置く。
2. 支部長は支部からの推薦に基づき、同窓会長が指名する。但し、支部が構築されていない場合には、同窓会長が支部会員の中から指名する。
3. 支部長は同窓会幹事会を構成する一員となる、
4. 副支部長は、支部長が指名する。
5. 支部長、副支部長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(活動)

第 4 条 支部は次の活動を行う

- (1) 支部会員相互の親睦と交流を深めるとともに、当該地区の医療、医学の発展に寄与する。
- (2) 大規模災害・事故に被災した支部会員に必要な援助を同窓会に要請する。
- (3) 同窓会会長または副会長の要請に応じて旭川医科大学医学部医学科同窓会医学奨励賞の候補者となる支部会員を推薦する。
- (4) 支部の活動内容を同窓会の SNS、同窓会誌や同窓会の主宰する会において報告する。
- (5) その他、旭川医科大学医学部医学科同窓会の発展に必要な活動を行う。

(会員情報)

第 5 条 支部長は、支部の活動に必要と認められる場合に限り、当該地域に勤務または居住する会員の情報を支部会員へ開示・使用させることが出来るものとする。

第 6 条 支部長は、支部の活動に於いて知りえた支部会員の勤務先・住所・連絡先等の変更について、速やかに本会事務局へ報告を行うものとする。

(本会からの支援)

第 7 条 支部活動の原資は原則当該支部会員の負担とするが、以下の項目に係る経費については本会へ申請の上、支援を受けられるものとする。

- (1) 支部長から支部会員への連絡・通達に係る通信費
- (2) その他、幹事会または同窓会会長に適切と認められた支部運営に係る諸経費

旭川医科大学医学部医学科同窓会 医学奨励賞に関する規約

同窓会総会決定
平成11年8月21日
一部改定 令和3年4月1日

(目的)

第1条 旭川医科大学医学部医学科同窓会（以下「本会」という。）は、会則第4条第4項に基づき医学の発展と奨励のために優秀な業績に対して本会医学奨励賞を贈呈する。

(種類及び対象)

- 第2条 本会医学奨励賞は、学術奨励賞と特別奨励賞の2種類とし、年間それぞれ1件以内とする。
- 2 学術奨励賞は、顕著な基礎研究または臨床研究の業績を有し、将来、指導者として当該分野の発展に大いに貢献することが期待される申請時55歳以下の正会員を対象とする。
 - 3 特別奨励賞は、医師としての視点に立ち行われた社会性公共性を有する行為若しくは事業を行っている本会正会員の個人若しくは正会員の所属する団体を対象とする。年齢は問わない。

(応募資格)

第3条 本会医学奨励賞への応募資格者は本会正会員とし、過去の同窓会費を完納していることを条件とする。

(応募方法及び期間)

- 第4条 応募者は、別に定める様式により申請書、履歴書、論文目録、正会員1名以上の推薦書、主要論文3部の別刷を本会事務局に提出する。
- 2 応募は、随時受け付けるが、応募期限は当該年度の前年12月末日とする。

(選考委員会)

- 第5条 選考委員会は、旭川医科大学長（以下「学長」という。）より推薦された選考委員（以下「委員」という。）5名及び本会常任幹事1名の計6名により組織する。
- 2 本会会長は、各年度毎に学長に村し、委員5名の推薦を依頼する。
 - 3 委員の推薦は、学長に一任することとし、応募者の所属長、出身講座の教授及び推薦者を選出しないことを条件とする。
 - 4 本会会長は、学長から推薦された委員5名を本会医学奨励賞選考委員として委嘱する。
 - 5 選考委員長は、委員の互選により選出する。
 - 6 選考委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(選考審査方法)

- 第6条 選考審査を滞りなく遂行するために執行役員会は応募案件を事前に点検及び審査し、幹事会で承認を得られたものを選考委員会に推薦する。選考委員会は、応募案件を審査し、各賞受賞にふさわしい案件を選考する。
- 2 選考委員長は、その年の選考結果と選考過程を本会会長へ報告する。
 - 3 授賞の決定期限は、当該前年度末日とする。
 - 4 選考委員長は、選考過程と選考理由の概略を各年度の本会会誌に掲載する。

(授賞)

- 第7条 受賞者には、本会会長より授賞式において表彰状及び副賞を贈呈する。
- 2 副賞は、学術奨励賞20万円、特別奨励賞20万円とする。
 - 3 受賞者は、本会会誌に受賞業績に関する概要を掲載し、併せて授賞記念講演を行うこと

とする。なお、学術奨励賞については、その成果の公表を行うことを条件とする。
(規約の改正)

第8条 本規約に関する改正は、本会幹事会において行う。

附 則

この規約は、平成11年8月21日から施行する。

附 則

この規約は、平成13年9月10日から施行する。

附 則

この規約は、平成17年4月20日から施行する。

附 則

この規約は、平成23年6月29日から施行し、平成24年度受賞者から適用する。

附 則

この規約は、平成30年6月26日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年4月1日から施行する。

旭川医科大学医学部医学科 医学奨励賞募集要領

旭川医科大学医学部医学科同窓会は、創立20周年(平成11年)を記念し、同年から医学奨励賞(以下「本賞」という。)を設立致しました。本賞は、学術奨励賞と特別奨励賞の2賞からなり、それぞれの受賞候補者を募集致します。

1. 応募資格者

応募資格者は、次の各号に掲げる者とする。

- 1) 応募者は、旭川医科大学医学部医学科同窓会(以下「本会」という。)の正会員であること。
- 2) 応募者は、過去の本学会費を完納している者であること。
- 3) 医学研究又は医療活動において、学術的あるいは社会的に顕著な業績を上げ、または著名な貢献をした個人あるいは団体であること。

2. 対象及び受賞者

対象は、次の各号に掲げる業績あるいは活動に該当するものとする。

- 1) 学術奨励賞は、顕著な基礎研究または臨床研究の業績を有し、将来、指導者として当該分

野の発展に大いに貢献することが期待される申請時 55 歳以下の正会員を対象とする。

- 2) 特別奨励賞は、医師としての視点に立ち行われた社会性公共性を有する行為若しくは事業を行っている本会正会員の個人若しくは正会員の所属する団体を対象とする。年齢は問わない。
- 3) 授賞者は、各賞 1 名あるいは 1 団体とする。

3. 応募方法及び期間

- 1) 応募者は、申請書（旭川医科大学同窓会ホームページ（<http://www.asahikawaidai.jp/>）からダウンロード）、履歴書、論文目録、正会員 1 名以上の推薦書、主要論文 3 部の別刷を本会事務局に提出する。
- 2) 学術奨励賞申請者の論文目録には、英語原著論文の最新のインパクトファクター（IF）を記載するとともに、申請者が責任著作、又は実験・研究を直接指導した著作は、通し番号に○印を振る。うち責任著作の場合には*印を付す。また、目録の最後に英語原著論文数と IF のまとめ（総計と責任著作、指導著作に分けたもの）を記載する。
- 3) 応募期限は、当該年度の前年 12 月末日とする。

4. 受賞者の決定

- 1) 受賞者は「旭川医科大学医学部医学科同窓会医学奨励賞選考委員会」において選考し、決定する。
- 2) 授賞の決定は、当該前年度末日とする。
- 3) 応募者には、採否の通知をする。
- 4) 選考課程及び選考理由の概略は、各年度の本国会誌に掲載される。

5. 授賞

- 1) 本賞受賞者には、授賞式において、表彰状及び副賞（学術奨励賞 20 万円、特別奨励賞 20 万円）を贈呈する。
- 2) 受賞者は、授賞式後に授賞記念講演を行うと共に、その年度の本国会誌に受賞業績に関する概要を掲載するととする。
なお、学術奨励賞については、その成果の公表を行うこととする。

6. 応募書類等請求及び問い合わせ先

旭川医科大学医学部医学科同窓会事務局
〒078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号
TEL・FAX 0166-68-2234（月水金 9:00～12:00）
Mail mdosokai@asahikawa-med.ac.jp

海外留学費用助成制度規約

令和3年4月1日制定

(目的)

第1条 旭川医科大学医学部医学科同窓会（以下「本会」という。）は、本会会則第4条第3項に基づき会員の海外留学での研究支援を目的とし、海外留学費用助成制度（以下「本制度」という。）を定め、実施する。

(対象)

第2条 応募の対象は1年以上海外留学予定の国内に滞在している正会員、又は申請時から1年以上継続して滞在予定の海外留学中の正会員（但し、教授、及び准教授は対象から除外する。）で、申請時満45歳以下の者とする。

2 応募者は前年度までの会費を完納しており、かつ、応募後の会費及び終身会費の完納を確約しなければならない。

3 本制度の利用は正会員1名につき一度限りとする。但し、過去の応募で当選されなかった場合、再応募等、複数回の応募を妨げるものではない。

(応募方法及び期間)

第3条 応募者は、別に定める様式により、応募書類（申請書、留学先からの留学許可証の写し、履歴書、推薦書）各1部を本会事務局に提出する。

2 応募期間は当該年度の9月1日から12月31日とする。

(選考)

第4条 助成金受給者の選考は、会長の指名を受けた選考委員（本会副会長、会長補佐、及び幹事より選出）5名によって、行う。但し、申請者の所属長や関係者は選考委員になれない。選考委員長は委員の互選により選出される。

2 会長は選考委員会に出席し、意見を述べることができる。但し、採決には加わることはできない。

3 議長は委員長がこれにあたる。但し、委員長が選出されるまでは会長がこれにあたる。

4 委員の任期は、当該年度1年間とする。但し、再任を妨げない。

5 審査及び選考は応募書類によってのみ行い、助成件数は各年度とも原則として5件を上限とする。但し、当選件数が5件に満たなかった場合には、残りの助成枠を翌年へ振替、追加するものとする。

6 当選者の選考、及び実施は当該年度末日までに行い、選考結果を次年度の同窓会誌にて報告する。

(助成内容)

第5条 当選者へは海外留学費用助成金として10万円を授与する。

2 助成金の交付方法その他については当選者へ別途通知し、当該年度末日までに助成金の授与を行う。

(当選者の義務)

第6条 当選者は、留学期間中に申請内容の変更が生じた場合には、速やかに本会事務局へ報告しなければならない。

第7条 当選者は本会の依頼に応じて、同窓会誌等での報告を行わなければならない。

(助成金授与の撤回)

第8条 本会は当選者の留学期間中に、その申請内容に変更が生じた場合、変更の内容によって助成を取り消すことができる。その際、当選者は速やかに助成金を返還しなければならない。

2 助成の取り消しについては、選考委員の協議によって決定する。

(規約の改正)

第9条 本規約に関する改正は、本会幹事会において行う。

国際・全国学会等主催助成制度規約

令和5年4月1日制定

(目的)

第1条 旭川医科大学医学部医学科同窓会（以下「本会」という。）は、本会会則第3条の目的に基づき、医学の進歩に寄与すべく、会員による国際学会ならびに全国学会の主催に際し、国際・全国学会等主催助成制度（以下「本制度」という。）を定め、実施する。

(対象)

第2条 本会の正会員で、国際学会ならびに全国学会を主催予定の者。

2 応募者は前年度までの会費を完納しており、かつ、応募後の会費及び終身会費の完納を確約しなければならない。

(応募方法及び期間)

第3条 応募者は、別に定める様式により、応募書類（申請書、主催する学会の概要、履歴書）各2部を本会事務局に提出する。

2 応募期間は当該年度の4月1日から6月30日とする。

(選考)

第4条 助成対象者の選考は、会長の指名を受けた選考委員（本会副会長、会長補佐、及び幹事より選出）5名によって行う。但し、申請者の所属長や関係者は選考委員になれない。選考委員長は委員の互選により選出される。

2 会長は選考委員会に出席し、意見を述べる事ができる。但し、採決には加わることはできない。

3 議長は委員長がこれにあたる。但し、委員長が選出されるまでは会長がこれにあたる。

4 委員の任期は、当該年度1年間とする。但し、再任を妨げない。

5 審査及び選考は応募書類によってのみ行い、助成件数は各年度とも原則として5件を上限とする。

6 応募数が前記5に定める件数を超過している場合には、以下を指標として助成対象者を選考するものとする。なお、以下の指標は記載順での適用を基本とする。

① 国際学会を上位とする

② 過去に本制度の適用を受けた者はその回数に応じて下位とする

③ 申請者のうち、本会会員歴の長い者を上位とする

7 選考、及び実施は当該年度末日までに行い、選考結果を次年度の同窓会誌にて報告する。

(助成内容)

第5条 助成対象者へは国際・全国学会等主催助成金として10万円を授与する。

2 助成金の交付方法その他については当選者へ別途通知し、当該年度末日までに助成金の授与を行う。

(当選者の義務)

第6条 助成対象者は、助成対象となった国際・全国学会等の開催に際し、本会からの助成を受けたことを公開すること。

第7条 助成対象者は、主催学会の準備および開催期間中に申請内容の変更が生じた場合には、速やかに本会事務局へ報告しなければならない。

第8条 助成対象者は本会の依頼に応じて、同窓会誌等での報告を行わなければならない。

(助成金授与の撤回)

第9条 本会は助成対象者の申請内容に変更が生じた場合、変更の内容によって助成を取り消すことができる。その際、助成対象者は速やかに助成金を返還しなければならない。

2 助成の取り消しについては、選考委員の協議によって決定する。

(規約の改正)

第10条 本規約に関する改正は、本会幹事会において行う。

同窓会役員名簿

会 長	藤 谷 幹 浩	第 11 期	
副 会 長	東 信 良 蒔 田 芳 男 中 條 拓	第 7 期 第 9 期 第 6 期	幹 事 財務・会計および会則 総務・会員情報 会員支援（福利厚生）
会長補佐	水 上 裕 輔 小 林 博 也 谷 野 美智枝 船 越 洋 西 條 泰 明 冲 崎 貴 琢 熊 井 琢 美	第 15 期 第 13 期 第 15 期 第 9 期 第 14 期 第 20 期 第 30 期	総務 財務 会計・広報 会員情報（学術） 広報（HP・Facebook） 広報（会誌） 会員支援・交流（地域支部・LINE&Instagram）
監 事	長谷部 千登美 小野寺 信 男	第 2 期 第 4 期	
顧 問	斎 藤 達 也 千 葉 茂	第 1 期 第 1 期	

常任幹事				幹 事			
第 1 期	牧 野 憲 一	第 23 期	類 家 拓 也	第 1 期	藤 本 武 利	第 23 期	野 原 史 勝
第 2 期	坂 本 尚 志	第 24 期	高 橋 弘 典	第 2 期	田 川 博	第 24 期	大 坪 誠
第 3 期	三 代 川 齐 之	第 25 期	齋 藤 司	第 3 期	川 村 祐 一 郎	第 25 期	山 口 一 豪
第 4 期	原 渕 保 明	第 26 期	上 野 伸 展	第 4 期	西 村 慶 太	第 26 期	森 川 文 淑
第 5 期	山 本 明 美	第 27 期	宮 本 正 之	第 5 期	紀 野 修 一	第 27 期	吉 澤 明 希 子
第 6 期	奥 村 利 勝	第 28 期	鈴 木 裕 子	第 6 期	中 條 拓	第 28 期	石 羽 澤 明 弘
第 7 期	稻 葉 聡	第 29 期	石 戸 谷 俊 太	第 7 期	太 田 勲 男	第 29 期	安 藤 勝 祥
第 8 期	神 谷 和 則	第 30 期	熊 井 琢 美	第 8 期	黒 田 健 司	第 30 期	長 谷 部 拓 夢
第 9 期	平 義 樹	第 31 期	佐 藤 恵 輔	第 9 期	蒔 田 芳 男	第 31 期	浅 野 目 明 日 香
第 10 期	高 橋 正 年	第 32 期	海 野 茂 樹	第 10 期	今 井 政 人	第 32 期	長 谷 部 智 美
第 11 期	小 笠 寿 之	第 33 期	宮 田 雅 大	第 11 期	村 上 正 道	第 33 期	青 木 友 希
第 12 期	木 ノ 内 玲 子	第 34 期	櫻 井 由 香 里	第 12 期	瀧 澤 克 己	第 34 期	佐 藤 裕 基
第 13 期	西 條 晴 美	第 35 期	安 田 麻 美	第 13 期	釋 文 雄	第 35 期	高 取 恭 平
第 14 期	山 上 英 樹	第 36 期	早 坂 太 希	第 14 期	上 口 権 二 郎	第 36 期	針 生 珠 海
第 15 期	籠 川 浩 幸	第 37 期	小 松 田 浩 樹	第 15 期	井 上 裕 靖	第 37 期	今 野 杏 美
第 16 期	田 村 義 之	第 38 期	佐 久 間 寛 史	第 16 期	小 幡 雅 彦	第 38 期	緒 方 美 季
第 17 期	石 本 隆 広	第 39 期	宮 原 樹 里	第 17 期	北 野 陽 平	第 39 期	渡 辺 栞
第 18 期	高 杉 和 雄	第 40 期	大 湊 久 貴	第 18 期	小 原 和 宏	第 40 期	仲 野 り り こ
第 19 期	佐 藤 克 彦	第 41 期	安 藤 玲	第 19 期	朝 井 裕 一	第 41 期	紙 谷 ひ かる
第 20 期	山 口 祐 司	第 42 期	相 原 宏 紀	第 20 期	栗 山 周 子	第 42 期	滝 口 僚 也
第 21 期	横 田 陽 匡	第 43 期	竹 内 健 汰	第 21 期	西 川 典 子	第 43 期	佐 藤 湊 斗
第 22 期	数 野 圭	第 44 期	榎 本 克 朗	第 22 期	高 橋 淳 士		

同窓会支部

支 部	支 部 長	会 員 数	支 部 域
札幌支部	田 川 博 (第 2 期)	880 名	札幌市近郊
帯広支部	廣 瀬 茂 人 (第 1 期)	85 名	帯広市近郊
釧根支部	浅 野 一 弘 (第 11 期)	42 名	釧路市・根室市 他
名寄支部	畑 山 尚 生 (第 6 期)	76 名	名寄市・士別市 他
北見支部	稲 葉 聡 (第 7 期)	111 名	北見市・網走市・紋別町・遠軽町 他
函館支部		74 名	函館市・北斗市・森町 他
青森支部	町 田 光 司 (第 1 期)	18 名	青森県
秋田支部	山 本 浩 史 (第 5 期)	11 名	秋田県
岩手支部	中 隴 克 己 (第 11 期)	23 名	岩手県
東京支部	斎 藤 達 也 (第 1 期)	607 名	関東全域
新潟支部	本 間 則 行 (第 4 期)	21 名	新潟県
信州支部	中 沢 洋 三 (第 18 期)	31 名	長野県
中部支部	佐 藤 元 彦 (第 9 期)	77 名	愛知県・岐阜県・三重県
関西支部	大 河 原 知 水 (第 9 期)	131 名	大阪府・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県・兵庫県
愛媛支部	長 野 洋 司 (第 5 期)	4 名	愛媛県
九州支部	柳 沼 裕 二 (第 7 期)	38 名	九州 7 県
米国支部	佐 竹 典 子 (第 12 期)	12 名	米国域
欧州支部			欧州域

支部への会員情報提供について

今後、同窓会支部の活動を活発化させるにあたり、各支部域の会員情報を各支部長へ開示し、支部活動に利用していただく様になります。(支部会則 第 5 条、第 6 条)



編集後記

同窓会会長補佐・同窓会誌編集委員長
放射線医学講座教授

沖崎 貴琢

(第20期生)

同窓会誌第42号をお届け致します。2024年より11期卒業の藤谷幹浩先生が同窓会会長にご就任され、私たちも新たなリーダーの下で新体制のスタートを切ったところです。どうぞ宜しくお願い致します。

2019年に始まったコロナ禍もやっと落ち着き、対面での学会開催や情報交換会の開催も見かけられるようになってまいりました。病院内のマスクの着用はこれからも続きそうですが、数年前と比較すると状況は大きく変化しました。また、2024年12月に決定された、今年の世相を表す漢字は「金」の一字でした。振り返って見ると「金」は2000年、2012年、2016年、2021年に続く5回目の選出で、今年パリで開催されたオリンピック・パラリンピックでの各選手の活躍が印象深かったことが選出の一因であろうと思われます。今回のオリンピックでは日本はアメリカ合衆国、中国に次いで世界第三位のメダル獲得数となりました。加えて政治における裏金問題も選挙結果に影響を及ぼしましたし、闇バイトによる強盗殺人事件が連続するなど、治安の悪い一面も報道で注目され、通貨としての「金」の意味も含まれていることでしょう。

本号では3月をもって退職された山本明美教授、川村祐一郎教授に御寄稿頂きました。本学での学生教育及び病院の運営に大変なご尽力を賜りましたこと、改めて御礼申し上げます。長きに渡り、本当にありがとうございました。

また、今年は新たに中川直樹教授（内科学講座 循環器・腎臓内科学分野）、高原幹教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）、池上将永教授（心理学）、眞山博幸教授（化学）が御就任されました。4名の皆様から今後の抱負について執筆を頂きました。それぞれの講座の益々のご発展を祈念し、また同時に本学の更なる躍進を期待したいと思います。

支部便りとしては、札幌支部の千葉篤先生、名寄支部の畑山尚生先生、根釧支部の黒川聰則先生、新潟支部の本間則行先生、信州支部の中沢洋三先生よりご寄稿頂きました。ご執筆頂きまして誠にありがとうございました。

第23回医学奨励賞は学術奨励賞を19期卒業の須藤英毅先生が、特別奨励賞を7期卒業の渡邊昭仁先生が受賞されました。授賞式の際には須藤先生は「運動器疾患における革新的診断・治療法の研究開発」、渡邊先生は「頭頸部表在癌の診断と低侵襲治療の確立」というタイトルで本学にてご講演頂きました。お二人の先生方の今後益々のご活躍を期待しております。

本誌の号数は偶数ですので、慣例に倣い「各期だより」が掲載されております。各期の幹事の先生方には大変ご多忙中のところ、ご尽力頂きありがとうございました。

最後になりましたが、同窓会員の皆様のご健康と成功をお祈りし、今後も同窓会への御支援、御鞭撻、御協力を宜しくお願い申し上げます。

